

平成30年度 全国及び市学力・学習状況
調査結果分析及び改善策について

平成30年(2018)10月10日

出雲市教育委員会

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査の結果分析及び改善策について

出雲市教育委員会では、学校、家庭及び地域による学力向上の取組をより一層推進していくために、全国及び市学力・学習状況調査の学校別結果を公表します。

公表校は、調査対象学年の児童生徒数が16名以上である学校です。

「全国及び市学力・学習状況調査結果分析及び改善策」をご覧になる際には、下記の点にご留意いただきますようお願いいたします。

記

- 1 この学力調査結果は、学力の特定の一部であり、学力のすべてを表すものではありません。
- 2 結果分析からは、学校における教育指導だけでなく、家庭学習時間や規則正しい生活習慣、家族と学校での出来事について話すこと、地域や社会での出来事に関心があること等も、学力との関連が深いという結果が得られています。
- 3 この調査結果を参考に、学校及び教育委員会は、学力向上のための改善策に取り組んでいきます。ご家庭では、家庭での改善への取組内容をご確認いただき、学校と協力した取組を進めていただきますようお願いいたします。

また、地域の皆様には、学校の教育活動の充実のために、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。

《参考》

1 平成30年度の全国学力・学習状況調査の概要

(1) 実施期日 平成30年4月17日(火)

(2) 対象学年及び教科

小学校6年生〔国語・算数・理科〕 中学校3年生〔国語・数学・理科〕

※ 教科に関する調査のほかに、生活習慣や学校環境に関する調査を実施

2 平成30年度の出雲市学力・学習状況調査の概要

(1) 実施期日 平成30年4月17日(火) 18日(水)

(2) 対象学年及び教科

小学校4年生〔国語・算数〕 小学校5年生〔国語・算数・理科・社会〕

小学校6年生〔社会〕

中学校2年生〔国語・数学・理科・社会・英語〕

※ 小学校第4・5学年及び中学校第2学年には、教科に関する調査のほかに、生活習慣や学校環境に関する調査を実施

3 公表校及び公表の方法

(1) 公表校 調査対象学年の児童生徒数が16人以上である学校

小学校 24校

今市小	大津小	塩冶小	神戸川小	高松小
長浜小	四絡小	高浜小	北陽小	神西小
平田小	灘分小	国富小	さくら小	東小
多伎小	湖陵小	大社小	荒木小	遙堪小
荘原小	西野小	中部小	出東小	

中学校 14校

第一中	第二中	第三中	河南中	浜山中
南中	平田中	向陽中	佐田中	多伎中
湖陵中	大社中	斐川東中	斐川西中	

(2) 公表の方法 出雲市ホームページ上で公表

4 用語の解説

① 「平均正答率」

各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合(%)を国、県、市町村単位で平均した値。

② 「観点」

指導や評価のために、児童生徒が身に付けた力を分析的に捉える視点。「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つ。

③ 「領域」

各教科の学習内容を系統的に示したもの。算数であれば「数と計算」など。

④ 「A問題」「B問題」

全国学力・学習状況調査の国語及び算数・数学において、主として「知識」に関する問題が「A問題」、主として「活用」に関する問題が「B問題」。

目 次

【小学校】

今市小学校	6
大津小学校	10
塩冶小学校	14
神戸川小学校	18
高松小学校	22
長浜小学校	26
四絡小学校	30
高浜小学校	34
北陽小学校	38
神西小学校	42
平田小学校	46
灘分小学校	50
国富小学校	54
さくら小学校	58
東小学校	62
多伎小学校	66
湖陵小学校	70
大社小学校	74
荒木小学校	78
遙堪小学校	82

荘原小学校	86
西野小学校	90
中部小学校	94
出東小学校	98

【中学校】

第一中学校	102
第二中学校	106
第三中学校	110
河南中学校	114
浜山中学校	118
南中学校	122
平田中学校	126
向陽中学校	130
佐田中学校	134
多伎中学校	138
湖陵中学校	142
大社中学校	146
斐川東中学校	150
斐川西中学校	154

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立今市小学校

記号について

○: 成果

●: 課題

□: これからの取組

1 本校の結果の概要

- 国語の「話す・聞く能力」については、どの学年も概ね定着している。
 ●国語の「読むこと」のうち、説明文の段落の役割を理解して読み取ることに課題が見られる。
 ○算数では、4年生は「量と測定」（時刻と時間、長さや重さなど）で、5年生は「数量関係」（グラフの読み取り）で、6年生は「図形」の領域でそれぞれ強みが見られる。
 ●算数の単位の換算や余りの処理、概数の表し方などには、課題が見られる。
 ○理科では、5・6年生ともに「生命・地球」に関する領域に強みが見られる。
 ●理科の「物質・エネルギー」領域では、どちらの学年も知識・理解面に課題が見られる。
 ○社会科では、5・6年生ともに既習の知識・理解に関する内容について、概ね定着している。

2 分析結果と改善策

(1) 各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○漢字の読み書きはできている。 ○題意に従って話を聞き取ることができる。 ●説明文の内容を的確に読み取ることが難しい。 ●与えられた条件に合わせて作文をすることが難しい。	□条件を設定した作文指導を反復して行う。 □授業の振り返りで、条件を定めた上で、短くまとめて話したり書いたりするような機会を設ける。
	5年	○漢字の読み書きは概ねできている。 ○1つ1つの話の中心に気をつけて聞き取れることはできている。 ●いくつかの話題の共通点や相違点を意識しながら話を聞く力は十分でない。 ●説明文で、段落がもつ役割を意識しながら内容を読み取ることができていない。	□共通点や相違点、同類の話題か次の話題かなど、切れ目やまとまりを意識した聞き方とメモの取り方を指導する。 □各文の主語を意識させたり、接続詞に着目して内容を図式化させたりして、文章構成を捉える力をつける。
	6年	○物語文の読み取りは概ねできている。 ●抽象的な言葉に置き換えることに課題がある。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字の音訓をセットで覚えていない児童がいる。 ●目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を理解できていない。	□具体例が上がっているものを、まとめた言い方に置き換える学習を反復して行うことで、上位概念の語彙を増やす。 □音訓と意味の結びつきを繰り返しつかむ練習をしたり、より多くの熟語や使い方に触れる指導をする。 □説明文の構成の仕方を、構成図などを通して指導する。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○四則計算や小数の仕組みなどの基本的な学習内容は理解している。 ●繰り下がりのある整数－小数の筆算が難しい。	□複数桁にわたって繰り下がる問題を定期的に反復練習する。
	5年	○わり算の計算をしたり、分度器を用いて角度を求めたりすることが正しくできる。 ●問題文や面積図を読み取り、問われている単位で面積を求めることが難しい。 ●対角線や平行、垂直など四角形に係る概念が十分に定着していない。	□問題をよく読み、与えられた情報と、求められている条件を理解する力をつけていく。 □図形に係る学習用語を適切に用いて説明する活動を、授業の中で設定することにより確実な定着を図る。
	6年	○四則計算や角度を測る、グラフの読みとりなど、基本的な学習内容は概ね理解している。 ●課題解決に必要な条件や数値を正しく抜き出し、考える力に課題がある。	□複数の表やグラフを扱うときは、課題解決に必要な情報を取捨選択しながら確認し、資料を読みとる力をつけていく。
社会	5年	○「安全なくらしー交通事故や事件」に関する内容を正しく理解している。 ●グラフから分かることを読み取ったり、複数の資料を組み合わせて考えたりする力に課題がある。	□グラフの読み取り方を繰り返し指導していく。 □図書館の統計資料等も活用しながら、資料から考える経験をたくさん積み重ね、資料を読み取る力を育てていく。
	6年	○「自動車をつくる工業」や「わたしたちの生活と環境」の学習内容を、概ね理解している。 ●学習用語を正しく理解していない。	□教科書に掲載されている「ことば」を中心に、学習用語の定義・意味を正しく理解させ、学習用語を用いて授業のまとめや自分の考えを書く指導を継続的に行う。 □グラフや図、写真などから分かることや考えられることを文章でまとめさせ、資料を丁寧に読み取る指導を継続的に行う。
理科	5年	○「月と星」や「物のあたたまり方」の学習内容をよく理解している。 ●気温の変化を表わすグラフの変化と天気の関係について、十分結び付けて理解していなかった。 ●学習した内容を応用して提示されることで、理解している内容を正しく活用できない。	□「気温」や「一日の変化」などのキーワードを使って、グラフの変化について説明できる力をつける。 □実験した内容を生活に結び付けて考えたり、説明したりする力をつけさせる。そのために、授業のなかで児童が学習したことをもとに説明したり、ノートに記述したりする機会を増やしていく。
	6年	○「動物のからだのつくりと運動」の学習内容をよく理解している。 ○2つの異なる方法の実験結果を分析して考察することができた。 ●「食塩を水に溶かした時の全体の重さを選ぶ」問題などに対する答え方を正確に把握して記述することができなかった。	□食塩は水に溶けても重さは変わらないことを実験を通して、さらに強調して確認する。 □問題を正確に把握させるために、何を調べる実験なのか確認したり結果のまとめ方が、問題に対する正しい解答になっているか確認させる。

(2)市教育委員会の改善策

- 教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「読解力の育成」）について、指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
- ICT機器等の整備を推進することにより、各学校における授業改善や児童生徒の学習意欲向上を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○「テレビのニュースを見ている」という問いについて肯定的に答えた4年生児童の割合が、全国平均に比べて大きく上回り、8割を超えている。朝の会でニュースに関わるスピーチを設定していることもあり、社会の出来事に関して興味・関心を持っていることがうかがえる。 ○5年生では、「各教科の宿題をきちんとしている。」という問いに肯定的に回答した児童の割合は9割以上で、家庭学習の習慣化が図られていることがうかがえる。また、「自分で勉強の計画を立てて勉強している。」という問いに、肯定的な回答をした児童の割合は全国平均値を5ポイント以上上回っており、目的意識をもって取り組めるようになってきていることがうかがえる。 ○6年生では、「学校の授業時間以外に平日1日あたりどれくらいの時間勉強しますか。」という問いに、1時間以上と回答した児童の割合は、出雲市平均値を大きく上回っている。また、「家の人から言われなくても進んで勉強している。」という問いに、肯定的な回答をした児童は8割以上で全国平均値を大きく上回っており、家庭学習の習慣化が図られていることがうかがえる。 ●「勉強に辞書（電子辞書）を利用している。」という問いに対する肯定的な回答は、どの学年も昨年度に引き続き、全国平均値を大きく下回っている。このことから、学校の宿題はしているが、学習内容を深めようとしたり、分からないことに対して辞書を活用して解決しようとしたりする意識が低いことがうかがえる。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○朝食については、ほとんどの児童が「きちんと食べている」と回答していた。また、「家の人といっしょに食べている。」という児童は全国平均値よりやや上回っている。 ●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という問いに対する肯定的な回答が、それぞれ全国平均値よりも大きく下回っており、家庭で規則正しい生活を送ることができていない児童が少なからずいることがうかがえる。 ●「携帯電話やスマートフォンの使い方、テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていく」という問いに、肯定的な回答をした児童の割合は全国平均値を大きく下回っており、メディア利用のルールが確立されていないことがうかがえる。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○生活習慣・家庭学習・家庭での読書に関する取組 →取組期間中は、学年の家庭学習の目安を意識して頑張ろうとする児童が多い。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	□「家庭学習の手引」を読み、家庭学習の時間確保など家庭学習の充実を目指して親子で話し合い、取組を見守る。 □学校図書館や中央図書館を利用し、家庭に本がある環境を整え、家庭で時間を決めて、親子読書に取り組む。 □生活習慣に関する中学校区の取組を通して、各家庭でメディア接触を減らすための目標を立てて取り組んだり、学年・学級通信、メディアに関する講演会などを参考に親子で話し合ったりする。 □学校からのお便りや地域からのお便りを親子でよく読んで、地域の行事に積極的に参加する。
学 校	□「家庭学習の手引」を活用して、家庭学習についての指導を各学級でくり返し行う。 ・学年の家庭学習の目安を示す。 ・学年に応じた自主学習の取組に関する指導を行い、主体的な家庭学習になるようにする。 ・よい取組を行っている児童の自学ノートを紹介したり、自学ノートを児童同士で見合う活動を行ったりして、自主学習の幅や内容がより充実したものになるように指導する。 □家庭での読書に関する取組を継続する。 ・「うちどく週間」を定期的の実施し、家庭での読書を促す。 □生活習慣・家庭学習に関する取組 ・「すこやか週間」を月に1回1週間、「家庭学習パワーアップ週間」を年に4回1週間ずつ行い、その結果を家庭にお便りで発信し、家庭での家庭学習のふり返りや次への意欲づけを継続的に行う。
教育委員会	□調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 □教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 □各学校が作成した「家庭学習の手引」をオロチネットで互いに閲覧できるようにし、各学校が他校の取組を参考にしながら自校の家庭学習定着に向けて取り組めるよう支援する。

い つも確認 家庭のルール

ず っと続ける 家庭学習

も っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大津小学校

記号について

○: 成果

●: 課題

□: これからの取組

1 本校の結果の概要

<全国>

○各教科とも全国平均並みの結果を残している。

(国語・算数のA問題、B問題ともに平均並みの結果であった。)

○算数と理科について聞かれた項目では、「勉強が好き」「勉強は大切」と思っている児童の割合が高く、全国平均を大きく上回っていた。

●記述式の問題において、選択式の問題に比べ正答率が大きく下がっていると同時に、全国平均に比べ無解答の割合が高い。この傾向は教科を問わず見られた。

●下学年(3・4年生)での既習内容について、十分理解できていない内容があることが明らかとなった。

<出雲市>

○4年生の国語・算数、5年生の国語では、全国の平均正答率を上回るか同程度の結果であった。

○家庭学習に進んで取り組める児童の割合が高く、家庭学習の習慣が身についている。

●5年生の社会・算数・理科、6年生の社会では、全国の平均正答率を下回っている。

2 分析結果と改善策

(1) 各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○話の内容を聞き取る ○調べたことを発表する ○作文 ●言葉の学習	□読んだり聞いたりした内容を要約し、相手に分かりやすく伝える活動を行う。 □主語、述語と接続語の働きを理解し、正しく使う学習を継続的に行う。 □国語辞典、漢字辞典を積極的に活用し、語彙力を高める。
	5年	○漢字を読む ○漢字を書く ○物語の内容を読み取る ●ポスターを作る	□書く活動の充実：ただ書くのではなく、目的や条件に応じて書く活動を行う。 □国語で学習したことが他教科や生活の中でも活かせるよう、関連を図っていく。
	6年	○話の内容を聞き取る ○物語の内容を読み取る ●漢字を書く ●文章を書く	□漢字指導の重視：くり返し取り組めるようにするとともに、活用を意識した指導を行う。 □書く活動の重視：条件に合わせて書くことで、相手や目的を意識した文章が書けるようにする。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○かけ算 ○円と球・三角形 ●大きい数・小数・分数 ●わり算 ●時こくと時間	□角の大きさ、垂直と平行、いろいろな四角形について継続的に分度器やコンパスを活用した作図技能を高める学習を行う。 □除数が2位数に拡張したわり算では、既習内容を生かし、仮商を立てる経験を重ねて習熟を図る。
	5年	○わり算 ○分数 ●角の大きさ ●面積 ●折れ線グラフと表	□他教科との関連を図り、グラフや表の活用を図る。 □既習の内容の理解を深めるために、単元の導入などで下学年での学習内容の確認をするようにする。 □三角定規や分度器、コンパスなどを用いた操作活動を充実させる。
	6年	○角の大きさ ○図形 ●グラフの読み取り ●円 ●記述する問題	□グラフの読み取り：棒グラフや折れ線グラフを正確に読み取り、分かったことを言語化したり記述したりする。また、他教科での資料の活用との関連も意識的に取り入れていく。 □円の学習の重視：円周率を用いた内容（円周や面積、体積）を重点的に取り上げ、作図などの操作活動とも関連付ける。 □言語活動の充実：自分の考えを言語化する機会をより充実させる。
社会	5年	○安全な暮らし ○くらしを支える水 ●ごみの処理と利用 ●地図の見方 ●県の様子	□地図記号について復習する機会を設ける。 □積極的に地図帳を活用することで、地図を読み取る機会増やす。 □教えるべき内容をしっかりと教え、資料（写真、グラフ、表）と資料を関連付けた読み取りができるようにする。
	6年	○日本の国土と人々のくらし ○日本の食料生産 ●日本の農業と水産業 ●工業生産と工業地域 ●工業生産と貿易	□日常生活との関連を図る：農業や工業が自分たちの生活とどのようにつながっているのかを理解し、実感のある学びにする。 □食との関連を図る：農業や水産業、貿易の役割を身近な生活と関連付ける。
理科	5年	○1年間の動物の様子 ○動物のからだのつくりと運動 ●天気の様子と気温 ●電気のはたらき ●自然の中の水	□子どもたちの生活経験を引き出すことを意識した授業展開を心がけ、科学的な知識理解ができるようにする。 □理解したことが生活の中で実感できるような声かけを行う。 □実験だけで終わらず、何が分かったのかを言葉や文章で表出できるようにする。
	6年	○流れる水の働き ○動物のからだのつくりと運動 ●電気回路 ●太陽の位置の変化 ●物の溶け方	□下学年での既習内容の復習 □実験方法への理解：実験内容の理解だけでなく、正しく安全に行うための方法の理解も重視していく。 □実験や観察など、結果の記録だけでなく、自分の考えを記述する活動を充実させる。

(2)市教育委員会の改善策

□教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「読み取る力、書く力の育成」）について、指導と助言を行う。

□出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。

□学校司書や読書ヘルパーを配置し、各学校における学校図書館を活用した学習や読書活動の推進を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○授業中に教師の話聞くことやノートをとること、宿題に取り組むことなどの項目での肯定的な回答が90%を超えていることから、各教科の学習に対して誠実に取り組もうとしていることがわかる。 ○4年生では90%以上の児童が、5年生では80%以上の児童が各教科の授業に対して「学習内容がわかっている」と感じている。このことから、全体としては学習内容に対してわかるという実感を得ていると言える。同時に、学年が上がるにつれて一定数の児童が難しさを感じていることもうかがえる。 ○国語の話し合いの学習で、相手の話をしっかり聞き取っているという児童は90%を超えており、教師の話だけでなく友達の話聞くことに対しても意識が高い。この力が他の教科の学習や日常生活でも活かされることが大切となる。 ●一方で、自分の考えを伝えることになると約60%まで下がっている。話し合いの学習においてこの割合ということは、他教科の学習であったり日常生活の中であったりすると、さらに低い割合になると考えられる。 ○「自分の力をできるかぎり伸ばしたいと思う」という項目に対しておよそ95%の児童が肯定的な回答をしている。自分の力を伸ばすためという目的をもって学習に取り組むことは、学習に対する動機づけとしてはとても重要だと考える。力を伸ばすためのより具体的な方策を示すことが必要である。 ●各教科の授業で習ったことを復習しているという児童は全体の60%程度である。これは全国平均を大きく上回っているものの、より多くの児童が復習の習慣を身に付けられるよう家庭学習への取り組み方を意識させていくことが必要である。 ●6年生の調査において「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」という質問があった。これに対する肯定的な回答が全国平均を大きく下回っている。家庭学習の仕方という点に焦点を当て、改善を図っていくことが学力の向上に向けての1つの方策になると考える。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○家庭での読書の習慣が身につけている児童が多く、高学年では半数以上の児童が30分以上読書をしていると回答した。10分以上になると80%以上である。 ●「新聞を読んでいるか」という項目に対しては、極端に低い結果となった。家庭の理解と協力が必要となる。 ○「家の人から言われなくても、進んで勉強している」「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」の項目に対しては、各学年とも全国平均を大きく上回っており、自主的に家庭学習に取り組んでいることがわかる。家庭学習の時間については、6年生での調査を基にすると、およそ半数の児童は1日1時間以上の学習に取り組んでいる。その一方、およそ半数の児童は1時間に満たない学習時間であることも明らかとなった。進んで家庭学習に取り組んでいるという意欲は高いが、復習の習慣が十分でないことや時間の確保ができていないことを考えると、さらに充実させていくことが求められる。 ○夜の就寝時刻や朝の起床時刻に関しては、時間を決めて取り組んでいる児童が全国の平均を大きく上回っており、規則正しい生活習慣への意識が高い。 ●「地域の行事に参加している」という項目に対して、肯定的な回答をしている割合は全国の平均を下回っている。学校と地域がより連携を図り、情報の受発信を行うことで、家庭や地域とのつながりをさらに深めていきたい。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○系統的な健康教育に関する学習公開や、すこやか週間(すこやかチャレンジカード)、「弁当の日」の取組などによって、家庭での生活習慣の改善が図れるよう取り組んでいる。 ○「学びの質の向上プロジェクト」で算数の授業研究に取り組んでいる。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	☐ 「家庭学習の手引き」のカードに目を通し、家庭学習の質と量が充実するよう支援する。 ・「家庭学習の手引き」を確認し、子どもの学習に関する支援をする。 ・必要とされる学習用具について確認する。 ・家庭学習の時間の目安を知り、親子でともに取り組む。 ☐ 「すこやか週間」に合わせて、メディアとの付き合い方や読書について家庭で話し合う。
学 校	☐ 児童の関心・意欲を高め、学力の定着を図る授業改善 ・言葉の力を高めるための要約学習の活用 ・児童が主体的、協働的に学ぶ指導方法の工夫 ☐ 学力の定着を図る体制づくり ・スキルアップタイムの充実 ・朝読書の充実 ☐ 基本的な生活習慣の確率に向けた健康教育の実施 ・「すこやか週間」で活用する「チャレンジカード」の工夫改善 ・メディア調査の実施（児童が使っているメディア機器、時間等） ☐ 心を育てる読書指導・道徳教育の充実 ・言葉の力をつけるため、読書指導の充実を図る。 ・「必読書10冊」を家庭にも広げる。 ・道徳の時間を要とし、道徳的価値の自覚を図り道徳性を培う。
教育委員会	☐ 調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 ☐ 教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 ☐ 各学校が作成した「家庭学習の手引」をオロチネットで互いに閲覧できるようにし、各学校が他校の取組を参考にしながら自校の家庭学習定着に向けて取り組めるよう支援する。



つも確認 家庭のルール



っと続ける 家庭学習



っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立塩冶小学校

記号について

○:成果

●:課題

□:これからの取組

1 本校の結果の概要

○4年生の国語と6年生の国語Bにおいては、全国とほぼ同程度で良好な状況である。

また、5年生の国語については、全国の平均を約3ポイント上回った。

○算数においては、全国とほぼ同程度の状況である。

●算数においては、活用に関する問題に課題が見られる。

○社会・理科においては、全国とほぼ同程度で良好な状況である。

2 分析結果と改善策

(1)各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○「漢字の読み・書き」「言葉の学習」については市や国の平均を上回っている。 ●基礎的な問題、活用に関する問題ともに目標値・市平均・全国平均に達していない。	□読書活動を推進し、作文指導を継続していく。 □説明文や物語の長文の読み取りの問題を多く取り入れる。 □聞き取り問題の指導を継続していく。 □プレテストを取り入れた書取会を継続する。 □ペアやグループ活動で自分の考えを表現する場を多く取り入れる。
	5年	○おおむね良好。 ○「書くこと」は、目標値よりも10ポイント近く正答率が高い。 ●漢字辞典の使い方の正答率が低い。 ●要旨をキーワードを使ってまとめる設問での正答率が低い。 ●無解答率が約12%にのぼる。	□学習の中で漢字辞典を使う場面を設ける。(国語辞典も) □日々の学習の中で、まとめや振り返りに決められた言葉を使って書く活動を取り入れる。 □「引用」「修飾」「部首」などの言葉を授業の中で使い、理解を促す。
	6年	○知識問題では、「話すこと・聞くこと」に優位性が見られる。 ○活用問題では、「読むこと」に優位性が見られる。 ●文章の中で使う漢字、主語と述語の関係に注意して文章を書くことに課題が見られる。	□様々な文章を読み取り、自分の考えや感想をまとめて書く活動を取り入れ、読解力の育成を図る。 □国語辞典や漢字辞典を手元におき、類似語を調べたり短文を書いたりする活動を授業で継続して取り入れる。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○活用問題は、全国と市の平均を少しではあるが上回っている。 ●基礎的な問題は目標値を越えているが、全国と市の平均に達していない。 ●かけ算に弱さが見られる。	□100マス計算などの計算プリントを継続する。 □基礎的・基本的な問題を多く解き、算数の基盤となる力を育てていく。 □実際の生活場面から課題を設定した授業を組み立て、活用能力を高めさせる。
	5年	○おおむね良好。 ●億と兆、数量関係の領域で正答率が低い。 ●記述で解答するところの正答率が低い。	□視覚的にわかりやすい教材を授業で使うこと。 □人口密度を概数にするなど、既習事項を活用する場面をうまく使って定着を図る。 □活用問題的な思考力・判断力を使って解く問題に挑戦する機会をもつ。 □位取り表、数直線等、解決の手立てとして子どもが自分で描けるようにする。
	6年	○主として知識、活用いずれの問題においても、正答率はほぼ全国平均となっている。 ●小数の除法について、やや理解不足が見られる。	□算数タイムや補充学習で、既習事項を確認できるような問題解決場面を意図的に設定していく。 □自分の考えやなぜそうなるのかを説明したり書いたりする場を意図的に設定する。図等を活用しながら順序立てて、わかりやすく説明する技能を習得させる。
社会	5年	○おおむね良好。 ●地図の見方(八方位、地図記号、距離)の正答率が低い。 ●資料から読み取ったことを記述する設問での正答率が低い。	□授業の中で、複数の資料をもとに、比較したり関連をもたせたりして社会的背景をつかませる場面を設ける。 □都道府県や地図記号、方位については、折にふれ反復する。 □日々の学習の中で、まとめや振り返りに「社会科のことば」を使って書く活動を取り入れる。
	6年	○基礎的な問題、活用に関する問題ともにほぼ全国平均である。 ●日本の農業と水産業に関する内容にやや誤答が多く見られる。	□資料集などを利用し、多様な資料から特長や課題を見つける時間を確保する。 □単元ごとに学んだ内容を新聞やパンフレットに書く活動を取り入れる。
理科	5年	○おおむね良好。 ○植物の成長については、正答率が高い。 ○実験に即したものは、よく理解している。 ●記述で答える設問での正答率が低い。	□理科の語彙を身に付ける。(百葉箱、回路) □日々の学習の中で、「理科のことば」を使って発表させたりまとめや振り返りに「理科のことば」を使って書かせたりする活動を取り入れる。
	6年	○知識・活用問題いずれにおいてもほぼ全国平均値である。 ●水の量が増えたときの地面の削られ方について、思考・表現にやや課題が見られる。	□教科書に出てくる基礎的用語の定着を図る。 □実験の目的を明確にし、実験結果から検証したり判断したりする学習活動を工夫する。

(2)市教育委員会の改善策

- 教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「各教科の見方・考え方」等）について、指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
- 学校司書や読書ヘルパーを配置し、各学校における学校図書館を活用した学習や読書活動の推進を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○4年生では、「国語や算数の授業では、先生の話をしっかり聞いている」という問いについては全国平均を上回った。また、「返された国語の答案は見直しをしている」という問いについても4ポイント以上高い結果であった。 ○「習った漢字を使用して書いているか」の問いについてはポイントが高く、習った漢字を意識しながら書いていることが伺われる。 ○「図や表をかくときは、定規などを使って正しくきれいかいている」という問いについてはポイントが高かった。授業を真剣に受けようと意識していることが伺われる。 ●「分からないことがあれば、先生に質問している」という問いに対しては、全国とポイント差がある。理解できないことをそのままやり過ごしている可能性が高い。 ●「予習をしている」という問いに対してポイントが低い。漢字練習・音読・計算問題は毎日宿題として課題を出しているが、予習を自学で行う児童は少ない。 ●新聞・ニュースに関心がある児童が多い。 ●学習に図書館を利用していると回答する児童が少ない。 ●P C, 辞書の利用には個人差があり、全体的には低いが、学習上位者はよく利用していることが伺える。 ●既習事項を使って問題解決をしようという気持ちはあり、ドリル学習は黙々とできるが既習事項が定着していないので、やり切る経験が積みあがらない。 ●話し合いから解決の糸口を見つけたり、自分の言葉で思いや考えを表現したりすることに苦手意識をもっていることが推測される。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○「朝食をきちんと食べている」「出かける時は、家の人に行き先を言っている」という問いに対してはポイントが高い。 ○「家では勉強をする場所を決めている」「勉強するときは、集中して勉強している」という問いに対しては、全国よりもポイントが高くなっている。 ○早起きをしている児童の割合が高い。 ○「自分のことが好き、自分には良いところがある」について肯定的な回答をしている児童が多い。 ●「勉強に辞書を利用している」「参考書や問題集などを使って、勉強している」という問いに対して全国よりもポイントが低い。参考書や辞書に触れる機会が少ない傾向にある。 ●「テレビのニュース番組を見ますか」の問いに対してポイントが低い。新聞やニュース等を活用した授業をしたり、日々の話題にしたりしていくことが必要である。 ●4年生では、家庭学習時間が平均より高いが、高学年になるほど、総じて少ない傾向がある。全くしない児童もいる。積み重ねが難しく、家庭環境によっても異なっている。 ●ゲームやメディア利用の時間が過剰な児童が少なくない。家庭学習の時間の減少だけでなく、心の安定を阻害し、集中力の欠如につながっている可能性がある。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○「話し合いで自分の考えを積極的に話している」という問いについては、全国平均とほぼ同水準であった。「伝え合い」の場を意識的に設けるようにしている本校の研究との関わりも大きいと考えられる。 ●「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」の質問紙に対しては否定的な回答のポイントが高い。「深まりのある話し合い」をめざした授業改善に引き続き取り組んでいく必要がある。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	☐「家庭学習の手引き（学年ごと）」を読み、学習時間を確保するとともに、学年が上がるにつれて、予習・復習に力を入れる。 ☐メディア利用の影響について引き続いて啓発するとともに、メディアとの良好な関わりにおいて、親子で話し合い、きまりを作って実践する。 ☐家庭内での子どもの役割や分担について話し合い、よりよい支援方法についての具体例等を様々な通信で紹介していく。 ☐ニュースや社会の出来事への興味を高め、自分の考えを効果的に表現する力を養うため家庭学習の中に、新聞記事についての意見文や、新聞づくり等の課題を取り入れる。
学 校	☐「家庭学習の手引き」の内容を再検討し、保護者へ再度確認と協力の依頼を行う。 ・学年ごとに「家庭学習の手引き」を見直し、必要に応じて改訂して配布する。 ・各学年での家庭学習の時間の目安を示す。 ・家庭での音読の仕方、予習・復習の仕方等を分かり易く提示する。 ・学年別の推薦図書(読書指導)「おすすめ20冊」を家庭にも広げる。 ☐家庭におけるテレビ視聴や、ゲーム・インターネット等の使用時間、スマートフォン等の利用については、各家庭で具体的なルール作りが行われるよう積極的に呼びかけを行う。 ・「21時には電源オフ」を積極的に呼びかけ、1日の視聴・使用時間の目安を親子で決める。 ・スマートフォン等はマナーや利用上のルールを家庭で話し合い、約束を決める。 ・ネットトラブルに関する講演会を開く。 ☐「家庭学習強化週間」を学期ごとに実施するとともに、「家庭学習」への取組が積極的に進められるよう、授業公開日の懇談等で、趣旨や具体的な進め方について話題にする機会を設ける。 ☐子どもの意識を大切にした授業改善を継続する。 ☐文章を要約してまとめ、端的に伝える力を培うため、「特色ある学校の取組」として経年取り組んでいる「要約学習」を、様々な学習の中で工夫して取り入れていく。
教育委員会	☐調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 ☐教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 ☐メディア接触や情報モラルに関する教員及び保護者向けの研修会を開催し、家庭や地域と連携して児童生徒の家庭生活の見直しを図っていく取組を支援する。

-  **つも確認 家庭のルール**
-  **っと続ける 家庭学習**
-  **っと話そう 学校のこと**

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立神戸川小学校

記号について

○:成果

●:課題

□:これからの取組

1 本校の結果の概要

- 国語においては、全体的には5年、6年は市平均、県平均とほぼ同程度の状況である。4年、6年は基礎が下回った。
- 国語においては、どの学年においても特に基礎に課題がある。
- 算数においては、全体的にはどの学年も市平均、県平均とほぼ同程度の状況である。特に4年、6年は基礎が市平均、全国平均を上回った。
- 算数においては、どの学年とも活用に課題がある。
- 社会においては、5年6年ともに基礎・活用いずれも市・全国平均を上回り、良好な状況である。
- 理科においては、5年6年ともに基礎・活用いずれも市・全国平均を上回り、良好な状況である。

2 分析結果と改善策

(1)各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○漢字の読みは、よくできている。 ●説明文の構成をつかんだり、問いと答え、主語・述語を読み取ったりすることに課題が見られる。 ●必要なことを選んで自分の言葉でまとめて書くことができにくい。	□日ごろから主語・述語を読み取る機会をもつ。 □説明文の構成や読解の学習では、文章全体を俯瞰的に読んだり、「問い」「答え」「まとめ」などを読み取ったりすることを意識して指導する。 □普段から条件付き作文で自分の意見を表現する練習をする。
	5年	○話し合いの内容や文章を聞き取るとはよくできている。 ○漢字を読むことはできている。 ●読み取ったことを条件に応じて自分の言葉でまとめて書くことができにくい。	□部首を常に新出漢字の時に言うなどして、部首を意識した漢字指導を行う。 □条件に沿って文章を書く機会を増やす。 □週末プリントを活用して、文法、漢字、辞典などの問題を継続的に行う。
	6年	○目的に合わせて書くことは、よくできていた。 ●漢字の定着に課題が見られる。 ●熟語の意味理解に課題が見られる。	□条件に合わせて書く学習を計画的に取り入れる。 □漢和辞典を使って熟語を増やしたり、同音異義語を意識させたりして漢字を指導する。 □問題文で何を問われているのかを常に意識させて指導する。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○計算は正確にできる。 ●分数の概念理解、数直線に表現することに課題が見られる。 ●問題文から具体的なイメージをもったり、複数の資料を関連付けたり、表に表してあることを読み取ったりする力が不十分である。	□量感を養ったり、数の大きさをイメージしたりするために、日常の具体物（紙テープなど）を用いて確認しながら指導する。 □文章からイメージを持たせるために、低学年の時から、絵や図、数直線などで表現することを繰り返して取り組むようにする。 □授業の中で学習したことを、具体的な生活場面で考える経験を繰り返す行う。
	5年	○基本的な計算はよくできている。 ●問いに対し正しい答え方で答えたり、正確に計算したりすることに課題が見られる。 ●長い文章問題を読み取ることに課題が見られる。	□文章問題を解く時に、子どもたちに立式させるだけでなく、教師が式を4つ程度提示し、「①この問題の式はどれか②なぜ、そう考えたのか理由をノートに書く」という方法を取り入れ、なぜこの式になるのか考えたり表現したりできるようにする。 □1時間の中で適用問題に多く取り組み、より確実に知識技能の定着を図る。 □ノート指導の徹底（問題の解き方をノートに書かせる。）
	6年	○算数A(基礎)は全体的によくできている。 ●算数B問題(活用)に課題がある。特に、文章題の題意を読み取ることに課題がある。	□図に数値を記入させ、数量の関係を的確にとらえさせる。 □問題文の取捨選択をできるように練習させたり、何を問われているかをまずとらえたあとに、何が分かっているか（条件）を考えさせたりする。 □適応問題を宿題にし、多くの問題に取り組ませる。
社会	5年	○全体的には、目標値に達しており、特に安全を守る活動の内容についてよくできている。 ●問題文の読み取りに課題がある。 ●資料を目にする機会はあるが、情報の読み取りに課題がある。	□資料を読み取って表現する力をつけるために、授業の中で自分の考えを書いたり話したりする活動を多く取り入れていく。 □資料の読み取り方を指導し、資料に関心を持たせ、複数の資料を比較したり、関連することや共通することを考えさせたりすることを日頃から取り組んでいく。
	6年	○5年時に学習発表会で取り上げた内容（農業・漁業）については、よく理解していた。 ●資料を読み取る力に課題がある。	□普段の授業で資料を丁寧に扱い、資料から情報を読み取る練習をしていく。 □国語科の教科書のグラフの読み取り単元をもう一度復習する。
理科	5年	○どの観点もよく理解できている。 ●グラフなどの資料から読み取ったことを適切に表現することに課題が見られる。 ●問題の意図を正しく読みとっておらず、当てはまる言葉を記入するところに記号などを答えている。	□結果だけでなく「どうしてそのような結果になるのか」という理由もしっかり考えさせ、理解させていく。 □発展的な実験についても考える時間を設けていく。 □考えたことを学習した言葉を使いながら自分でまとめさせ、表現する力をつけていく。
	6年	○知識はほぼ定着している。 ●情報を関連付けて解答する力が不十分である。	□情報の取捨選択をする力を普段から養う指導をする。 □物事を関連付けて考える力をつけるよう、複数の資料を読み取る活動を取り入れる。 □実験器具などの名前や使い方をきちんと指導する。

(2)市教育委員会の改善策

- 教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「読解力の育成」）について、指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
- 学校司書や読書ヘルパーを配置し、各学校における学校図書館を活用した学習や読書活動の推進を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること ・学習への興味関心	【学習に関すること】 ○4年生、5年生ともに、「授業では、先生の話をしっかり聞いている」「授業ではきちんとノートをとっている」「宿題は、きちんとしていく」という回答は、どの教科も全国平均を上回っている。日々の学習に、きちんと取り組んでいることがうかがわれる。 ●4年生、5年生ともに、「授業で分からないことがあれば、先生に質問している」という回答は、どの教科も全国平均を10ポイント以上下回っており、分からないときに自分から積極的に分かるように働きかけることが不十分であると考えられる。 ○5年生では、「社会の出来事を知るために新聞を読んでいる」「知らない歴史上の人物が出てきたら、本などを使って調べている」という回答が、全国平均を上回り、6年生では、新聞を「毎日読んでいる」「週に1～3日読んでいる」という回答は全国平均と同じである。学習に新聞を活用しよう意識するようになってきていると考えられる。 ●4年生、5年生ともに、「分からない言葉があれば、辞書を引いている」という回答は全国平均より5ポイント程度下回っている。辞書を使い始める3年生から、辞書を引く機会を多くもち、調べるための1番身近なツールとして利用する習慣をつける必要がある。
・学校生活への満足度	○6年生では、「自分にはよいところがある」という回答は、全国平均を5ポイント以上上回り、落ち着いた学級集団のなかで、お互いに認め合う活動を積むことにより、自尊感情が高まっていると考えられる。
②家庭生活に関すること ・家庭学習時間	【家庭生活に関すること】 ○「家の人から言われなくても、進んで勉強している」「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」「勉強しているときは、集中して勉強している」という回答は、全国平均を上回り、特に5年生では15ポイント以上、上回っている。「家庭学習の手引き」をもとに、各学年に応じた宿題や自学に継続して取り組むことができていることがうかがえる。 ○6年生が平日に1時間以上学習する割合は76%で、全国平均より10ポイント高くなっている。ほとんどの児童が家庭学習の手引きの目安の時間以上に取り組むことができている。
・基本的生活習慣	○起床時刻、就寝時刻、睡眠時間、朝ごはん等の生活習慣の確立ができている割合が高い。生活習慣に関する強化週間（元気もりもり週間）に定期的に取り組むことで、子ども自身が意識して生活するようになってきていると考えられる。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ふるさとを愛する心をベースに、体力向上、読書活動による豊かな心の育成及び学力向上を図り、『ともに学び合い、のびようとする子どもの育成』に取り組んでいる。日々の授業における子ども達の「かかわり合い」を重視し、「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践を積んでいきたいと考えている。 ○6年生では、「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という質問に対して、全国平均より2ポイント上回っている。日々の授業を主体性を大切にして進めてきた成果が表れていると思われる。 ●反対に、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」という質問に対して、全国平均より5ポイント程下回っている。これは、授業における話し合い活動の経験不足や、深め方・まとめ方の学習不足によるものと思われる。今後さらに「かかわり合い」の質を高めていく必要がある。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	☐ 「早寝・早起き・朝ご飯」を基本とした、生活リズムを整える。 ☐ 学習に向かいやすい環境を整える。 ☐ 「家庭学習の手引き」を読み、家庭学習の時間は学年の目標時間を確保する。 ☐ 家庭学習の様子に関心をもち、声を掛けたり確認したりする。 ☐ メディアとの関わりについて、家族で話し合って決まりを作り実践する。 ☐ 親子読書等で本に触れる時間を設け、読書の習慣化に努める。
学 校	☐ 姿勢や体幹を鍛える運動を、学年に応じて継続して取り組んでいく。（「1分間気をつけ」など） ☐ 授業に向かう姿勢、学習用具、話し方、聴き方等に関する全校統一の方針を示し、学年に応じて取り組んでいく。 ☐ 授業では、めあての確認と学習内容に沿ったまとめ・振り返りの実施に努める。 ☐ 国語科では、「主語・述語の関係」「文章の構成」等の指導内容に重点を置き、1年生から繰り返し取り組み、系統的に文章の読解力や作文力を育てる。 ☐ 国語科、社会科、総合的な学習の時間等で学校図書館をより活用し、調べ学習を充実させていく。 ☐ 児童一人一人がしっかり自分の考えをもち、関わり合うことにより考えを深めていくために、ペアやグループの話し合いにねらいを明確にして取り組んだり、いろいろな考えが交流するように全体での話し合いに取り組んだりして、課題解決のための友だちとのかかわりあいを充実させていく。 ☐ 算数においては、プリント等を有効に活用し、定着度の確認と学習指導を行う。 ☐ 課題の見られた教科の事項が改善するような内容を家庭学習に出題したり、学習時間確保の声掛けを家庭に呼び掛けたりする。 ☐ 「家庭学習」の取り組みが充実するように、授業公開日の懇談や学年・学級だより等で趣旨や具体的な進め方について発信していく。 ☐ 生活リズムの確立に向けて、「元気もりもり週間」などの取り組みを継続する。 ☐ テレビ視聴やテレビゲーム使用時間、携帯電話等の使用などについては、各家庭でルール作りが行われるように積極的に呼びかける。また、講演会を企画したり授業で取り上げたりして家庭への啓発を図る。
教育委員会	☐ 調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 ☐ 教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 ☐ アンケートQ-U活用の研修会を実施し、教員が多面的な児童生徒理解に基づいた指導を行えるよう支援する。

い つも確認 家庭のルール

ず っと続ける 家庭学習

も っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立高松小学校

記号について

○:成果

●:課題

□:これからの取組

1 本校の結果の概要

- 4年生の国語，算数は市及び全国平均正答率と同程度であった。
- 6年生の国語B，算数Aは，県及び全国の平均正答率を上回った。
- 全学年を通じて，学校の授業の復習等を家で行っていると解答した児童の割合が，全国平均よりも高かった。

- 全教科を通じて，「書くこと」や「表現力」について課題が見られた。
- 5・6年生の社会，5年生の理科，市及び全国平均正答率よりも下回った。
- 6年生の国語A，算数B，理科は県及び全国平均正答率よりも下回った。

2 分析結果と改善策

(1)各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○主語と述語について理解することができていた。 ○説明分・物語文ともに，内容の読み取りはよくできていた。 ●漢字の読み書きが定着していない。 ●作文問題において，約20%の児童が無解答であった。	□これまで行っていた書き取り会に加えて，授業の初めに漢字のミニテストを行うなどして，漢字の読み書きを定着させる。 □日頃からノートにまとめる時間を確保し，書くことへの抵抗が少なくなるようにする。
	5年	○漢字の読み書き，物語文の内容の読み取りがよくできていた。 ●漢字辞典の使い方，連用修飾語についての理解が不十分であった。 ●求められた情報を引き出したり，まとめたりして表現することに課題が見られた。	□言葉のきまりや辞書の使い方などの復習問題を書き取り会に追加するなどして，定着を図る。 □資料から読み取り，それらをまとめて表現する学習活動や，条件を加えた日記など課して，書く能力を向上させる。
	6年	○話すこと・聞くことに関する力は身に付いている。 ●漢字の読み書きが定着していない。 ●主語と述語に気を付けて正しく文章を書くことに課題が見られた。	□月一回の漢字大会に加えて，定期的に漢字のミニテストを行うなどして，漢字の読み書きを定着させる。 □国語だけでなく社会や理科など他の教科の学習でも，資料から必要な情報を読み取り，文章に書いてまとめる作業を積極的に取り入れるようにする。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○数の相対的な大きさ、円と球の直径・半径についてよく理解している。 ●整数-小数の筆算、□を使った式の立式の理解が不十分であった。 ●複雑な文章問題の読み取りに課題が見られた。	□問題文から、必要な情報を確実に読み取れるように繰り返し指導する。また、読書活動を推進し、活字に慣れさせる。 □自分の考えや友達の考えを式を使って説明させるなどして、立式や式を読む力を伸ばす。
	5年	○小数の計算がよくできていた。 ●数の構成や単位換算での誤答が多く、理解が定着していない。 ●情報量の多い問題への無回答の多さが目立ち、算数への意欲・関心が低いことが課題である。	□「ジャマイカ」を活用するなど、ゲーム的な要素も取り入れながら、児童の算数への興味・関心を高める。 □応用問題に対応する力を伸ばすために、情報量の多い問題や、反対にヒント・手立ての少ない問題など、様々な問題に取り組む機会を設ける。
	6年	○小数の除法の意味、円の直径の長さ、と円周の長さの関係についてよく理解している。 ●空間の中にあるものの位置を表す問題、割合、活用問題に課題が見られた。	□絵や図を用いて、問題場面を正確に把握できるようにする。 □根拠を明確にして、図や式を用いて与えられた条件を用いながら説明する機会を増やす。
社会	5年	○交通安全、ごみについては、見学を通して、よく理解している。 ●地図の見方についての知識・理解に課題が見られた。 ●情報量の多い資料から必要なことを読み取ってまとめることに課題が見られた。	□授業では、児童に課題意識をもたせ、資料から読み取ったことを使って自分の考えをまとめるような学習活動を取り入れる。 □授業の始めに地図を使った問題に取り組ませるなどして、地図の見方についての理解を定着させる。
	6年	○自分たちの生活とかかわりのある問題については、よく理解していた。 ●産業や世界の問題など、自分の身近でない問題について関心が低い。 ●情報量の多い資料から必要なことを読み取ってまとめることに課題が見られた。	□授業では、複数の資料を比較したり、情報量の多い資料を活用したりして、自分の考えをまとめるような学習活動を取り入れる。 □新聞やテレビのニュースを活用した家庭学習を課すなどして、社会問題に興味・関心をもたせる。
理科	5年	○生き物など、実際に実験した経験のあることについて、理解が十分であった。 ●目に見えない事象（電気のはたらきなど）についての理解や自分の考えを説明することに課題が見られた。	□実験が体験で終わらないように、課題意識をもたせ、結果を踏まえて自分の言葉で考察するといった流れを重視して実験に取り組ませる。
	6年	○エネルギー領域について理解が定着している。 ●地球・粒子領域について、課題が見られた。 ●結果や複数の情報から分析して、考察する科学的な思考力に課題が見られた。	□実験をやりっぱなしにするのではなく、考察やまとめをする時間を十分確保する。 □学習した内容を身近な事象と結び付けてとらえられるようにする。

(2)市教育委員会の改善策

- 教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「書く力」「表現力」の育成等）について、指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（+1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
- ICT機器等の整備を推進することにより、各学校における授業改善や児童生徒の学習意欲向上を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○どの学年も、それぞれの教科でしっかりと話を聞いたり、ノートをとったりしている児童が多い。 ○4，5年生で、話合いで相手の話をしっかり聞き取っていると答えた児童は約95%と多かった。 ○どの学年も8割以上の児童が、本校の目標である「10分×学年+10分」の家庭学習の時間を達成していた。 ○6年生は、「家で、学校の授業の予習・復習を行っている」「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している」と答えた児童が8割を超えていた。 ●4，5年生で、各教科の予習をしている児童は半数以下であった。 ●新聞記事などを読む児童は、2～3割程度と少なかった。 ●クロスワードなどの言葉を使ったパズルや、計算や図形を使ったパズルなどで遊ぶことがある児童は半数以下であった。 ●5年生で、知らない土地や歴史上の人物について本で調べると答えた児童は半数以下であった。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○どの学年もほとんどの児童が毎朝朝食を食べている。 ○規則正しい生活やあいさつ、家庭学習の習慣など、どの学年も肯定的な回答が全国並みであった。 ○自分の住んでいる地域が好きと答えた児童は8～9割いた。 ○6年生の「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童は約94%と、全国より約10ポイントも多かった。 ○どの学年も自分にはよいところがあり、家族や友達、先生に認められていると感じている児童の割合は全国より多いか、同程度であった。 ●しかし、校内で比べると5年生が少し下がる傾向があった。 ●4，5年生は「家の人から言われなくても、進んで勉強している」と答えた児童が7割いたが、全国よりも少なくなっている。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○本校は、地域の支援が厚く、様々な学習活動に地域講師やボランティアとして協力していただいている。また、PTA活動も熱心に行われている。このような支援を受けているからか、前向きで、自分自身に対して肯定的な児童が多い。また、地域に対しての愛着や関心も高い傾向にある。 ○本校の校内研究で「学び合いのある授業」づくりに取り組んできて、3年目になる。分かる子も分からない子も全員が参加して、互いの考えを伝え合ったり、分かるまで説明したりするなどして、学習意欲を高め、個々の学力向上につながるように努めてきた。その成果か、どの学年も学習に対して前向きに取り組む児童が多く、正答率も全国並みとなっている。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	☐ 中学校区で取り組む「生活ふりかえり週間」の際に、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、家庭学習の時間の確保に努める。また、メディアとの関わりについて、家族で話し合ってきたり決めて実践する。 ☐ 子どもと一緒に新聞を読み、その記事について考えたことを交流するような機会を設ける。 ☐ 分からないことは本や辞書を使って調べるように声かけをする。 ☐ 読書活動に関心をもち、家読（うちどく）週間はいっしょに読書に親しむ。
学 校	☐ 校内研究教科の算数の授業改善を通して、各教員が授業力の向上を目指し、児童の学力向上を図る。 ・児童の課題解決への意欲をかきたてる問題や発問の工夫 ・児童の声でつくるめあての提示と、学びを確実にしたり高めたりする振り返り ・算数名人を合言葉に「聴く力」「考える力」「伝える力」について児童の意識化 ・「聴く力」「考える力」「伝える力」を伸ばすための具体的な支援と、その評価 ☐ 家庭学習の継続を図り、基礎学力を定着させる。 ・「10分×学年＋10分」の家庭学習の時間の確保 ・各教科の予習・復習 ☐ 学力調査結果を踏まえた上で、自学や復習プリントの工夫をし、学力向上を図る。 ・新聞記事を活用した家庭学習課題 ・辞書を使った家庭学習課題 ・クロスワードや計算パズルなど、楽しく学べるような課題 ・条件のある作文練習 ☐ 中学校区で連携して、学期に1回「生活ふりかえり週間」を実施し、自分の生活を振り返り、よい生活習慣を身に付けることができるようにする。
教育委員会	☐ 調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 ☐ 教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 ☐ 保幼小・小中連携を推進し、校種間で連携して基本的な生活習慣の定着や学力育成が図られるよう支援する。



つも確認 家庭のルール



っと続ける 家庭学習



っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立長浜小学校

記号について

○: 成果

●: 課題

□: これからの取組

1 本校の結果の概要

- 自分の考えを書いたり，目的に応じて書いたりする指導を行ってきたことで，国語の書く力が目標値や全国平均に近づいたり（4年生，6年生），上回ったり（5年生）した。
- 5年生の国語と理科は概ね目標値を上回った。
- 6年生は，1時間以上家庭学習に取り組む児童が増えた。
- 家の人や地域とのよい関わりができている児童が多かった。
- 4年生の国語・算数，5年生の社会・算数，6年生の社会は目標値を下回った。
- 6年生の国語A・国語B，算数A・算数B，理科は全国平均を下回った。
- 宿題はきちんとしているが，予習・復習に取り組んでいる児童が少ないという結果であった。
- メディア接触の時間が長いという結果であった。

2 分析結果と改善策

(1) 各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○物語の場面や人物の気持ちを読み取ること，漢字の読みは比較的できている。 ●説明文を読むことに慣れ，語彙力を高める必要がある。 ●資料から情報を読み取り，適切に答える力を伸ばす必要がある。	□補充学習の時間を活用して，資料を読んで要約したり，自分の考えを述べたりする問題に取り組むようにする。 □国語辞典や漢字辞典を多く活用し，言葉や漢字に対する関心を高める指導を繰り返し行っていく。
	5年	○全体を通して，概ね目標値を超えている。 ●文章を読み，要約する力を伸ばす必要がある。	□補充学習の時間を活用して，資料を読んで要約したり，自分の考えを述べたりする問題に取り組むようにする。 □物語文や説明文の学習において，要旨を捉える学習の充実を図るようにする。
	6年	○目的や意図に応じて，文章を書いたり文章全体の構成を考えたりすることは比較的できている。 ●複数の資料を読み比べ，必要な情報を読み取り，適切に答える力を伸ばす必要がある。 ●語彙力を高める必要がある。	□補充学習の時間を活用して，資料を読んで要約したり，自分の考えを述べたりする問題に取り組むようにする。 □世の中の出来事に関心を持たせ，それについてディスカッションする時間をもつようにしたり，読書習慣を見直したりして，言葉や出来事に対する関心を高める指導を繰り返し行っていく。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	●問題文を正確に読み取る力を伸ばす必要がある。 ●四則計算の定着を図る必要がある。 ●除法を適用して、その答えの意味を説明する力を伸ばす必要がある。	□問題文を読み取る力を付けるために、補充学習の時間を活用して、読解力を伸ばす問題に取り組むようにする。 □習熟度別指導を行い、学習の理解を図っていくようにする。
	5年	○前年度までに学習した四則計算や図形の性質や特徴を概ね理解している。 ●資料から必要な情報を読み取り、立式したり、答えたりする力を伸ばす必要がある。	□問題文を読み取る力を付けるために、補充学習の時間を活用して、読解力を伸ばす問題に取り組むようにする。 □イメージしたものを図や言葉でかいてみるなどしながら、問題文の理解を図るようにする。
	6年	○図形の性質や特徴を理解し、問題を解くことができてきた。 ●資料から必要な情報を読み取り、立式したり、答えたりする力を伸ばす必要がある。	□問題文を読み取る力を付けるために、補充学習の時間を活用して、読解力を伸ばす問題に取り組むようにする。 □習熟度別指導を行い、学習の理解を図っていくようにする。
社会	5年	○くらしをささえる水の学習内容が概ね定着している。 ●資料から必要な情報を読み取る力を伸ばす必要がある。	□地図やグラフや表に触れる機会を多くもち、資料から分かることを比較・関連して読み取らせ、考えを社会科用語を使って文章にまとめたり、相手に分かりやすく伝えたりする場面を意図的に設定した授業を行うようにする。
	6年	○農業や水産業に関する学習内容が概ね定着している。 ●複数の資料から必要な情報を読み取る力を伸ばす必要がある。	□実物や映像資料等を活用しながら、分かったことを社会科用語を使ってまとめたり、伝えたりする場面を意図的に設定した授業を行うようにする。 □グラフや図などの資料を読み取ったり、活用したりしながら、自分の考えを表現する活動を取り入れるようにする。
理科	5年	○全体を通して、概ね目標値を超えている。 ●実験結果やその理由を説明する力を伸ばす必要がある。	□実験の結果から分かったことを理科用語を使ってまとめたり、伝えたりする場面を意図的に設定した授業を行うようにする。 □教科書の発展問題にもしっかりと取り組むようにする。
	6年	○実際に実験したこと知識・理解は定着している。 ●エネルギー区分に関する理解が十分に定着していない。 ●文章や図を読み取る力、理科用語を理解活用する力を伸ばす必要がある。	□たくさんの情報の中から必要なことを選んで考えたり、実験の結果から分かったことを理科用語を使ってまとめたり、伝えたりする場面を意図的に設定した授業を行うようにする。 □これまでに学習したことを基に、身の回りのことについて論理的に考える場面を授業の中に設定するようにする。

(2)市教育委員会の改善策

- 教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「読解力の育成」など）について、指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
- 学校司書や読書ヘルパーを配置し、各学校における学校図書館を活用した学習や読書活動の推進を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること ・学習への興味関心や意欲 ・家庭学習内容 ・読書量	【学習に関すること】 ○全国学力調査において、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答している児童が多い。 6年 84.6% ○市学力調査において、「授業では、きちんとノートをとっている。」と回答している児童が多い。 5年 国語94.1% 算数100% 社会90.2% 理科96.1% 4年 国語96.2% 算数98.1% ●自分の考えを発表したり文章に書いたりすることを難しいと思っている児童の割合が高い。 6年 自分で考えることが難しい：44.2% 工夫して発表しにくい：55.8% 5年 66.7% 4年 37.7% ●家庭学習で予習・復習に取り組んでいない児童が多い。 6年 59.6% 予習：5年 62.7% 4年 73.6% 復習：5年 37.0% 4年 45.2% ●勉強に辞書を利用しない児童がいる。 5年 31.4% 4年 56.6% ●新聞を読んでいない児童が多い。 6年 82.7% ●学校の授業時間以外に、平日（月～金曜日）における1日当たりの読書量が少ない。 1時間以上 6年 7.7% 5年 13.7% 4年 7.5%
②家庭生活に関すること ・家の人との関係 ・家庭学習時間 ・メディアに関わる時間	【家庭生活に関すること】 ○家の人とのよい関わりがある児童の割合が多い。 （夕食を一緒に食べている。学校での出来事について話をしている。家の人に挨拶をしているなど） ○家庭で宿題をきちんとしている児童が多い。 ●平日の家庭学習時間が30分以下の児童がいる。 1時間以上 6年 74.9% 5年 35.3% 4年 22.6% 30分以下 6年 1.9% 5年 13.7% 4年 37.7% ●平日におけるメディア接触の時間が長い。 6年 80.8%（メディアに接触している人の割合） 1時間以上 5年 66.7% 4年 41.5%
③学校独自の取組に関すること ・ふるさと学習	【学校独自の取組に関すること】 ○すべての学年で地域講師を招いたり、地域に出かけたりする学習を行っているため、地域とのよい関わりがある。（総合的な学習の時間・生活科・クラブ活動の講師、算数科の九九や家庭科のミシン学習の補助者、図書館環境の充実のためのボランティアなど。） ○全国学力調査において「今住んでいる地域の行事に参加している。」「地域のボランティア活動に参加したことがある。」と回答している児童が多い。 6年 63.5% 73.1% ○市学力調査において「自分が住んでいる地域が好きである。」と回答している児童が多い。 5年 92.2% 4年 94.3%

(4)学習状況改善への取組

家 庭	☐ 「家庭学習の手引き」をもとに，学習環境を整え，家庭学習の時間を確保する。 ☐ メディア利用の約束をつくり，取り組むことができるように支援する。できていないようであれば理由を聞き，一緒に解決の方法を考える。 ☐ 講演会などに参加し，メディア利用を含めた家庭での生活を見直すことにより，基本的な生活習慣の確立を図る。 ☐ 長期休業中の親子読書の取り組みや，「長浜小図書館だより」などを手がかりにしながら，読み聞かせをしたり，読書を進めたりする。 ☐ テレビのニュースや新聞の記事などを家庭の話題にする。
学 校	☐ 学力調査の分析を踏まえ，読解力を高めるための問題に全校で取り組む。（補充学習の時間の活用） ☐ 学力調査の分析を踏まえ，４年生以上の算数科の学習において，習熟度別指導や複数の教員による指導を行う。 ☐ 学力調査の分析を踏まえ，弱点単位についての教材研究を組織的に行い，研究授業等において検証していく。 ☐ 出雲市教育指導監による学校訪問では，授業者，担当，管理職が協議を行い，情報を共有し，授業力の向上を目指す。 ☐ 家庭での学習時間，内容・質の改善を図る。 ・意欲的に家庭学習に取り組めるように，積極的に情報発信・啓発等を行う。 ・「家庭学習の手引き」をもとに，家庭学習のプランを作成し，具体的目標を掲げて実践する。 ・メディア利用についても合わせて指導し，ダウンメディアを呼び掛ける。 ☐ 本好きな児童を増やす。 ・「おススメの本リスト」を全児童に配布して，本への関心を高める。 ・児童が読みたくなるような本を学級文庫としてそろえる。
教育委員会	☐ 調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し，家庭学習や生活習慣等について学校と家庭，地域が連携して取り組めるよう支援する。 ☐ 教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ，児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 ☐ メディア接触や情報モラルに関する教員及び保護者向けの研修会を開催し，家庭や地域と連携して児童生徒の家庭生活の見直しを図っていく取組を支援する。



つも確認 家庭のルール



っと続ける 家庭学習



っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立四絡小学校

記号について

○: 成果

●: 課題

□: これからの取組

1 本校の結果の概要

○6年生において、国語A(基礎)では、「漢字の読み書き」「慣用句の意味理解」「伝統的な言語文化」「目的に応じて筋道を立てて話す力」など、基礎的な力が伸びてきた。また算数A(基礎)では上中位群が多く「四則計算の技能」「量と測定」など基本的な学習内容が定着してきた。

●国語B(活用)では、目的や意図に応じ、文章全体の構成や表現を工夫して記述する力に課題がある。算数B(活用)では上中位群の層が増加してきたものの、下位群の力を高めるための補足的な学習のあり方、無解答者への支援が課題である。

○社会科では「日本の食糧生産」や「自動車をつくる工業」「私たちの生活と環境」などの学習内容が確実に定着してきた。

●「世界の中の国土」「日本の国土と人々の暮らし」「日本の農業と水産業」などで理解が不十分な点がある。

○理科では、「実験結果を基にした分析・考察する」についての設問に対する正答率が高く、分析・考察する力が伸びてきた。

●「もののとけ方」「土地の浸食」では学習内容の理解に不十分な点が見られた。

○5年生において、4教科とも正答率は自治体平均を上回っており、学習内容が概ね定着してきた。特に社会科では知識・理解、資料を読み取る力に伸びが見えてきた。

●基礎的な学習内容の理解が不十分な児童が少なくない。理科では「天気の様子と気温」「月と星」「物の体積と力」など理解が深まった内容があるものの、記述式の設問に対して苦手意識のある児童がいる。

○4年生において、国語・算数とも学習内容をよく理解しておりとても良好な状況である。今後読書の質を高めたり、学習に新聞等を活用したりすることを通じて読解力を更に高めていきたい。

○生活意識調査では、食事や起床就寝などの基本的な生活習慣に対する意識が高く良い傾向にある。また学校のきまりを守ることや友だちとの約束を守ることに対する意識も高い。また学校生活への満足度も高い。

●将来の夢や希望を持つことに伸びはあるものの、自分に自信が持てないと感じている児童も少なくない。学習状況調査では、人の話をしっかり聞くこと、自分で計画を立てて家で宿題や習い事などの勉強をすることについては望ましい傾向にあるが、予習や復習への意識に弱さがあり今後の課題である。

2 分析結果と改善策

(1) 各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○漢字への関心が高く、読み書きの力は概ね定着している。 ○「物語の内容の読み取り」の正答率が高い。 ●「説明文の内容を読み取る」ことに課題がある。	□語彙力を増やし、言語についての理解・技能を高めるために、普段の授業の中で、辞書の活用を図り、言語の使い方に慣れ親しむ学習活動を重視する。 □スピーチや発表を行う機会を増やしたり、発表内容を要約してメモにしたりする活動を継続して行う。 □週末の課題(宿題)に、説明文の読解プリントを取り入れる。
	5年	○漢字の習得はできている。また物語の内容を正しく読み取る力が伸びてきた。 ●指定された長さで目的や必要に応じて「文章を書く」ことに苦手意識のある児童が少なくない。	□読み比べや聞き比べから、共通点や相違点を見つける学習を進める。 □条件に応じて記述する短作文を書く機会を多く設け、文章の作成や作文指導に力を入れ表現力を高める。 □図書館学習の機会を増やし、教科書の読み取りだけでなく様々な図書から必要な情報を読み取る力を育てる。
	6年	○漢字の習得や慣用句の意味理解など、全体的に伸びてきている。 ○伝統的な言語文化に関する設問や適切に敬語を使う設問の正答率が高い。 ●目的や意図に応じて自分の考えをまとめ、文章として記述する力が弱い。	□依頼状や礼状など、実用的な文章としての手紙を書く活動や叙述を基に、理由を明確にして自分の考えをまとめる活動を大切にする。 □物語を個人で読んだり、集団読書で取り組んだりするなど、感想を伝えあい、自分の考えを広げたり深めたりする活動を重視していく。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○数量や図形について知識・理解の正答率が高く、数学的な考え方も伸びてきており、学習内容が定着してきており良好な状況である。 ●「算数への関心・意欲・態度」が伸び悩んでおり、児童の興味・関心を高める授業づくりが課題である。	□課題を解決するために、図に表しながら問題場面を把握する方法を習得させると共に、思考したことを言語で表現する場面を大切にする。 □数の概念や単位の使い分けを身に付けさせるために、実測や具体的な操作活動の機会を大切にする。 □授業に入る前に既習事項の確認をしたり、基礎的・基本的な内容については宿題等で復習したりする機会を設ける。
	5年	○「小数の計算」「核の大きさを求める」設問に対する正答率が高い。 ●「いろいろな形」「単位の換算」「あまりのうるわり算」などの単元において基礎的な内容が定着していない児童が少なくない。	□基礎的な学習内容を習得させるために、既習内容の復習を中心とした個別指導の時間を工夫したり、単元の特性に応じて習熟度別の少人数編成での授業を行ったりする。 □線分図や表、図などを利用しながら、問題解決をしていく機会を大切にすると共に、具体物を利用し実感を伴う学習を工夫していく。
	6年	○A知識、B活用とも自治体平均と同程度で、概ね良好な状況である ●A知識では「円周率の意味」や「百分率を求める」の設問に対して、正答率が低い。またB活用では、複数の観点で考察し表現する設問に対しての正答率が低い。	□計算結果の見積もりや確かめの習慣を促し、基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図る。また発展的な課題に取り組む機会を設定し、上位群の力を伸ばす。 □問題解決のために線分図や数直線などの利用方法を習得させ、図と式を関連づけて考え、説明して伝える活動を重視する。また個人の考えを視覚的に提示し全体の理解を深めていく。
社会	5年	○自治体平均・全国平均を大きく上回り良好な状況である。「安全なくらし」「ごみの処理と利用」の設問で高い正答率である。 ●「交番の役割」「廃棄物の処理の仕方」など資料を読み取り自分の考えをまとめる設問で正答率が低い。	□身近な地域性素材で学んだ事柄を一般化して考え、活用力を高める授業づくりに努める。 □学習内容の確実な定着のために、地図の読み取りワークなどの復習プリントを朝学習で取り組んだり週末課題として継続したりする。
	6年	○基礎、活用とも自治体平均とほぼ同程度で、概ね良好な状況である。 ○「わたしたちの生活と環境」についての設問に対して正答率が高い。 ●「世界の中の国土」「日本の農業と水産業」についての理解が不十分である。	□授業中におけるノート指導では、自分の考えを記す時間の確保に努める。 □資料の読み取りの際に、何に注目したらよいか明確にし、児童の興味・関心を高める提示物や視聴覚機器の準備に努める。 □学習内容の確実な定着のために、復習プリントを継続的に実施する。
理科	5年	○正答率は自治体平均を上回っており、概ね良好な状況である。「天気の様子と気温」「物のあたたまりかた」の設問では正答率が高い。 ●「電気の働き」「水のすがた」の設問では正答率がやや低く、記述式の設問に対しての弱さがある。	□理科学習で使用する言葉の意味（理科学用語）を丁寧に扱い、理解を深めてから次の学習に進むようにする。 □学習内容と身の回りの自然現象を結びつけながら学習を進めていく。 □単元終了後、教科書の「やってみよう」のページを週末の課題としたり、学習プリントに取り組んだりする。
	6年	○正答率は自治体平均・全国平均を大きく上回っておりとても良好な状況である。 ○実験結果を基に分析・考察する力が伸びてきている。 ●「土地の浸食」「もののとけ方」の設問に対して正答率がやや低い。	□予想・観察(実験)・考察・まとめの学習過程を明確にし、思考の流れをパターン化し、観察・技能の力を高める。 □ノート指導の充実を図ると共に、課題解決に向かって自分の考えや、その考えに至った理由などを書く時間を大切にする。 □顕微鏡など実験器具の扱い方が確実に身につくように、繰り返し練習する時間を確保する。

(2)市教育委員会の改善策

- 教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「読み取る力」「伝える力」の育成等）について、指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
- 学校司書や読書ヘルパーを配置し、各学校における学校図書館を活用した学習や読書活動の推進を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】
□学習への姿勢・態度	○授業中友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞こうとする気持ちが高く、自分で計画を立て見通しを持って学習しようと考えている児童が多い。 ●予習や復習への取組に課題がある。また調査の設問に対して無解答だったり、あきらめたりする児童がいる。 ●将来の夢や希望は持っているものの、自分に自信が持てず自己肯定感がやや低い児童が数名いる。個別具体的な支援が課題である。
□読書	○読書活動については、朝読書の時間をはじめ「四絡読書の日」の設定、ボランティアさんによる読み聞かせ、外部講師によるストーリーテリングなど、全校で読書活動推進に取り組んでいるため、読書量や時間など全国平均や県平均を上回っている。 ●新聞を読むことに対して全国平均や県平均は上回るものの、反面半数の児童がほとんど読まないという回答している。この課題を解決するために「読売KoDoMo新聞」「毎日小学生新聞」「週刊さんいん学聞」を定期的に購入し図書館でいつでも読むことができる体制を整えている。
□学校生活	○9割の児童が「学校へ行くのは楽しい」「友だちに会うのが楽しい」と回答しており、学校への満足度は高い。 ○「学校のきまりを守っている」という回答は、全国平均や県平均を大きく上回っている。 ●「アンケートQ1」の調査結果と照らし合わせ、学校生活に十分満足していない児童に対してのきめ細かな対応や支援が課題である。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】
□家庭学習時間	○家庭学習を1日1時間以上する児童の割合は、全ての学年で県平均を上回っている。 ●家庭学習の習慣が定着しにくい児童も各学年に数名程度おり、該当児童への支援が課題である。
□テレビ、ゲーム等の接触時間	●全体的に1日当たりのメディア接触時間は、県や全国の平均とほぼ同様であるものの、2時間以上接触している児童に対する、過度なメディア接触に対する指導が課題である。また学年が上がることでメディア接触時間・利用時間が増えていくことも懸念される。
□基本的な生活習慣	○毎日朝食をとり、起床・就寝時間が一定している児童の割合は8割から9割と県や全国の平均を上回り、望ましい習慣が身につけてきている。 ●食事や睡眠等、基本的な生活習慣が定着しにくい児童も各学年に数名ずつおり、家庭や本人への働きかけが課題となる。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】
□健康教育	○健康教育の取組を通じて食事や、起床・就寝など基本的な生活習慣の定着に向けて意識の高い児童が増え、それにつれて家庭学習時間も増加してきた。 ●テレビやビデオ、ゲーム、スマートフォンなどの使用時間については、使用時間に約束を決めている児童が多く望ましい傾向にあるが、反面1日当たり3時間以上使用している児童も1割程度いる。
□ふるさと教育 (生活科・総合的な学習の時間)	●住んでいる地域の行事に参加した経験のある児童は5割、また地域社会で行われるボランティア活動に参加した経験のある児童も6割ほどである。地域や社会で起こっている問題や出来事に関心の高い児童は7割程度であり微増はしているものの伸び悩んでおり、児童や保護者への働きかけや情報提供等が今後の課題である。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	□学校から示した家庭学習の時間(目安は各学年×10分～15分)や内容(音読・読書・漢字ドリル・計算ドリルでの反復練習・授業内容の復習プリント・日記・興味のあることを調べたり、まとめたりするなどの自主学習)について理解し、家庭で実践していく。また新聞を読むことへの関心を高めたり、新聞記事の内容を読み取る力を伸ばしたりするために、定期的に「読売ワークシート通信」を家庭学習(宿題)として取り組む。 □ノーメディアチャレンジ(三中校区共通の取組)を通じて、メディアとの正しい接し方や適切なネット利用(インターネット・携帯・スマートフォンなど)がなされるように努めると共に、チャレンジ期間の望ましい取組がチャレンジ期間以外でも習慣化するように努める。 □「四路読書の日」の取組や読書貯金、家庭学習に読書を取り入れることのねらいを理解し、家庭での読書習慣が身につくように児童に働きかけていく。 □食や睡眠、生活リズムなど望ましい生活習慣は、心と体を健やかに成長させ、学力の向上に直結していることを理解し、家庭で進める健康教育を実践していく。
学 校	□学年の発達段階に配慮しながら、学習規律の定着を図ると共に、毎時間の授業において「学習のめあて」を設定すると共に学習の見通しを持たせる。そして授業の終わりには「めあて」が達成されたかどうか「ふりかえり」で確認をしながら学習を進めていく。 □限られた児童の発言だけで授業を進めるのではなく、少数意見を生かしながら様々な考えに折り合いをつけたら課題や問題を解決していく話し合い活動を充実させていく。 □家庭での自主学習の習慣化を図るために、3年生以上は宿題以外に自主学習にも取り組ませている。しかし自主学習の方法が身についていない児童もあり、内容が不十分なものもある。児童の興味や関心を尊重し、自主学習の方法や内容の指導を適宜見直ししながら、その質を高めていく。 □漢字の習得や四則計算の確実な定着など、低学年の時期から基礎基本的な内容について確実な定着を図る。放課後学習会で取り組む内容をさらに効果的なものにするために学級担任と学習会の指導者間での共通理解を図る。 □読書の幅を広げたり深めたりするために、「全校一斉読書」の時間「ストーリーテリング」や読書ボランティアさんによる「読み聞かせ」等の読書活動を一層充実させていくと共に、教科学習の中で積極的に図書館を活用しながら「調べる」「まとめる」「伝える」という指導過程を工夫する。 □学力向上と相関関係がある「基本的な生活習慣の確立」「体力の向上」「食育の実践」など健康教育について保護者との連携のあり方を工夫し、実践化・習慣化を進める。また児童の興味・関心を高めながら、地域の「人やもの、こと(行事)」などから学ぶ活動の充実を図る。
教育委員会	□調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 □教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 □保幼小・小中連携を推進し、校種間で連携して基本的な生活習慣の定着や学力育成が図られるよう支援する。



つも確認 家庭のルール



っと続ける 家庭学習



っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立高浜小学校

記号について

○:成果

●:課題

□:これからの取組

1 本校の結果の概要

○健康教育を推進してきた成果で、基本的な生活習慣が定着してきている。
○基礎的な力は、昨年度同様に身につけているといえる。
●前年度同様に、文章やグラフ、資料などを読み取って要点をつかむことや、要約したり文の構成に気を付けながら文章を書いたりすることに課題がある。
●前年度から課題である、新聞を読んだり、辞書・辞典や資料を活用して調べたりするなど、学習を広げたり深めたりする点について指導の工夫が必要である。

2 分析結果と改善策

(1)各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○「話す・聞く」に関する問題、漢字の読み、書きに関する問題についての正答率が高い。 ○調べたことを発表することに関する問題も正答率が高い。 ●登場人物の気持ちを読み取る問題がやや弱い。 ●「言葉」に関する問題の「国語辞典の使い方」の問題が弱い。 ●作文に関する問題で弱さが見られる。	□国語辞典の使い方に関しては、使い方に慣れていけるように日常的に使う機会を設定していく。授業で難しい語句が出たときにすぐに意味を調べる習慣をつけていく。 □書く活動を日常的に取り入れていく。作文では、テーマや条件を決めて書いたり、物語文の学習では、読み取りを深めていく手立てとして、登場人物の気持ちを書いたりする。
	5年	○漢字の読み書きがよく身に付いており、基礎・活用ともに市町村及び全国平均を大きく上回っている。 ○物語文や説明文の読解について、人物の心情や内容を大体読み取ることができている。 ●漢字辞典の使い方についての理解が不十分である。 ●適切な情報を読み取り、条件に合わせて表現（作文）することに課題が見られる。また、作文問題に対する無回答率が高い。 ●日頃、新聞記事を読んでいる児童が少ない。	□漢字辞典の使い方について再度確認し、授業や家庭学習等を用い使用頻度を増やす。 □字数やキーワードなど条件を設け、読み取った内容や自分の考えを表現（作文）する機会や時間を継続的に設ける。 □新聞記事を読んだり、書いたりする機会を増やし、社会の出来事への興味・関心を高めるとともに、読み方や書き方への理解を促す。
	6年	○「主として知識」においては、「話すこと・聞くこと」「慣用句」「漢字」などが強みである。授業の中で繰り返し取り組んでいる基礎的な内容が身につけていると言える。 ●「主として活用」においては、「書く」「読む」ことが弱みとして挙げられる。目的に応じて、文章を読んだり、比較して考えて書いたりする能力を高めたい。	□基礎となる知識面の学習を継続する。 □読む活動に親しませる。目的に応じて、たくさんの本や文章を読むようにさせる。 □書く活動をさらに取り入れる。目的や意図に応じ、内容の中心を明確にしたり、自分の考えと比較して書いたりする活動を数多く体験させる。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○学校で既習の問題でもあったため、図形の性質や作図問題については理解している。 ○割り算など、基本的な計算については理解しており、問題が解けている。 ●小数や分数等、数の仕組みを理解した上での計算を解くことが難しかった。 ●基礎的な問題は正答率が高かったが、活用力を問われる問題や文章が長い問題は正答率が下がった。	□自学やプリントで適宜復習問題（3年生問題等）を解かせていく。また、自学のやり方を学級全体で共有したり、紹介したりし、児童に自学を定着させる。 □問題の読み取りや「イメージ」させることや応用問題、長文問題にも適宜取り組ませていく。そのために、授業形態や問題の提示の仕方等、授業づくりに工夫を取り入れていく。
	5年	○基礎は全国を上回り、活用は全国と同等である。 ○計算などの数量についてはよく身についている。 ●図形や面積の理解力に課題があり、記述での解答ができにくい。 ●長さや面積など量の単位換算に課題がある。	□単元ごとの復習を大切にして、知識の定着を深める。 □図形や面積などについて具体物を使って認識を深め、理解につなげるようにする。
	6年	○5年生の時の結果と比較すると、全国平均との差が縮まり、中央値は同レベルである。全国や県と比べ無回答率が大変低く、最後まであきらめずに取り組もうとする姿勢ができつつある。 ●全体の結果の個人差が大きく、小数や図形が含まれた活用問題の正答率が低い。	□引き続きこれまでの学年の内容の復習をとり入れた授業を行い、不十分な分野を補充しながら学習を進める。宿題に活用をとり入れたプリントをとり入れ、基礎的な定着だけでなく、活用的な内容に慣れさせる。 □個々の能力だけに左右されず、あきらめずに頑張ろうとする姿を褒め励ましていく。
社会	5年	○無回答率が低く、意欲をもって問題に取り組んでいる。 ●地図、地形に関する資料を読み取る力に課題がある。 ●都道府県の名称と位置について理解が不十分である。	□授業中に資料やグラフについて個人で読み取る時間を設ける。また、算数科等と関連させて資料やグラフの読み取りを指導する。 □授業内容に合わせて、既習事項を振り返りながら指導する。
	6年	○無回答率が低く、意欲をもって問題に取り組んでいる。 ○社会的事象についての知識は理解している。 ●複数の資料から必要な情報を読み取る力に課題がある。 ●資料から読み取ったことを言葉で表現する力に課題がある。	□必要な情報を取捨・選択するような学習場面を授業に取り入れる。 □身近な新聞記事、雑誌等の資料を用いた指導を行う。
理科	5年	○知識・理解が問われているものの正答率が高い。（満点が3つある。） ○実験・観察を通して得た知識がよく定着している。 ●記述（条件がついた問題）の正答率が低い。 ●イメージが持ちにくい（電流、空気、水蒸気）ものの正答率が低い。	□考察を行う際には、教師が意図的に条件を提示するなど、条件を満たした記述をすることに慣れるようにする。 □電流など目に見えないことでイメージがもちにくいものは、イメージを図に表して友だちに説明する活動を設けたり、日常生活で起こる科学的現象との関連を測って実感を伴った理解を促したりする。このことで、日常生活で起こる科学的現象との関連を図るなど、一般化を行う。
	6年	○無回答率が低く、意欲をもって問題に取り組んでいる。 ○自然事象についての知識・理解は高い。 ●実際には目に見えないもの（電流、水溶液など）に対して思考する力に課題がある。 ●文章や図等の資料から読み取る力に課題がある。	□何のための実験か、目的をはっきりとさせ課題を持たせて実験に取り組ませる。 □実験後に、結果をもとに個々が思考する時間を設け、科学的な思考力を伸ばし、イメージが持てるようにする。また、実験結果、資料、グラフ等の資料を読み取る時間を確保し、総合的に判断できるようにしていく。

(2)市教育委員会の改善策

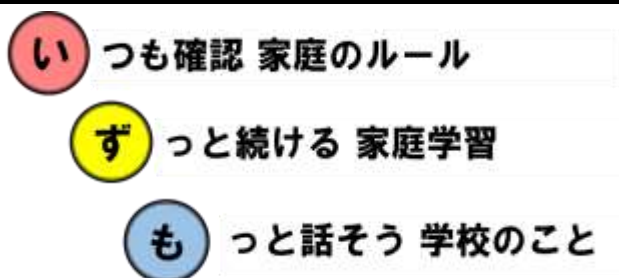
- 教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「考え表現する力」の育成等）について、指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
- 学校司書や読書ヘルパーを配置し、各学校における学校図書館を活用した学習や読書活動の推進を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること ・学習意欲、学習の仕方	【学習に関すること】 ○算数に関して(国調査)6年 大切だと思っけていても好きではない実態がある。 「算数の勉強は大切だと思いますか」 …肯定的評価 93.6% 「算数の勉強は好きですか」 …肯定的評価 58.1% ○学習の仕方について(市調査)4年・5年 辞書や参考書など、調べる学習が十分にできていない。関心を持って、積極的に調べようとする習慣を付けることが必要である。 「勉強するときは集中している」 …4年 76.5% 5年 84.4% 「勉強に辞書を利用している」 …4年 41.2% 5年 37.8% 「参考書や問題集を使って勉強している」 …4年 52.9% 5年 44.4%
・読書等について	○読書等について(市と国調査) 読書を奨励したり、図書館や資料の利用の仕方などを指導していく必要がある。 「本(マンガ・雑誌以外)を読んでいる」 …4年 76.5% 5年 71.1% 「学校の授業時間以外に(月～金)1日の読書に時間(教科書、参考書、漫画、雑誌は除く)」 …6年 2時間以上 3.2% 1～2時間 12.9% 30分～1時間 32.3% 「新聞の記事を読みますか」 …4年 47.1% 5年 22.2% 6年 45.2%
・学校生活への満足度	○「学校が好きか、または楽しいか」 別に行った「アンケートQ U」の結果でも、学校生活に満足している児童の割合は高いが、肯定的な回答が得られなかった児童に支援を行うことが必要である。 …肯定的評価 4年 80.9% 5年 80.6% 6年 94.1%
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】
・家庭学習	○家庭学習内容・方法について 自分から勉強に取り組んでいるが、時間から見ると、4・5年生は、主体性や学習の仕方に課題があることが予想できる。主体的に取り組めるよう指導・支援が必要である。 「家の人から言われなくても進んで勉強している」(市調査) …4年 79.4% 5年 88.9% 「学校へ行く日、学校の授業以外に、1時間以上勉強する児童」(ほとんどしない～30分くらい) (市調査) …4年 55.8%(43.7%) 5年 46.7%(53.1%) (国調査) …6年 80.7% 内訳:2時間以上3時間未満 19.4% 1時間以上2時間未満 58.1% 30分以上1時間未満 16.1%
・メディアとの関わり	○平日のメディアとの関わりについて メディアとの関わりは多い。時間を決めるなど、時間の使い方の指導、家庭での話し合いが必要である。 「自分で時間を決めてテレビを見ている」(市調査) …4年 73.5% 5年 33.3% 「放課後の過ごし方」「週末の過ごし方」(国調査)※複数回答可 家でテレビ・ビデオ・DVD視聴、ゲームやインターネットをする。…6年 79.6% 83.1%
・基本的な生活習慣	○朝食について 朝食の重要性が理解され、きちんと食べて登校している。 「朝食をきちんと食べている」(市調査) …4年 94.1% 5年 93.3% (国調査) …6年 93.5% 「朝食は、家の人といっしょに食べている」(市調査) …4年 88.2% 5年 81.8% ○寝る時刻について 寝る時刻を決めている児童の割合が高く、質の高い睡眠を目指して指導してきた効果が見られた。 「夜は寝る時刻を決めている」(市調査) …4年 70.6% 5年 64.4% 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」 (国調査) …6年 41.9% どちらかといえばしている38.7%
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○学力の育成 ・書取会、計算会の実施 ・算数の補充時間 (毎週水曜日の朝活動) ・夏休み学習会 (7月) ・放課後学習支援事業の実施 ・詩の暗唱 (毎月) ○体力の向上 ・校庭マラソン (毎週水曜日の業間マラソン) ・校内マラソン大会 (年間5回実施) ○望ましい生活習慣…健康教育の推進 ・元気大作戦 (ノーメディア、家庭学習、睡眠、朝食等の実態調査) ・めあてやふり返りカードの活用 (全校行事・活動等でのめあて、ふりかえりカード)

(4)学習状況改善への取組

家 庭	□家庭での余暇の過ごし方,時間の使い方について家族でいっしょに考える。 ・望ましい生活習慣として特に,良質な睡眠が取れるようにする。 ・読書や親子読書などを楽しんだり,自然事象や社会の出来事など,話題にあげたりする。 ・家庭での対話の時間を大切にする。 □家庭学習の時間・内容・方法について,必要に応じて見守り支えていく。 ・「家庭学習の手引き」を改めて親子で読み,家庭学習の時間確保に役立てる。 ・翌日の学校生活の準備(提出物や用具の確認)の徹底を促す。
学 校	□各教科に対する取組 ・国語では,字数などの条件をつけて文章をまとめる活動を取り入れ,良い表現を紹介し,基準を明確にして示す。読書(新聞含む)の奨励,辞書の活用を通し,語彙を広げ社会に目を向けることができるようにする。 ・算数では,低学年から「言葉の式」の表現を大切にする。言葉や式,図を使って説明したり,ノートに書いたりする。単位を使った問題や体験を通して,量感をつかめるようにする。 ・各教科で資料の読み取りや説明の仕方を具体的に指導することで,考えを表現する力をつける。 ・授業の中で「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を積極的に取り入れていくことで,学びを明確にしたり,課題をつかみ,深めたりすることができるようにする。 ・学習した事の良さ,生活の中での活かし方,日常の事象とのつながりを意識できるような内容も取り入れる。 □家庭学習での取組 ・『家庭学習の手引き』の内容を確認し,保護者への確認と協力の依頼を行う。 ・各学年に合わせた自主学習に主体的に取り組めるように,手立ての工夫をする。 □校内研究の柱となる「健康教育」の推進から,心身ともに健やかな子どもの育成のため,『元気アップ』を合言葉に次の3つの視点で取組を進めていく。 ①正しい姿勢で学習に集中できるようにし,体幹を生かした運動能力の向上を図る。 ②生活を見直し,体力づくりの観点からめあてを明確にして取り組ませ,生活習慣の改善を図る。 ③家庭における生活習慣改善のために家庭との連携を一層図っていく。 ・学校保健委員会による親と子どもと教職員がともに学ぶ機会を積極的に設定する。 □「家読」(家庭での読書)の取組が進められるように「ファミリー読書」企画を家庭に呼びかけすすめていく。
教育委員会	□調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し,家庭学習や生活習慣等について学校と家庭,地域が連携して取り組めるよう支援する。 □教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ,児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 □保幼小・小中連携を推進し,校種間で連携して基本的生活習慣の定着や学力育成が図られるよう支援する。



平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立北陽小学校

記号について
○:成果
●:課題
□:これからの取組

1 本校の結果の概要

【市学力調査】	
- 各教科・各学年の正答率は、市・県平均、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。 - 国語は、各学年とも、総合的な学習の時間の実践などの効果がみられて、市（県）・全国平均より高かった。 - 算数、社会、理科は、市（県）平均を上回っているが、全国平均より若干低い学年が多かった。	
【国学力調査】	
- 国語A・B、算数B、理科ともに全国平均を上回った。算数Aを含めて全教科とも、県・市の平均を上回った。 - 各教科の正答率を全国平均と比較すると、昨年度の6年と比べて大きく伸びている項目（領域、観点等）が多かった。 - 各教科で、内容による正答率のばらつき、学年を追うごとの個人差の拡大が見受けられる。下位層に対する基礎・基本の反復学習とともに、上位層に対する発展的な学習の必要性がある。	

2 分析結果と改善策

(1)各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○物語の内容の読み取りはできている。 ○国語辞典の使い方を理解している。 ●漢字の読みと、指定された長さや段落の構成で作文を書くことに課題がある。	□音読を積極的に取り入れ、漢字の読みもできるようにする。日記や普段のノートでも、積極的に漢字を使うように指導する。 □段落を意識させたり、条件（長さや構成、目的など）に合わせて作文を書いたりする練習を行う。
	5年	○漢字の読み書きが高い。 ○聞き取る力や、段落ごとに大まかに内容を読み取る力については高い。 ●漢字辞典の活用、聞いて文にまとめる力、要旨をつかむ力に課題がある。	□漢字辞典の使い方や、主語述語などの文法の学習を意図的に取り入れ、課題を出すなど積み重ねを大切にする。 □国語だけでなく、他教科と関連させて書く活動を取り入れる。資料などから読み取ったことを用いて、文章を書く練習を行う。大事なことを落とさずに書く要約学習を行う。
	6年	○どの領域・観点においても全国平均を大きく上回っている。まとめる力や表現する力が高いのは、総合的な学習の時間を中心にして取り組んできた成果である。 ●文の中で漢字を使う問題の無回答率が高い。	□書取会やドリル的な学習を継続し、文章の中で正しく漢字が使えるようにしていく。 □題意を捉え、自分の考えを文章で表現する場面を授業の中で意図的に入れていく。 □学校図書館の利用を積極的に進めていく。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○計算力については。 ●量感が乏しい（重さ）。 ●分数の意味（もとにする量）の理解や、活用問題を読み解く力に課題がある。	□生活の中で、重さや長さなどの量の測定をする経験をふやす。また、測定前に、量を予想させる。家の手伝いの中で量感を養う。 □生活の中から課題を見つけ、具体操作の経験を十分に取り入れて、分数の意味をとらえさせる。 □なぜそうに考えたかなど、友達に理由を説明する活動を取り入れる。自分の考えを式に入れた形で説明させる。
	5年	○角の大きさ、分度器の使い方。四捨五入、わり算、小数の計算。変わり方調べ、はよい。 ●億と万、kmとm、帯分数と仮分数の変換ができにくく、立体図のイメージが弱い（図形の性質、垂直・平行の用語理解が不十分）。	□立体や平面図形など、具体物を使用し、具体的操作を通して理解を図る。具体的な場面から抽象化する学習を取り入れていく。 □基礎的な知識の徹底、基礎的な計算力を身に付けるために、繰り返して学習する。
	6年	○「図形領域」の正答率が高い。ICTや具体的な操作活動を授業で取り入れている成果が表れている。 ●「数の計算」「数量関係」については、正答率が低い。	□計算会やドリル的な学習を継続して行い、基礎・基本の計算力をつけていく。 □問題を図や表に表して整理し、立式していく過程を大切にしていく。ペアやグループでの学習を取り入れ、多様な考えを引き出していく。
社会	5年	○地図記号や都道府県名などの基礎的知識や体験活動で得た知識、文章資料を読み取る力は身につけている ●複数の資料を関連付けて読み取ったり、読み取ったことをもとに説明したりする力、授業で扱う内容をもとにして発展・応用した内容を問う問題に課題がある。	□資料の読み方の指導をていねいに行う。複数のグラフや統計資料から得た情報を比較・関連付けながら整理し、説明させる学習を行う。 □とらえた事実をもとに、発展・応用して考えるような学習展開を大切にする。
	6年	○林業・稲作など総合で学習した内容の理解、生活の中でふれる情報に関する理解は身につけている。 ●地域にない工業や水産業に関する基礎的な用語の理解が不十分である。	□地域にない学習材の学習も子どもに切実感のある学習に組み立てて、事実の確認だけで終わらない。解決のために自分はどうか考えるか、何が必要かなど解決のあり方を考えさせる。 □子どもが生活の中でもっている漠然とした概念を、授業の中で一般化する。授業のまとめを確実にし、身につけさせたい知識を明確にして、知識理解のおさえをする反復練習の場を設ける。
理科	5年	○生活科や総合的な学習の時間に体験したことが授業に生きている。 ●授業中に実験したことに関する知識は身につけているが、生活の中で体験したことは不確かである。 ●問題を正確に理解する力、資料を読み取って情報を得る力に課題がある。	□学習の中で理科用語を積極的に取り入れ、活用する学習を行う。授業のまとめで理科用語の意味をとらえさせる活動を工夫したり、理科用語の説明を掲示したりして、定着を図る。 □体験的な学習や生活場面に結び付けた学習を行う。
	6年	○「物質」、「エネルギー」、「生命」の区分の正答率が高い。実験や観察の結果が明確で、実感を伴った理解に結びついている。 ●「地球」の区分の正答率がやや低い。	□予想、実験、結果、考察の過程を大切に授業を行う。 □目に見えない事象を「見える化」するために、映像教材などのICT活用を進めていく。

(2) 市教育委員会の改善策

□教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「書く力」「説明する力」の育成等）について、指導と助言を行う。

□出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。

□学校司書や読書ヘルパーを配置し、各学校における学校図書館を活用した学習や読書活動の推進を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題 ④⑤⑥は学年, %は肯定的回答の割合, (数)は全国や自治体平均を示す。
①学習に関すること ・ 安定した学校生活 ・ 学習の取組と理解度	【学習に関すること】 ○学校生活に満足している。学年差が大きい, 多くの児童が自己肯定感をもっている。 ・ 「学校が好き」④88%(81), ⑤89%(81)。・ 「自分のよさを認め」④75%(71), ⑤78%(67), ⑥67%(85), 周囲からも認められていると感じている。…「先生から」④60%(59), ⑤74%(56), ⑥75%(85)。「友達から」④60%(62), ⑤82%(61)。「家の人から」④74%(76), ⑤92%(75)。 ○前向きな姿勢で学校生活をおくり, 学校・学級の一員としての役割を果たそうとする。 ・ 「将来の夢や目標をもち」④90%(88), ⑤87%(87), ⑥82%(85), 「自分の力を伸ばしたい」④93%(91), ⑤98%(91), 「役立つ人間になりたい」⑥90%(95)と思う。 ・ 「学校のきまりを守り」④96%(91), ⑤98%(90), ⑥87%(89), 「学級で協力した喜び」をもつ。④91%(79), ⑤87%(81)。 ○安定した生活を基盤にして学習に真剣に取り組み, 授業が分かると回答する児童も多い。 ・ 「進んで勉強」④78%(72), ⑤84%(70)。「集中して勉強」④81%(78), ⑤91%(76)と高く, ・ 「授業が分かる」は, ④国83%(87), 算86%(87), ⑤国98%(88), 算87%(85), 社95%(85), 理96%(90), ⑥算76%(83), 理93%(89)。 ●話し合い活動ではやや受動的な側面もあり, 協働・対話の学習を継続する必要がある。 ・ 「先生の話聞く」④95%, ⑤98%や「ノートをとる」④93%, ⑤97%が高いのに対し, ・ 「考えを書く, 発表するのは難しい」は④45%(51), ⑤52%(53)で, 「意見発表が得意」も④66%(59), ⑤59%(55)で高くない。「分からないことを質問する」も④72%, ⑤55%。
②家庭生活に関すること ・ 家庭学習時間 ・ テレビ等の時間 ・ 基本的生活習慣 早寝 早起き 朝ごはん ・ その他 家族との関わり 新聞・ニュース	【家庭生活に関すること】 ●平日の家庭学習の時間は, ⑥1～2時間48%(37), ④⑤1時間以上が57%(38), 50%(55)で最も割合が多い。30分未満④12%(19), ⑤11%(10), ⑥5%(10)に対する指導が必要である。 ・ 「計画を立てて勉強」⑥は67%(67)で全国平均並みだが, ④72%(65), ⑤80%(65)は高い。 ・ 宿題は④⑤は95%以上, ⑥は93%(97)程度がしている。予習・復習は学年・教科により差があるが, ⑥75%(62)と高く, ④⑤は市平均と同程度。 ○テレビ視聴。⑥の73%が放課後の過ごし方を選んで。視聴時間は1時間以上が④55%(41), ⑤43%(53), ⑥不明だが, ④50%, ⑤65%が「自分で時間を決めて見ている」。 ○早寝・早起き・朝ごはんは, 全国平均以上で, おおむね良好な状況である。 ・ 「同じ時刻に寝る」の肯定的回答は, ④63%(63), ⑤73%(58), ⑥83%(77)で全国平均より高い。多い。 ・ 「同じ時刻に起きる」の肯定的回答は, ④85%(80), ⑤90%(81), ⑥90%(88)で全国平均より高い。6:30くらいの起床の割合が最も多い。8～9時間睡眠の割合が最も多い。 ・ 「毎日朝ごはんを食べる」は④95%(94), ⑤99%(94), ⑥93%(94)。家族と一緒に朝食を食べるのは約80%(72)程度。 ○「家族に学校のできごとを話す」のは, ④87%(82), ⑤88%(82), ⑥77%(80)。⑥家庭での過ごし方の上位3項目は, 平日放課後「1 テレビ等, 2 勉強・読書, 3 家族と」, 週末「1 家族と, 2 テレビ等, 3 友達と」で, 家族との関わりは, 多くの児童は良好である。 ●「ニュースを見る」は, ④82%(77), ⑤91%(79), ⑥87%(86)で全国平均よりも高いが, 「新聞を読んでいる」は④33%(36), ⑤52%(36), ⑥30%(20)で, 全国平均より高いが割合は少ない。新聞を読む機会や場の設定が必要である。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○総合的な学習の時間に, 学級ごとに地域の学習材を選び, 地域への愛着をもって課題を解決していく児童の育成を目指している。地域, 地域の人との関わりは深まってきている。 ・ 「地域行事への参加」は④51%(66), ⑤62%(61), ⑥48%(62)と低いが, 「地域・社会への関心」は④71%(64), ⑤80%(71)と高く, ⑥84%(74)が「授業で地域と関わった」ことがあり, 「地域が好き」④93%(90), ⑤95%(88)と答えている。 ・ 授業で「話し合う活動をよく行っていた」は④88%(81), ⑤95%(78)。授業構想を大切に, 思考ツール等を活用しながら対話・協働を目指す学習を展開している。 ●図書館活用教育。司書教諭・学校司書と連携して授業を進めたり, 「家読」などにより図書館活用の習慣づくりを図ったりしてきた。今後とも継続した取り組みが必要である。 ・ 「平日の読書時間」は, 30分未満の短い児童が④65%(57), ⑤58%(62), ⑥71%で, 多い。「全く読まない」も, ④32%(20), ⑤11%(20), ⑥26%(19)いる。 ・ 「授業で図書館利用」は④28%(28), ⑤38%(22)で, 授業以外も含めて週1回以上の利用は④39%(33), ⑤50%(32)。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	□ 「学力パワーアップ週間」 学校から配布・説明された「家庭学習のてびき」や「学年の家庭学習について」を活用しながら、〈10分×学年+10分〉を目標に計画的に学習に取り組ませ、家庭学習習慣づくりを行う。 □ 「ノーメディアチャレンジ週間」 三中学校区の他の学校と連携して実施する。夜9時以降にテレビなどのメディアに接しないことを共通目標とし、メディアへの接し方や家庭での生活時間の使い方を家族全員で見直す機会とする。子どもと一緒に話し合って、使用時間などのルールを決める。 □ 「家読」 家族で一緒に本を選んで一緒に読書をしたり、子どもへの読み聞かせや子どもからの読み聞かせをしたりして読書習慣づくりを行う。 □ 「早寝・早起き・朝ごはん」の効果を理解し、家族みんなで規則正しい生活リズムを確立する。子どもたちの成長を目指して学校と連携する。
学 校	次の改善策は、校内研究（生活科・総合的な学習の時間）や訪問指導等とも関連づけながら、今年度の授業づくりの重点として取り組む。(1)の各教科の改善策は、該当の学年を中心に取り組む。 □ 全学年で「グー、ピタ、ピン」を合言葉に学習に向かう姿勢を指導したり、話し方・聞き方を学年に応じて段階的に指導したりして学習規律を整える。 □ 「めあての確認・課題をつかむ・ふかめる・ふりかえる」の学習過程を大切にする。 授業の「めあて・ねらいが提示」されていた④94%,⑤92%に対して,「振り返り」がされていた④75.5%,⑤85.5%が低い。学習したことをまとめ、振り返ることに重点をおいた改善を行う。 □ 切実感のある課題の発見や学習材を工夫する。思考ツールを活用し思考の可視化・操作化に努める。 様々な方法で学習材にアプローチできる学習や、思考ツールを活用した学習などを積極的に行い、授業で使った思考ツールを紹介する時間を設け、全職員に広げる。 □ 図書館を活用した授業の実践を進める。 図書館活用やインターネットでの調べ学習で,「読む」「書く」「調べたことをまとめたり伝えたりする」活動の充実を図る。 □ 資料活用の関心や技能を高めたりするために,視聴覚機器やICTを効果的に活用する。 □ 個に応じたきめ細かな指導や,書取会や計算会,音読等によって基礎学力を確かにする。 □ 家庭での学習・読書の習慣化の手立てを検討する。 「学力パワーアップ週間」,「ノーメディアチャレンジ週間」,「家読」の取組を統合してシンプルにする。児童・家庭・学校の三者が学習・読書習慣づくりに集中的に取り組むことができるような方法を考える。
教育委員会	□調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し,家庭学習や生活習慣等について学校と家庭,地域が連携して取り組めるよう支援する。 □教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ,児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 □保幼小・小中連携を推進し,校種間で連携して基本的生活習慣の定着や学力育成が図られるよう支援する。



いつも確認 家庭のルール



ずっと続ける 家庭学習



もっと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立神西小学校

記号について

○:成果

●:課題

□:これからの取組

1 本校の結果の概要

○全教科を通じて、基本的な学習は概ね身につけている。

●市・県・全国平均正答率と比較すると、学年や教科によっては、ほぼ同程度か多少上回るものもあった。しかし、少なからず市・県・全国平均正答率を下回り、中には大きく下回るものもあった。

2 分析結果と改善策

(1)各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○大事なことを落とさないように聞き取ることができる。 ○漢字の読み書き、国語辞典の使い方の理解は概ね良い。 ●指定された長さで文章を書く、2段落構成で文章を書くなど、指示に従って文章を記述することに課題がある。	□漢字練習を継続する。 □主語・述語の確認や接続詞への着目により、読み取りの技能向上を図る。 □文章と資料を関連付けて読むトレーニングを行う。 □国語の「書く」単元を更に丁寧に指導する。
	5年	○話し方の工夫に注意して聞き取ることにはできている。 ○漢字の読み書きは概ね良い。 ●求められている情報を取り出し適切な言葉で表現することに課題がある。	□漢字の意味調べや関連付けなどの学習を漢字練習に合わせて進めていく。 □国語の「書く」単元を更に丁寧に指導する。 □社会科、総合的な学習の時間や国語において、結果を文章でまとめる時に目的や条件を意識させて文章表現をさせる。
	6年	○日常生活で使われている慣用句の意味を理解している。 ○漢字の読み書きは概ね良い。 ●登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることに課題がある。	□書取会を実施し、それに向かって見通しを持って練習していく取り組みを行う。 □自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、結論付けを明確にしたりする学習を展開する。 □叙述と自分の体験や他者の解釈とを結び付けたり、他の作品と比べたりして読む学習を展開する。 □条件に従って書く課題に計画的に取り組ませる。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○数の相対的な大きさについて理解している。 ○時こくと時間について、理解している。 ●整数－小数第一位の計算について、課題がある。	□位をそろえて計算し、くり下がりきをきちんとできるように、確実な計算力のいっそうの定着を図る。 □文章問題では、計算結果が表すものを確認し、言葉、式、図をつなげて考えられるようにしていく。
	5年	○千の位までの概数にする方法を理解している。 ○180°より大きい角の大きさを求める式を選ぶことができる。 ●長方形の面積を求め、単位換算することや二次元表の読み方の理解に課題がある。	□基本的な計算の習熟を図ることや、位取り表を活用し、数の表し方を復習しながら、単元の学習を進めていく。 □単位の換算を確実にできるようにするためには、まず、単位同士の関係を理解しなければならない。例 $1000\text{m} = 1\text{km}$ □操作活動と作図作業を通して理解させる。
	6年	○十進位取り記数法で表された数の大小について理解している。 ○180°の角の大きさを理解している。 ●円周率の意味理解について課題がある。	□直径や円周のきまりを、具体的な場面と結びつけ理解する。 □授業の中に説明し合う活動を多く取り入れ、互いの説明を検討させていくことで、問題の内容や解法・式の意味を最後までしっかり考える力をつけていく。
社会	5年	○廃棄物の処理の仕方について、資料を読み取ることができる。 ○県の様子として、外国から観光客を招き入れようとする工夫について、資料を読み取り考えることができる。 ●交番の働きや、地図の見方についての理解に課題がある。	□学習したことを一般化できるように学習のまとめを行う。 □学習の中で地図を扱うときには、グーグルマップでの実際の画像と見比べる活動を行い、地図に表されているものと、実際の様子をつなげる。さらに、縮尺から実際の距離を計算する練習を行う。
	6年	○日本の食料生産については、概ね理解している。 ●米の消費量を増やすための工夫や努力について考えたり、工業生産の関連工場の働きの理解に課題がある。	□グラフを読み取って考える類題に取り組む時間を増やす。 □用語を正しく理解し、文章や発言のなかで使えるようにするための学習を計画する。
理科	5年	○温度による空気、水、金属の体積の変化量についてよく理解している。 ○筋肉のようすについてよく理解できている。 ●「電気のはたらき」の内容について課題がある。	□キーワードなどを使って、自分の言葉で結論を導き出したりまとめたりする活動を取り入れる。 □課題に対して、予想、実験・観察、結果、考察、まとめの流れを大切に授業展開をし、自然事象についての実感を持った理解ができるようにする。
	6年	○人の腕が曲がる仕組みを理解している。 ○実験結果から電流の流れ方について理解できている。 ●土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することに課題がある。	□実験をする際、器具や実験方法についての定着を図るための手立てを丁寧にする。（まず、自分で実験方法を考えてみる。実験方法となぜこのような実験方法が適しているのかなどについての学習を丁寧に行う。器具の名前を確認しながら実験する。） □実験結果からわかることを、グラフ等を活用しながら丁寧にまとめ、類題を繰り返す。

(2)市教育委員会の改善策

- 教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「書く力の育成」）について、指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
- 学校司書や読書ヘルパーを配置し、各学校における学校図書館を活用した学習や読書活動の推進を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○「家で、学校の宿題をしていますか」、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」の問いに、肯定的に答えている児童の割合が全国等の割合より高い。このことから児童は家で進んで学習に取り組む習慣がついてきていると言える。 ○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の問いに、2時間以上、1時間以上と答えた児童の割合を合わせると全国というより10ポイント以上高い。わずかな空き時間にも本を出して読む児童が多く、読書の習慣が身につけている児童が多い。 ●「算数の勉強は好きですか」の問いに、肯定的に答えている児童の割合が全国等の割合より低くなっている。より算数を好きになるような指導を工夫する必要がある。 ●「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」の問いに、肯定的に回答した児童の割合は48%と低く、全国よりも13ポイント低い。また「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の問いに、肯定的に回答した児童の割合は64%で、全国よりも13.7ポイント低い。学習に対して消極的な傾向があり、発表することに慣れていないので、様々な発表の場を設けることが必要である。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の問いに、肯定的に回答した児童の割合は、全国を20ポイント上回っているので、地域とのつながりが深いことがわかる。 ○92%の児童が朝食を毎日食べていると答え、76%の児童が毎日同じくらいの時刻に寝ていると答え、96%の児童が毎日同じくらいの時刻に起きていると答えている。このことから安定した家庭での生活習慣が身につけていると言える。 ●「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の問いに、否定的に答えている児童の割合が40%と、市、全国よりも多い。家庭の協力を得ながら、児童の意識を高める取り組みを今後も継続していく必要がある。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○本校は、「人の立場や気持ちを理解し、必要な時には手を差し伸べられる力を育てる」ことを重点目標の一つとして、日々の教育活動に取り組んでいる。「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、の問いに肯定的な回答をした児童はそれぞれ84%、88%と、いずれも高い。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	□学校が発行した「家庭学習のてびき」に目を通し、家庭学習で子どもが取り組む学習内容（音読、漢字、計算など）を確認する。また、学年に応じた家庭学習の時間のめやす（高学年で、50～90分間）を知る。また、自主学習（自学）にも積極的に取り組ませる。 □学校で出された宿題の内容を知り、わが子が確実に取り組んでいるかを確認し、できていない場合には助言と激励をする。 □各家庭で子どもの起床や就寝の時刻を決めたり、テレビやゲームなどに接する時間について相談して決めたりするなど、基本的な生活習慣を親子で作っていくように取り組む。 □「学級だより」や「連絡帳」などに目を通し、学校での学習や活動について知り、学校生活や学習、友だちのことなどについてを家庭の話題にしていく。
学 校	□本時のねらいを明確にした授業作りを行う。 ・学習への見通しや到達点を明確にすることで、意欲を持って学習に臨めるようにする。 ・毎授業の課題提示の場面で「めあて」を、終末に「ふりかえり」を黒板に明示し、学習の振り返りとまとめを確実に行う。 ・授業後の児童の定着の度合い等の実態を把握し、その後の授業展開・教材等の見直しや工夫につなげる。 □練り上げる活動を重視し、言語活動の充実を図る。 ・授業ごとの中心課題に対して、児童主体による解決の時間を意図的に設け、児童相互が意見を出し合い対峙しながら、本時のねらいに迫る授業を展開する。 □学ぶ意欲の基盤となる、基礎学力の定着指導を継続する。 ・学習への取組が円滑になるように、「家庭学習の手引き」や「学習の構え」の共通理解を職員と家庭とで図り、児童に指導していく。 ・学年に応じたノートの手まね方や、振り返りのできるノートづくりを指導する。 □個に応じた指導と支援の在り方を検討する。 ・学力調査結果を元にした自校の実態の把握と分析を全教職員で行い、個に応じた指導や発展的な学習内容を検討する。 ・児童の実態に合わせた指導や、支援が必要な児童への効果的な個別指導など、どの子も分かる・できる授業づくりを研究する。 □安心して学習に取り組める学級集団づくり ・「QUアンケート」を全学年で実施し、結果を分析して児童が自己表現のできる学習集団づくりに活かす。
教育委員会	□調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 □教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 □各学校が作成した「家庭学習の手引」をオロチネットで互いに閲覧できるようにし、各学校が他校の取組を参考にしながら自校の家庭学習定着に向けて取り組めるよう支援する。



つも確認 家庭のルール



っと続ける 家庭学習



っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立平田小学校

記号について

○:成果

●:課題

□:これからの取組

1 本校の結果の概要

〈 全国学力調査に関して 〉

○国語Aで日頃の取り組みの成果が出ていた。特に「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」に関する領域の設問でその傾向が顕著であった。

○算数Bの図形領域の設問の正答率は、県平均より高く積極的に視聴覚機器を活用して指導した成果が出ていると考えられる。

○理科のA区分の物質に関する設問の正答率は県や全国と比べて高く、体験を通して学んだ知識が定着していることがうかがえる。

●国語Aでは「読み」に関する設問、国語Bでは「話すこと・聞くこと」に関する正答率が低かったことから、特定の領域の力が低いわけではなく、設問の内容等に左右されることが考えられる。

●算数は、市や県の正答率の傾向とあまり大きな差はなかったものの、算数Aの小数の割り算や適したグラフを選択する設問で、正答率が低かった。

〈 市学力調査に関して 〉

○4年と6年は市や県の平均と大きな差は無く、おおむね良好な状況となっていた。

●5年は、どの教科も市や県の平均より正答率が劣っており、国語の作文や算数の計算のきまりやグラフに関する設問、理科の天気や天体、社会の地図の見方で正答率が特に低く課題が見受けられた。

2 分析結果と改善策

(1)各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○漢字の読み書き ○説明文の読解 ●主語と述語についての理解 ●叙述をもとにした物語文の読解 ●指定された長さで文を書くこと ●書こうとすることの具体例を挙げて書くこと	□漢字練習に併せて、実際に文に活用することができるよう日記等で指導を行う。 □スピーチ活動等の言語活動を朝終礼をはじめとした日常生活の中で積極的に取り入れ、語彙の補充、表現力の向上を目指す。 □自由作文だけでなく、条件作文を書く機会を増やす。
	5年	○話の内容を聞き取ること ○第4学年配当漢字を読むこと ●話を聞き、聞き取った内容をまとめたり、求められている情報を適切に取り出したりすること ●指定された文字数や段落構成で文章を書くこと ●文の構成（修飾語）についての理解	□自分の考えを積極的に話したり、相手の話をしっかり聞き取ったりすることができるように、話し合いの機会を増やす。 □考えを比較したり、伝えたいことを短くまとめたりすることができるよう、自分の考えをまとめて書いたり、考えを交流したりする活動を積極的に行う。 □読書量を増やすため、学校図書館と連携を密にする。 □漢字や音読の練習が不足しているので家庭との連携を行い、学習習慣の定着を目指す。
	6年	○漢字の読み書き ○無回答の設問が少ない。 ●話すこと・聞くことの設問に対する正答率が低い。	□毎日の漢字学習、毎月の書取会を継続する。 □無回答が少ない点について児童に伝え、あきらめないで何とか答えを出そうという意欲を持続させる。 □自分たちで話し合う活動を十分に行えていないので、話し合い活動を意識的に設定していく。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○数の相対的な大きさ、小数のしくみ、除法の立式、□を使った式、三角形の作図は概ね理解している。 ●位取り記数法、1を表す分数、数直線上の分数、時間の計算、道のりの計算、重さの単位、計算の仕方の説明、棒グラフの読み取り。	□学習場面での数直線の使用頻度を高める。具体物の操作と関連づけて指導し、理解を深められるようにする。 □時刻や時間の経過についての生活との結びつきが弱いので、学校生活全般での意識づけを行う。 □数学用語を用いて順序立てて話すことができるように、説明する活動と指導に力を入れる。
	5年	○分数を数直線上に示すこと ○180度より大きい角度の大きさを求める式を選ぶこと ●長方形の面積の計算と単位換算 ●四角形の対角線の性質 ●面積を二等分する方法の説明	□課題となっている領域については、共通して学習量が不足しているため質を担保できないと考える。児童の意欲は高いので、意欲を持続しながら学力補充の時間や家庭学習で定着を目指す。 □算数で用いる語彙、表現の扱い方がわからない児童が多いので、学習の中で自分の考えを伝え合う活動を積極的に行う。 □問題文の中で何を問われているかが分かっていないので、国語科を中心に読解力を高める指導を行う。
	6年	○単位量あたりの問題ができていた。 ○無回答が少ない。 ●数直線の利用に抵抗がある。 ●小数の割り算ができていない。 ●計算のきまりを理解していない。 ●グラフを読み取る力がない。	□研究で取り組み、成果が見られた分野は継続して指導を行う。 □無回答が少ない点についてはしっかりと認め、意欲を持続するよう努力する。 □数直線を使って考えるような指導時間を確保する。 □筆算の仕方など基本的なことを宿題プリントや補充学習の時間を利用して定着させる。 □社会科等の時間と関連させ、複数のグラフを読み取る経験を増やす。
社会	5年	○社会の出来事を知るためにニュースを見たり、学習した知識を家の人に話している児童が多い。 ●資料から県の地形や交通の様子、伝統産業等の特徴を読み取ること ●地図中の方位や土地の断面図を読み取ったり、地点間の距離を求めたりすること ●安全を守る活動や生活環境を守る活動についての理解	□ニュースを見ている児童の割合が高い反面、新聞を読んでいる児童の割合が低いので、探求心をもって新聞を読んでいけるよう意欲づけを行う。 □学習したことと自分自身の生活・住んでいる地域を結びつけて考えられるよう授業の展開を工夫する。 □復習不足で社会的知識や技能が身につけていない児童が多いので、家庭と連携しながら学習習慣の定着を目指す。
	6年	○比較的、よく理解しており活用力も見られる。 ●日本の国土については理解が不十分な児童が比較的多い。	□5年生の学習においてグラフの読み取りを意図的に行ったり視聴覚教材を活用することが理解につながったので、今後も継続する。 □全国の河川や山脈などの名称を覚えるような学習が少なかったので学習プリントやフラッシュ教材を用いて定着を目指す。
理科	5年	○グラフから最高気温を読み取ること、天体に関する問題は概ねできていた。 ●理科の学習習慣が定着していない。 ●空気中の水蒸気を取り出す方法を推測すること、星座早見の使い方・見方、天気と気温の関係については苦手意識を持つ児童が多い。	□出雲科学館での理科学習はとても効果的ではあるが、短時間で多くの内容を学ぶので、学校で再度確認し、理解を確実にする。 □学習内容と他教科や生活場面でのつながりを考えることができるように指導を行い、理解を深める。
	6年	○実験を通して実際に体験した項目についての理解はよくできている。 ●生命に関する理解が十分でない。 ●自然事象に関する理解が十分でない。	□科学館学習やグループの実験をすることで力を付けているので、学習内容のふりかえりを確実にし、より定着するよう努める。 □目に見えない筋肉の仕組み、天体などイメージしにくいものについては理解がしにくい傾向にある。ICTや模型などを活用し、見えないものを可視化する指導を工夫する。

(2)市教育委員会の改善策

- 教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「読解力の育成」等）について、指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
- ICT機器等の整備を推進することにより、各学校における授業改善や児童生徒の学習意欲向上を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○4年生は、勉強に役立つテレビ番組を選んで見る子や家庭で家の人から言われなくても進んで学習に取り組んだりする子が多い。また、学習するときは集中して取り組めると答えている子が多いなど、良い傾向が見受けられる。体力づくりの面でも積極的に運動するなどのよい習慣が定着している。 ○5年生は、テレビのニュースをよく見たり、勉強に役立つテレビ番組を選んだりすることができている。また、図書館を利用したり参考書や問題集などを使って勉強するなど、教科書以外のものを効果的に使用することができている。 ○6年生は新聞を比較的良好に見る子が多い傾向にある。また、将来理科や科学技術に関係する職業に就きたいと考える子が多く、理科に関心を抱いている子が多いことがうかがえる。 ●5年生は、勉強をする場所や勉強の準備、勉強の計画性の項目で平均よりポイントが低く、改善のための指導を継続していく必要がある。 ●6年生は家での予習・復習や、平日の読書量のポイントが県や全国の平均と比べて低い傾向にあり、改善するための指導を継続する必要がある。また、算数や理科への興味・関心が低い傾向にあり、子どもが関心を持つような教材を用いたり、大型テレビを利用して視覚に良質な教材を与えたりするなどの授業の工夫が必要とされる。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○4年生は朝自分で起床したり、朝食をきちんと食べる・家族と一緒に食べたりする等のポイントが全国平均と比べて高く、1日のスタートが良好であることがうかがえる。また、出かけるときの挨拶や行き先を出るなどのポイントも高く、特に「行ってきます」「ただいま」の挨拶は100パーセントと全員がきちんとできている。遊び時間も計画的に決めていたり、学校の決まりを守って帰宅したりするなど、良い生活習慣が築かれている。 ○5年生は、家の人と決めた約束や決まりを守る・家の手伝いをしている・出かけるとき行き先を言っておくなどの項目で、全国平均を上回っていた。また、家でテレビを見る際も番組を選んでみる子が多いなど、良い傾向がうかがえる。 ●4年生は、多くの項目で全国の平均を上回っているが、出かける前の忘れ物の確認や地域の行事への参加・ニュースをみたり新聞を読んだりする項目で若干全国の平均を下回っている。 ●5年生は、家庭で勉強する際の場所が定まっていなかったり、学習用具を用意してから勉強に取りかかれなかったりと、勉強への取り組み方に課題が見つかった。また、家庭での読書の時間が少ない・計画的に勉強するなどの項目で全国平均を下回っており、家庭と連携して改善する指導を続けていく必要がある。 ●6年生は、家庭での勉強への取り組み方に課題があり、家での予習・復習や勉強時間・読書・計画的な勉強などの項目で全国の平均点を下回っていたため、中学に向けて継続的な指導と家庭と連携しての働きかけが必要である。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 今年度も家庭と連携して学期毎に生活チェックを行ってきている。また、中学校校区で取り組んでいる毎月十日のノーメディアデーに2学期から積極的に取り組むように指導している。 ○4年生は、通信添削や家庭教師・塾を利用する割合が低い、自発的に学習したり読書したりする習慣が身についている。 ○4、5年生では、今年も家族一緒に朝食や、挨拶、外出時に行き先を告げるなど基本的な生活習慣により傾向が見られた。 ○6年生は、新聞に目を通す児童が多いことがうかがえた。 ●5年生は早寝早起きの生活習慣が定着していない傾向にある。また、家庭学習の場所が定まっていなかったり、計画的に取り組めなかったりする等、改善すべき課題がある。 今後もメディアとの付き合い方に関しては、家庭と連携して指導していく必要がある。また、早寝・早起き・朝ご飯・睡眠時間の確保なども継続して指導していきたい。 ●6年生は、昨年同様、家庭学習の取り組みなどで個人差が大きいのが目立っている。自発的に学習に取り組む意識を育てていくことが、学年全体の学力向上につながるものと考えられる。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	全学年共通 □学習について振り返りを書いたノートと一緒に見て、児童の強みや課題を知り、課題については家庭学習の際に適宜確認する。 □学校司書、司書教諭が中心となっていく、読書量が増えるような活動(読書ビンゴ、オススメ本、ブックトークなど)について情報提供を受け、児童の実態に応じて家庭でも取り組む。 □各教科で学習していることに関する図書を朝読書の時間に紹介したり読み聞かせをしたりする活動について知り、家庭でも読書に取り組むよう促す。
学 校	4年 □理科や社会科の宿題プリントを週末に出して、定着を図る。 □学習漫画から距離を置けるよう、学校図書館と連携して読書の幅を広げるような活動に取り組む(読書ビンゴ、おすすめ本の紹介、ブックトーク等)。 5年 □基礎基本の定着、長文への慣れ、問題文から問いを把握する力、問いに正対して文章で解答する力の定着等为目标に、家庭学習や朝学習、補充の時間等で反復して練習をさせる。 □教科に関わらず教科書を音読する機会を増やし、内容理解につなげる。 □授業のはじめに何ができるようになればよいか目標を明確にし、見通しをもたせる。 □授業の振り返りの時間を確実にとり、分かったことと分からなかったことを明確にして、次時につなげる。 6年 □聞き方、話し方の「あいいうえお」を徹底する。 □詩の暗唱など、声を出すことに慣れさせる。 □友達が言ったことを自分で再現することができるようにする。 《教員の指導の課題》 □家庭学習の細かい指導、様子の把握 □主体的、対話的で深い学びになるように、自分の考えを広める場面を意図的に設ける。また、何でも言えるような学級の雰囲気作りに努める。 □「学習用具を当たり前でそろえ、授業に集中し、ノートを取り、発表する」の授業の受け方の基礎基本の指導を徹底する。 □家庭学習が十分でない児童は、放課後に個別指導を行う。
教育委員会	□調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 □教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 □保幼小・小中連携を推進し、校種間で連携して基本的生活習慣の定着や学力育成が図られるよう支援する。

い つも確認 家庭のルール

ず っと続ける 家庭学習

も っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立瀬分小学校

記号について

○: 成果

●: 課題

□: これからの取組

1 本校の結果の概要

- 4年生の国語，算数においては，全国とほぼ同程度かそれ以上で良好な状況である。特に算数の図形の領域は，全国を上回っている。
- 5年生の算数においても，全国とほぼ同程度かそれ以上で良好な状況にあるが，「算数への関心・意欲・態度」の観点に課題が見られる。
- 6年生の理科，社会においても，全国とほぼ同程度かそれ以上の良好な状況にあるが，社会「情報産業や情報化社会」の領域にやや課題が見られる。
- 5年生の国語においては，すべての領域・観点において課題がみられる。特に「書くこと」の領域，「書く能力」「読む能力」の観点に大きな課題が見られる。
- 6年生の国語においても，「書くこと」の領域，「書く能力」の観点に課題が見られる。
- 5年生の社会においては，「生活環境を守る活動」の領域に課題が見られる。
- 5年生の理科においては，「自然事象への関心・意欲態度」，「科学的な思考・表現」の観点に課題が見られる。
- 6年生の算数においては，「数量関係」において課題が見られる。

2 分析結果と改善策

(1) 各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○漢字を正しく読んだり書いたり，調べたことを伝えるために効果的な方法を選ぶ力はある。 ●目的意識をもって，条件や結論を意識しながら書いたり，話したりする力が十分ではない。	□国語科を中心にして，目的意識や相手意識をもちながら話したり書いたりする学習を授業の中に組み入れていく。
	5年	○漢字を正しく読んだり書いたり，物語の登場人物の心情を読み取る力はある。 ●目的意識をもって，条件や結論を意識しながら書いたり，話したりする力が十分ではない。	□国語科を中心にして，目的意識を明確にして文章を書いたり話したりする学習を授業の中に組み入れていく。
	6年	○話し言葉を理解したり，会話から相手の意図をとらえたりできる。 ●文章の要旨をとらえたり，条件や目的に合わせて文を書いたりする力が弱い。	□資料的な文章から大切な要素を見つけ出す力を養うために，目的意識をもって読み，表現する機会を授業中に意識して設ける。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○基礎的な計算の力がかなりあり、文章問題においてテープ図が理解でき立式もできる。 ●長文の問題の理解に時間がかかる。友達の考えを自分の言葉で説明する力が弱い。	□友達の考えを図や式、言葉をつないで説明する活動を算数の中で積極的に取り入れていく。 □一人一人が考えを書いたり話したりして積極的に表現する力を授業の中でつけていく。
	5年	○四則混合の計算のきまりが分かり、基礎的な計算の力がある。 ●友達の考えを自分の言葉で説明する力が弱い。	□友達の考えを図や式、言葉をつないで説明する活動を算数の中で積極的に取り入れていく。 □一人一人が考えを書いたり話したりして積極的に表現する力を授業の中でつけていく。
	6年	○単位量当たりの大きさを比較したり、除法の式と商の意味を理解して大きさを求めたりすることができる。 ●条件を理解し、思考し、言葉や図や式を使って説明する力が十分ではない。	□資料の中から必要な情報を取捨選択したり、長文の問題に示された条件を正確に読み取ったりする力を育てるために、算数に限らず他教科においても授業や家庭学習の中で長文読解や要点まとめ、情報の取捨選択のスキルを積み重ねていく。 □図と式と言葉をつないで友達の考えを考える活動を算数の中で積極的に取り入れたり、一人一人が考えを書いたり話したりして積極的に表現する力を授業の中でつけていく。
社会	5年	○各単元の基本的知識は身につけていて、資料を読み取る力もついてきている。 ●地域の消防や廃棄物処理場などの見学から理解したことを自分たちの生活の中の消防や公共の施設の役割と結びつけて考える力が十分ではない。	□分からない言葉や情報に触れた時に、自分で調べる習慣を身につけさせる。 □いろいろな用語や学習内容を、生活と結びつけて捉えることで、理解が深まるようにする。
	6年	○基本的な知識が身につけていて、資料を読み取る力もある。 ●「地産地消」「輸出」など、生活の中で触れるであろう言語についての理解が十分とは言えず、学習と生活を結び付けて考える力が弱い。	□問題意識を持たせるよう、身近な生活と関連した課題で考える。 □いろいろな用語や学習内容を、生活と結びつけて捉えることで、理解が深まるようにする。
理科	5年	○秋のころのへちまの様子や水が氷に変わったときの体積の変化についてよく理解している。 ●乾電池のつなぎ方と電流の向きや強さとの関係や月の動きについての理解が十分でない。	□全実験をきちんとし、まとめまですることを続けるとともに、自分の知識から考察することが苦手なので、考察の問題を解いたり、日頃の事象を科学的に意識させる場面を作る。 □「電気」「月」の学習の復習を行う。
	6年	○各単元の基本的な知識は身につけている。 ●「川のはたらき」「水と海水の見分け方」については、事象の理解はしていても考察する力が弱い。	□全実験をきちんとし、まとめまですることを続けるとともに、自分の知識から考察することが苦手なので、考察の問題を解いたり、日頃の事象を科学的に意識させる場面を作る。

(2)市教育委員会の改善策

□教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。
また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「書く力の育成」）について、指導と助言を行う。
□出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
□ICT機器等の整備を推進することにより、各学校における授業改善や児童生徒の学習意欲向上を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○理科の学習に対する興味・関心は高く、特に「観察や実験の結果からどのようなことがわかったか考えていますか」について「当てはまる」と答えた児童の割合が55.6%と県・全国と比べて約12ポイント以上高い。 ○「解答を文章などで書く問題について、どのように解答したか」については、「すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた児童が92.6%と県、全国よりも約15ポイント以上高い。 ●算数の学習に対しては、「大切だと思いますか」について「当てはまる」答えたのは80%以上いるのにも関わらず、「算数の勉強は好きですか」「算数の授業の内容はよくわかりますか」について「当てはまる」と答えた児童は約10～20%と少ない。 ●国・算ともに、B問題で解答時間が足りなかったと答えた児童が県より、約30%、国より約36ポイント高かった。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対しては、90%以上の児童が「当てはまる」と回答している。いじめは絶対にいけないという意識が高い。 ○学校の授業時間以外にふだん（月～金），1時間以上勉強している児童は，81.4%いて，全国平均より，約15ポイント高い。 ●「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に肯定的に答えた児童は，全国平均よりも約6ポイント低い。 ●「将来の夢や目標をもっていますか」という質問に対しては，全国平均に比べ，約15ポイントも低い。 ●朝食を毎日食べている児童が70%しかいない。全国平均より約15ポイントも低い。 ●「家で学校の授業に予習，復習をしていますか」という質問に対しては，全国平均よりも約10ポイント低くて，51.8%になっている。これは，昨年度の40.7%よりは上がっているが，今後の指導が必要と思われる。 ●「放課後何をして過ごすことが多いですか」という質問に対しては，家でTV, ゲーム, インターネットをしている児童の割合が県平均よりも7ポイント，全国平均よりも4ポイント高くなっている。 ●「地域や社会で起こっている問題に関心がありますか」に対しては，肯定的に回答した児童の割合が55.5%と全国平均よりも8ポイント低い。その他，地域に関する質問に対しても，意識が低い。（特にボランティア活動は参加したことがあると答えた児童が15%で，全国平均の36%，県平均の37%に比べて低い。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○「5年生までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたと思いますか」では，肯定的に答えていた児童は，85.2%と県・全国と比べると約9ポイント高い。 ○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか」については，肯定的に答えている児童は81.5%と県より約5%，全国より約4ポイント高い。 ●「学校の授業以外に，普段，1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」について，3時間以上と答えた児童が全国より約9ポイント低い，2時間以上3時間より少ない児童は全国より13ポイント高い。 ●「学校の授業以外に普段1日当たりどれくらいの時間，読書をしますか」については，まったくしないという児童が，25.9%と県より約6ポイント，全国より約7ポイント低い。 ●「5年生までに受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」では，肯定的に答えていた児童が，55.5%と県，全国より約5ポイント低い。

(4) 学習状況改善への取組

家 庭	□「家庭学習のてびき」の内容を読み、家庭学習の時間確保など家庭学習の充実に向けて、親子で取り組む。 □メディア使用により、家庭学習に影響を及ぼすことがないように、「家庭学習のてつじん」を合言葉に、メディアを切って学習する習慣をつけていく。 (テレビ・ゲームを消す。つくえの上や周りを整とんする。時間を決める。) □親子読書の実施など、普段から読書の習慣化に努める。 □学校からのお便りや地域からのお便りを親子でよく読んで、地域の行事や様々な活動に積極的に参加する。
学 校	□友だちのよいところや個性を見つける方法を考え実践するとともに、各学級で実践していることを情報交換する。 □キャリア教育の充実 ・いろいろな職業の人の話を聞く機会をもつ。 □「家庭学習のてびき」を活用して、家庭学習についての指導を各学級で繰り返し行う。 (各学年の家庭学習のめやすの時間を示したり、学年に応じた自主学習内容の選択の仕方を指導したり、よい取り組みをしている児童の自主学習ノートを紹介したりする。) □算数プリントの活用(自分の課題に合わせて自由に取れるようにしたもの)を通して、児童に自主学習に対するめあてを持たせ、進んで学習する意欲を養う。(教師は、児童に対して「何が課題か」を示していく。) □算数については、校内研究と絡ませながら、算数に興味を持てるような課題や場面を設定したり、自分の考えを書く活動や学び合いの場の教師の役割や指導を工夫したりすることで、全員参加による分かる喜びや伝え合う楽しさを感じる授業づくりをしていく。 □初見の文章を読んで内容を読み取る力をつけるために、国語プリントを活用する。 □放課後に補充学習の時間を設け、算数の基礎学力の向上を図る。 □「てつじんウイーク」(家庭学習強化週間)を学期毎に設定し、家庭と協力して家庭学習の習慣が身につくようにする。 □書取会と計算会の実施日を全校でそろえたり、次の書取会・計算会の範囲を学年だよりで知らせたりして、児童・保護者の意識を高めて取り組めるようにする。また「家庭学習カード」に、書取会・計算会の結果や児童の振り返りのコメント、前回からの伸び具合なども記録して家庭に持ち帰るようにし、次回への意欲へとつなげていく。 □向陽中学校校区で共通して実施している「さわやかカード」を活用し、自分の生活を見直す活動を行う。 □週末に「家読(うちどく)」(20分)の取り組みの時間を設け、読書の習慣化を図る。
教育委員会	□調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 □教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 □保幼小・小中連携を推進し、校種間で連携して基本的生活習慣の定着や学力育成が図られるよう支援する。



い つも確認 家庭のルール



ず っと続ける 家庭学習



も っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立国富小学校

記号について

○: 成果

●: 課題

□: これからの取組

1 本校の結果の概要

- 6年の算数はA, Bどちらも市・県・全国平均を上回った。
- 6年の社会, 理科については, ともに市・県・全国平均を上回った。
- 6年の国語はA, Bどちらも市・県・全国平均を上回った。
- 5年の理科については, 市・全国平均とほぼ同程度であった。
- 4年の算数については, 市・全国平均とほぼ同程度であった。
- 5年の国語, 社会, 算数については, 市・全国平均を下回り, 課題を抱えている。
- 4年の国語については, 市・全国平均を下回り, 課題を抱えている。

2 分析結果と改善策

(1) 各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○ローマ字の綴りや場面の移り変わりに注意して文章を読み取ることについては, きちんと理解することができている。 ●国語辞典の使い方や, 説明文の内容の読み取り, 調べたことから伝えるべき事柄を適切に挙げて話すことなどに課題が見られる。 ●作文全般の無答率が高く, 最終問題までたどり着いていないことも含め, 指定された長さで書くことや, 2段落構成で書くことなどに課題が見られる。	□単元ごとに言葉の意味調べの時間をとり, 積極的に辞書を活用する機会を増やすとともに, 言葉そのものを増やし, 文章理解の力を育てる。 □日記や短作文の時間を充実させ, 文章表現の幅を広げるとともに, 問われていることや条件等を理解し, 考えを適切に表現できるようにする。
	5年	○漢字の読み書き, 指示語を使う場面の理解, 説明文の内容の具体的な読み取りなどについて, 理解することができている。 ●文章を段落などの構成からとらえたり, ポスターや調査結果から情報を得て, それをもとに自分の考えをもつこと。また, その考えを条件に合った文章にして表現することなどに課題が見られる。	□説明文や物語文の学習では, 段落の要旨をとらえて構成を確かめたり, 読み取った中から得られた情報を明らかにし, 言葉で表現することを重視した指導を行う。また, 場面の展開に伴う登場人物の心情の変化や, 情景描写を読み取る作業を大切に指導を行う。 □目的や必要に応じて, 具体的な内容を書くことができるように, 日記や短作文など書く機会を充実させるとともに, 体験活動をした際には, 感想をまとめ, 文章で表現する機会を増やす。
	6年	○基本的な言語能力は備わっており, 漢字の読み書き, 文の組み立て, 文章構成, 慣用句の使用などについて, 理解が定着している。 ●目的や意図に応じて文章の内容の中心を明確に押さえたり, 自分の考えと比較したりしてまとめたり書いたりすることに課題が見られる。	□登場人物の言葉や行動を読み取るときには, 注目した文章や言葉を明確にして感想を伝え合い, 自分の考えを広げたり深めたりする。 □文を書く際には, 目的や意図を明確にするために条件 (○字以内で, 3つの言葉を使って…等) を設け, それらを踏まえた文章を書く力をつける機会を増やす。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○数と計算、円と球、□を使った式、棒グラフと表については理解が定着している。 ●文章問題で、文章から手がかりを読み取って式を立てたり、一定時間の経過する前後の時刻を読み取ったりすることに課題が見られる。 ●余りを切り上げて処理する文章問題では、その理由を論理的に説明することに課題が見られる。	□問題文から問われていることをしっかり読み取れるように、考え方を図式化するなどして問われていることを明確にし、筋道を立てて説明する力を高める。 □個やペアで思考する時間を取り、少人数で伝え合う学習を充実させることで、多様な考えを聞き合い、自分の考えを修正・深化させていく力を育てる。 □応用力を高めるプリントなどを適度に取り入れて、活用力を高める。 □身近な素材や生活につながる課題を準備し、体感的な理解につなげていくよう指導を工夫する。
	5年	○角の大きさを求めることについては、理解が定着している。 ●概数の表し方など、数の相対的な大きさをとらえることや、単位の変換、複合図形から面積を求めること、計算法則の理解などで課題が見られる。 ●平行四辺形の作図、伴って変わる2つの数量関係、概数と四捨五入などの課題で、無回答率が高い。	□計算ドリルやプリント学習で基礎的知識の定着を図るとともに、既習事項を振り返らせる時間を確保して、知識の定着を高める。 □身近な生活の中から課題を準備して取り組ませるなど、生活に密着した算数として意欲・関心を高めていくとともに、体感的な理解につなげるよう、指導方法を工夫する。 □問題文の図や数量、グラフ等の関連をしっかりと読み取り、題意を的確にとらえさせるとともに、少人数で考えを出し合い、考え方を図式化したり、筋道を立てて説明したりする力を高める。
	6年	○基本的な知識は豊富で、整数、分数、小数の四則計算について理解が定着している。 ●示された考えを解釈し、数量関係を考察して説明したり書いたりすることに課題が見られる。	□問題を正しく読み取ることができるように、わかっていることに線を引き、問われていることは何かを明確にして取り組ませる。 □学習時間に自分の考え方を図式化したり、少人数で考えを出し合って解決方法を導き出したりするなどの時間を設定し、筋道を立てて考えたり、わかりやすく説明したりすることができる力を育てる。
社会	5年	○飲料水確保のための活動、廃棄物の処理の仕方、地域の地形の特徴や発展に尽くした先人の願い等を資料から読み取ることにについて、理解が定着している。 ●長文の問題を読んで選択肢を読み解いたり、複数の資料を組み合わせて要点を見つけ、文章で考えを説明したりすることに課題が見られる。	□条件をつけて書くことや、第一文目を与えてから書くこと、文章の途中をぬいて、そこだけを書くことなど、文章で表現するための手立てを工夫し、継続的に指導する。 □説明文と図やグラフなどの資料の見方を関連付けて押さえて、必要な情報を選択して説明する機会を学習の中に展開して、資料活用力を高める。
	6年	○基礎、活用とも理解が定着しており、どの領域も正答率が高い。 ●情報産業や情報化社会では、ネットワークで結ばれた医療活動などの理解について課題が見られる。	□社会的事象への関心を高めるため、身近な社会とのつながりのある課題を設定し、関連を考えていける学習を展開していく。 □課題について、自分の考えをしっかりと持ち、話し合いの場を持たせて社会科の学習用語を関連づけながら、計画的に学習に取り入れる。 □社会情勢の変化に即した資料の準備や学習の進め方を工夫する。
理科	5年	○「生命・地球」領域については正答率が高く、基礎的な知識が定着している。 ●「電気のはたらき」「物の体積と温度」「水のすがた」の理解、特に実験方法を問われる問題や、考えの根拠を記述することに課題が見られる。	□学習内容と日常生活との関連を意識させる課題を設定し、学習内容の一般化に努めて科学的な認識力を高め、理解を定着させる。 □単元の中で自分の考えやその理由を少人数グループで話し合ったり、書いたりする活動を取り入れる機会を増やし、記述する力を向上させる。
	6年	○知識、活用とも理解が定着しており、どの領域も正答率が高い。 ●自然事象に対する関心・意欲・態度において、実際の場面での観察活動の構想を立てることなどに課題が見られる。 ●予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想したり、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、記述したりすることに課題が見られる。	□学習したことが身近な生活場面と関連していることを意識させ、理科用語の意味を押さえてプリント等で定期的に復習し知識の定着を図る。 □学習した内容を自然の事象に当てはめて、その仕組みを説明したり、複数の情報を提示して考えたりすることで、総合的に考える力を身につけさせる。 □変える条件、そろえる条件を押さえて実験を組み立てたり、結果を論理的に説明したりする機会を充実させた学習活動を行う。

(2)市教育委員会の改善策

□教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「表現力」「説明する力」の育成等）について、指導と助言を行う。
□出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
□ICT機器等の整備を推進することにより、各学校における授業改善や児童生徒の学習意欲向上を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○6年生では、「解答を言葉や数、式を使ったり、文章で表現したりする問題に対し、最後まで努力した」と回答をした児童の割合が高く、力を出し切るために、あきらめず取り組んでいることがうかがえる。 ○5年生では、どの学習でも「先生の話をしっかり聞いている」「きちんとノートを書いている」「返された答案は必ず見直す」ことを肯定的に回答した児童の割合が高く、意欲的に取り組む傾向がみられた。 ○4年生では、国語や算数では「先生の話をしっかり聞いている」「ノートをきちんと書いている」「返された答案は必ず見直す」、算数では、「文章問題では、式や図に置き換えて考えている」「定規を使ってきちんと図や表をかくている」と肯定的に回答した児童の割合が高く、意欲的に取り組む傾向がみられた。 ●6年生では、全体を通して「勉強が好き」「勉強は大切」「解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」など、意欲面において肯定的に回答する割合が全国平均を下回っている。導入の工夫や生活とのつながりへの意識付けなど、生きて働く学習を展開する中で、主体的、能動的に学習に取り組む姿勢を育て、自信をつけていけるような学習過程を工夫していく必要がある。 ●5年生では、社会科「新聞を読んでいる」、理科「自然（科学）に関する本を読んでいる」について、肯定的に回答した児童は少なかったので、児童の意識に繋がるように新聞や書籍を読もうという意欲を高めていく必要がある。 ●4年生、5年生ではともに、国語「言葉を使ったパズルで遊ぶ」「新聞記事を自分の考えと比べながら読んでいる」、算数「計算や図形を使ったパズルで遊ぶことがある」の項目について、肯定的な回答をした児童が少なかった。新聞を読んで発表する活動や計算パズルなど日常的に算数と触れ合うという意欲を高める環境づくりが必要である。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○6年生、5年生、4年生ともに、地域との関わりについて肯定的な回答をした児童の割合が高く、とりわけ上位層の児童は地域行事にもよく参加しており、家族や地域社会等、人との関わりを多くもっていると言える。また、朝食をとることや、学校の宿題をきちんとしている児童が多く、比較的、基本的生活習慣が整っている割合の高いことがうかがえる。 ○4、5年生は、「家庭で宿題をしている」割合が高く、意欲的に取り組んでいることがうかがわれる。また、家族との会話も多い。 ●6年生は、放課後の時間活用として「メディア」の回答が極めて高く、一方で「自学」の回答が低い。また、宿題をきちんとしている割合は高いものの、自主的な予習・復習を行ったりする割合は低い。家庭学習の時間も少ないことから、与えられた課題には向かうものの、自主的に課題を見つけ、学習を構成していくことに課題が見られる。 ●5年生は、新聞を読んだり読書をしたりといった、文字に触れる機会が少ない傾向が見られ、言葉、ひいては学習そのものに大きく影響していることが考えられる。辞書や参考書の活用も児童によってばらつきが大きい。 ●4年生は、メディアへの接触時間が家庭学習の時間を圧迫している児童が比較的多く見られる。直感的な刺激に慣れていることが、語彙数や論理的思考の面で課題として現れているように考えられる。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○4年生、5年生においては「体育の時間以外にもよく運動をしている」割合が高かったことから、体づくりへの関心は高まっていると言える。 ●立腰や体幹を鍛えるための日常的な環境整備を行い、学習に向かう気力、体力の向上を引き続き図っていくことが必要である。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	□「家庭学習のすすめ」を読み、家庭学習の時間を確保するなど家庭学習の充実をめざして、親子で取り組む。また、家庭学習に取り組むまでに、身の回りのことを一人で済ませておけるような環境づくりに努める。 □「親子読書活動」の取組を進め、家庭での読書の環境づくりに努める。 □「さわやか貯金」の取組を見直し、メディアとのかかわりについて、親子で話し合ってきまりを作り実践するとともに、時間の有効活用を考える。
学 校	□「家庭学習のすすめ」の内容を再検討し、家庭学習に臨む構えや実践項目を明確にするとともに、保護者へ再度確認と協力の依頼を行う。 □「親子読書」「ブックトーク」の活動や学級指導等を通して読書の楽しさを知らせ、読書の質を高める。 □「立腰」「体幹トレーニング」「基本的な生活習慣の確立」「体力向上」など健康教育の充実を図る取組を推進する。 ・元気もりもりタイム（朝活動を生かした運動） ・さわやか貯金 ・1分間気をつけ ・5種目走（体育の時間の準備運動） ・鉄棒週間 等 □スピーチ活動、集会時における感想発表の場など、自分で考えたことを表現する機会を充実させ、さらには活動がパターン化しないよう、テーマや条件を設定しながら継続を図る。
教育委員会	□調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 □教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 □メディア接触や情報モラルに関する教員及び保護者向けの研修会を開催し、家庭や地域と連携して児童生徒の家庭生活の見直しを図っていく取組を支援する。

い つも確認 家庭のルール

ず っと続ける 家庭学習

も っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立さくら小学校

記号について

○: 成果

●: 課題

□: これからの取組

1 本校の結果の概要

〈全国〉
○国語Aでは、「漢字の読み書きができる」「正しく聞きとったり、話し合いの工夫が理解ができる」など基礎的な国語力は少しずつではあるが高まってきた。
●国語Bでは、長い文章を読み取り、目的や意図に応じて、文章全体の構成や表現を工夫して、文章に書くことについて本校の課題としてとらえ改善を目指し取り組んできたが、まだ十分な成果がみられない。
●算数Bでは、応用的な問題でも、その問題で何を問われているか理解し、式や言葉を使って説明することが不十分であった。
●理科では、基礎的な知識・理解や実験の技能は高まってきたものの、実験や観察した結果から分かったことを自分の言葉でまとめたり、既習事項を生かして、発展的な問題にもあきらめず積極的に取り組むことに課題があった。
〈出雲市〉
○算数では、4、5年ともに基礎的な計算力については、目標値を上回る領域も見られた。
●国語では、どの学年も「記述式問題」〈条件作文・考えや意味、理由を書く〉に課題があった。
●理科・社会科では、基礎的な知識理解は、身に付いてきたが、既習内容と生活場面とを結びつけて説明するなど思考力・判断力は、まだ十分とは言えない。

2 分析結果と改善策

(1) 各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○「話し合いの工夫について」注意して聞き取ることができる。 ○漢字の読み書きができる。 ●段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ることができる。 ●決められた条件で文章を書くことができる。	□指定された文字数、段落数などの条件で文章を書くことができるようにするために、短作文を書く機会を増やし指導する。 □物語や説明文を読みとらせるために、身に付けさせたい力を明確にした単元構成により、言語活動を工夫した授業を行う。
	5年	○「自分の考えを書く」内容についてほとんどの児童が記述している。 ○漢字の読み書きができる。 ●段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ることができる。 ●決められた条件で文章を書くことができる。	□指定された文字数、段落数などの条件で文章を書くことができるようにするために、短作文を書く機会を増やし指導する。 □「書く力」を高めるために、求められている情報を取り出し、分かったことや自分の考えを適切な言葉を使って表現する力を高める。
	6年	○一つの文章から、大切な言葉を取り上げ、目的や意図に応じて読み取ることができる。 ●時間内に長い問題を読み、内容を理解することができる。 ●目的や意図に応じて、構成や表現を工夫して、文章に書くことができる。	□読解力を高めるために、教科書の音読をしっかりとできるように指導する。 □目的や意図に応じて書く力を高めるために、文章に書いてあることをまとめたり、自分の考えを書いたりする機会を増やす。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○「数と計算」の計算や小数のしくみの理解などについて全国平均や目標値を上回っている。 ●説明が必要な問題や思考が必要な応用問題ができる。	□自分の考えを説明ことに慣れるために、ペアやグループなど学習形態を工夫し、自分の考えを持って発表する力を高める。 □学んだ基礎的な力を活用して考える力を高めるために、思考が必要な応用問題に取り組ませる。
	5年	○角の大きさの理解や数直線の読み取り、基礎的な計算について目標値を上回っている。 ●説明が必要な問題や思考が必要な応用問題ができる。 ●わり算・面積・概数などの理解ができる。	□学んだ基礎的な力を活用して考える力を高めるために、思考が必要な応用問題に取り組ませる。 □算数への理解や「できた」という達成感を高めるために、前学年までの復習など繰り返し学習したり、上位層には、確実に理解できるような発展問題に取り組ませたりする。
	6年	○基礎的な図形の解釈や計算のきまりについては理解している。 ●問題の意味を理解し、式や言葉を使って説明することができる。 ●学習して身に付けた基礎的な力を応用的な問題に生かすことができる。	□応用問題にも進んで自分の考えで解決する力を高めるために、言葉や式を使ってまとめる時間を確保した授業をする。 □学習して身に付けた力を生かす力を伸ばすために、発展的な問題に取り組む機会を増やす。
社会	5年	○「安全な暮らし」や「暮らしを支える水」など基本的な知識は理解している。 ●地図や資料を読み取り、活用する問題ができる。	□断面図・方位・距離など地図の見方を復習する。 □応用問題にも進んで自分の考えで解決する力を高めるために、資料を読み取りまとめる時間を確保した授業を行う。
	6年	○農業や水産物など、身近な事柄に対して関心が高く、自分の経験や知識をもとに、課題について考えることができる。 ●資料や自分の知識をもとに課題に対して考えたり判断したりすることができる。	□社会的の言葉や用語を理解させるために、新聞やニュースなどの資料にふれさせる授業を展開する。 □資料から社会の現状等を読みとる資料活用能力を高めるために、日本や世界の出来事や産業、環境問題などについて、ニュースや新聞記事などから情報を得て話し合う機会を設ける。
理科	5年	○星座・星座早見表、月の動きや形、動物の体のつくりなど地球や生命に関する知識・理解はできている。 ●科学的な思考を働かせ、条件を整理して推論して言葉で説明できる。	□実験や観察した結果から分かったことを、自分の言葉でまとめる時間を確保する。 □既習事項を生かして、ものの見方や考え方をさらに高めるために、前学年の学習の問題に取り組んだり、発展的な問題に取り組ませたりする。
	6年	○実験の方法や正しい実験の技能について理解している。 ●より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察すの内容を記述することができる。	□実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにするために、実験の結果と考察したこと両方を示しながら説明できるようにする。 □単元の終わりでは、学んだことを身の回りの生活の中で活用することができるようにするために、ものづくりなど発展的な学習を必ず取り入れ、生活と関わりをもたせる学習をする。

(2)市教育委員会の改善策

- 教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「読解力の育成」等）について、指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
- ICT機器等の整備を推進することにより、各学校における授業改善や児童生徒の学習意欲向上を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○6年生では、理科の学習は、8割以上が理科の授業が大切だと思っている。算数では、9割が、解答の方法が分からない時でも、あきらめずにいろいろな方法を考えようとしている。 ○地域の行事に積極的に参加し、地域に関心をもっている児童は、7割を超えている。 ○「学習用具の準備を忘れずにきちんとできる」「勉強している時は集中して学習している」など、学習に向かう姿勢が向上している。 ○どの教科においても「話を聞く」という意識は高まっている。 ●勉強に図書館を利用したり、辞書を使ったりするなど、自分で進んで調べる習慣が十分に身に付いていない。 ●決められた家庭学習はするが、予習・復習など自主的に学習を進めていく割合が少ない。 ●4, 5年生は、「新聞を読んでいる」という割合は低いが、6年生は、「新聞をよく読む」という割合が3割を超えており、学年が上がるにつれて、新聞を読む意識は高まっている。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○「夕食をきちんと食べている」「家庭であいさつをしている」は全国平均を上回っており、肯定的な回答は高い。 ○家庭での「さわやか調べ」の取組や担任を中心とした日常的な生活習慣の指導により、早寝・早起き、食事、あいさつなどができている割合は多くなり、基本的な生活習慣が身に付いてきている。 ○6年生「予習・復習をしている」意識が高まってきており、自主学習の取り組みができるようになってきている。 ●4, 5年については、「予習・復習をしている」意識が低く、割合は全国平均を下回っている。 ●6年生は家庭で、新聞記事を読むようになってきているが、4, 5年については、家庭で読んでいる割合が少ない。 ●学年によっては、「寝る時間」「自分で時間を決めてテレビを見ている」時間の肯定的な回答率が低く、家庭で生活の約束を決めている割合が低い。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○今後も、放課後の算数や国語の補充学習、計算会や書取会の取り組み方についてその内容を改善し、基礎的な内容の理解を高めるとともに、「文章を読み取って自分の考えを表現する力」を高める取組をしていく。 ○校内で国語科の研究を進めることにより、本校が課題として国語の力は少しずつではあるが高まってきたが、「内容を読み取り自分の考えを文章にできる」などの弱みがあるのが実態である。 「児童に身につけさせる力」を再度検証し、課題を明らかにし、2学期以降も授業改善に取り組み、学力向上の改善策を確実に実践していく。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	□メディア接触の時間の多さが課題になっていることをふまえ、家庭でメディアに接触する時間を決め実施していく。また、それがきちんと守られているか、日々、家族で確認していくようにする。 □広い見識をもたせるために家族とともに新聞記事やニュースなどを読む機会を増やす。 □現在行っている「さわやか調べ」（生活リズム・学力定着週間）を生活習慣改善の良い機会としてとらえ、児童や教師とともに、基本的生活習慣の実態をつかみ、常に情報交換を繰り返すことにより、日々の生活の仕方について改善を図る。学級懇談・PTA講演会等に積極的に参加し、その成果を情報交換する。家庭からも、児童の気になる家庭生活の状況を連絡し、学校と連携を深めていく。 □6年生の家庭では、昨年度同様、中学校での家庭学習のしかたについて学級だより、学級懇談等で得た情報を生かし、予習・復習などの大切さを伝え、中学校でスムーズに家庭学習ができるようにしていく。
学 校	□国語を中心にした研究をさらに推進し、学校全体でどの教科等においても「言語活動」を充実させ、読解力を高める授業を実施するようにし、授業改善を図る。 □発達段階に合わせ、学ぶことの楽しさや学力を身に付けることの意義について指導する。予習・復習の意味についても理解させるとともに、「自主学習のてびき」などを活用しながら、自分なりの目的をもって、予習・復習ができるよう、やり方を具体的に示しながら指導する。 □思考力・表現力など磨くために、自分の考えをノートにまとめ、発表していく授業を全クラスで実施する。 □「さわやか調べ」と、「メディアの約束チャレンジウィーク」（長期休業中）を通して、メディアとの上手な付き合い方について啓発を続ける。 □国語や総合的な学習の時間に、図書館利用や情報の扱い方を取り上げたり、図書室を利用する機会を意図的に設定して図書室の利用率を上げたりしていく。昨年度同様、新聞記事を各階に設置して、新聞を読む環境を整えていく。 □どの学習においても授業で国語辞典を利用させ、自分のわからない言葉を自ら解決していく習慣を身に付けるようにする。 □児童がねらいに対して自己評価できる授業づくり、ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを実践することにより、学習意欲を高め、自己肯定感や達成感を高めるようにする。
教育委員会	□調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 □教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 □保幼小・小中連携を推進し、校種間で連携して基本的生活習慣の定着や学力育成が図られるよう支援する。

い つも確認 家庭のルール

ず っと続ける 家庭学習

も っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立東小学校

記号について

○: 成果

●: 課題

□: これからの取組

1 本校の結果の概要

- 授業中は「先生の話をしっかり聞いている」と答えている児童が多い。
 ○5年生の国語の学力は、市や全国平均より下回っているが、前年度に比べ、上がってきている。
 ○6年生については国語と理科が、5年生については理科が市や全国平均を上回っており、強みになっている。
 ●全体的に、目標値に届いていなかったり、全国平均を下回っている教科が多く、前年度の学習内容が十分に定着していない児童がいると思われる。
 ●算数Bにおいては、選択式であれば正答を導き出せるが、記述式の問題では、最後まで解ききれなかったり、無解答のままであったりする児童が多い。

2 分析結果と改善策

(1) 各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○話の内容を聞きとったり、条件どおりに作文を書いたりすることができている。 ●物語や説明文を正しく読み取ること に課題があった。	□読書活動を推進する。 □いろいろな文章を読み、要約したり、感想を書いたりする時間を計画的に取り入れていく。
	5年	○話の中心に気をつけて聞きとることができている。 ●作文については、無解答が4割いる など抵抗のある児童が多い。	□文章を書く際、友達と考えを交流したり、書き終えてから互いに添削したりして書くことの抵抗を減らしていく。
	6年	○どの領域においても力をつけてきている。 ●記述については、ヒントを頼りに答えることはできるが、条件に合わせて自分の考えをまとめて書くことに課題がある。	□新聞記事を利用したワークシートを定期的に学習することで、記事にある複数の資料の読み取りや自分の考えをもたせる指導を引き続き行う。 □漢字テストの問題数を減らし、小テストの方式で漢字を正確に獲得させていくようにする。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○整数の四則計算は正しくできている。 ●計算の仕方を説明したり、理由を説明したりする問題に課題が見られた。	□解法や理由を言葉で説明したり、ノートに書いたりする活動を増やす。
	5年	○億や兆、がい数の表し方、角の大きさについては技能がよく定着している。 ●数と計算の領域での技能に課題が見られる。	□単位間の変換、特別な図形については再度復習をする。 □レベルアップ問題を用意することにより、問題をよく読んで情報を選択する力をつけていく。
	6年	○量と測定、図形領域ともよくできている。 ○活用問題で、説明の仕方を参考にしながら説明することができている。 ●計算に時間がかかる。 ●自力で最後まで問題を解くことに弱さが見られる。	□授業の中で解法を説明する場面では、キーワードやヒントになる言葉を示すことにより児童の説明する力を伸ばしていく。 □1時間の授業の時間配分を適切にし、まとめやふり返りを書く時間を確保する。
社会	5年	○「くらしを守る」の内容についてよくできていた。 ●都道府県の名称や位置、地図の見方が正しく覚えられていなかった。	□ミニテストを実施する。 □地図帳を使った授業をし、地図記号についても触れるようにする。
	6年	○資料の読みとりや理解は概ねできている。 ●資料から考えて表現したり、まとめることに抵抗がある。 ●「農業や水産業」について課題が見られた。	□資料から読みとったことを書いたり、交流したりする活動を意図的に取り入れる。
理科	5年	○基礎はよく定着し、特に「動物のからだのつくりと運動」についてよくできていた。 ○観察・実験の技能がついていた。 ●思考・判断・表現の観点にやや課題が見られた。	□言葉だけ覚えるのではなく、日常場面とつなげながら理解を深めるようにする。
	6年	○知識としてよく定着している。 ●「人の体の働き」「1学期のまとめ」では、思考・表現の観点の正答がやや低かった。	□実験・観察を行い、わかったことをまとめることをしっかりと行わせるようにする。

(2)市教育委員会の改善策

- 教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「書く力の育成」）について、指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（+1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
- ICT機器等の整備を推進することにより、各学校における授業改善や児童生徒の学習意欲向上を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○「自分が好きである」「自分によいところがあると思うか」の問いに、全国とほぼ同率が全国を上回る肯定的な回答であった。 ○「授業のはじめにめあてが示されている」「授業の終わりによくふり返る活動がある」と肯定的な回答した児童が70～90％に達している。教師がめあて、まとめ、ふり返りのある構造的でわかりやすい授業を行うことをめざしてきたことが児童の側にも伝わっている。 ○「きちんとノートをとっているか」「先生の話をしっかり聞いているか」という問いに、90％以上の児童が肯定的な回答をしている。落ち着いて真剣に学習に向かっていることがわかる。 ○「話し合う活動をよく行ったと思うか」の問いに対して、肯定的な回答が80％を超えている。 ●「発表したり、書いたり難しい」と回答している児童が40～50％いたため、さらに、児童が主体的に学び、確実な理解につなげていく授業をしていくことが課題である。 ○理科の授業で、「観察や実験を行った回数が週1回以上」と回答している児童が、全国では40％であるのに対し、本校は60％を超えていた。学校での授業に加えて出雲科学館を利用した観察・実験の指導は児童にとってインパクトがあり、実験のやり方を考えたり、学習したことを生活とつなげて考えたり、理科の学習の定着に効果が上がっていると考えられる。 ●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ているか」という問いに対して、6年生は95％の児童が肯定的な回答をしている。4・5年生については30～45％が肯定的な回答であり、6年生との差が見られた。また、「自分の考えと比べながら読んでいくか」の問いに、肯定的な回答が少ない。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○起床、食事、睡眠等の生活リズムについての問いに対しては肯定的な回答が多かった。 ○家庭学習の時間については、平日2時間以上やっていると回答した児童が90％いた。家の人に言われなくても進んでできている児童が5・6年生に多い。学習塾へ行っていると回答している児童はおらず、6年生の90％以上の児童は自分で計画して勉強をしていると回答している。学校の授業と家庭学習を効果的につないで学力を向上させていくことが求められる。 ●放課後の過ごし方としては、友達と遊ぶと回答した児童は全国の3割にも満たない。TV、ビデオ、DVD視聴、ゲーム、インターネット等メディアとの接触と回答している児童が80％を超えている。また、家族と過ごすとしている児童は90％を超えているが、学校での出来事や学習について話を家族としていないと回答した児童もいた。 メディアとの接触時間が、学校で目標としている2時間以内を守れるようにし、家族とのふれあいの時間をしっかりとをもって会話を大事にしていけるように学校での指導や家庭への啓発活動を続けていく必要がある。 ●家庭での読書については、30分以上している児童が40％を超えている全国の値に比べて、本校児童は25％という結果である。読書時間については、本年度に限らず本校の課題となっている。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○地域の豊かな「ひと・もの・こと」を生かしたふるさと教育を推進していくことを重点に取り組んでいる成果として、「地域行事に参加している」「ボランティア活動に参加している」と回答している児童が全国や県を大きく上回っている。「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある」と回答している児童も47％で、地域との良好なつながりが維持できているといえる。 ●「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるか」の問いに対する肯定的回答は、全国や県より10％程度低くなっている。 ○「みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるか」の問いに、約80％の児童が肯定的な回答をしている。「友達に認められているか」という問いに対して70％を超える肯定的な回答があった。お互いを支え合い、認め合う集団づくりを重点にして取り組んでいる成果が見られた。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	☐ 基礎的生活習慣の定着をねらった「さわやかウィーク」の取組を毎日実践する。 ☐ 毎月10日に設定している「脳さわやかデー」に、ノーメディアに取り組む。 ☐ 親子で読書活動に取り組む「ファミリー読書」の実践をすすめる。 ☐ テレビ視聴やインターネットの閲覧、ゲーム、スマートフォンなどの利用に関して家庭でルールをつくり、それを実行するようにする。 ☐ 家庭学習のてびきに照らして、家庭学習のよい習慣づくりをすすめる。 ☐ 親子での会話やふれあいを大切にする。
学 校	☐ 「めあて」「まとめ」「ふり返し」のある構造的でわかりやすい授業を行う。授業の時間配分を適切にし、特にふり返しを大事にした授業を行い、「わかったか」「できたか」を自覚できるようにする。 ☐ 授業の「ふり返し」から自主学習や家庭学習につながっていくようにする。 ☐ 授業の中で、児童同士が話し合ったり、ノートに書いて考えたりする場面を作り、主体的な学びを大事にする。 ☐ 話し合いにおいては、児童が自分の考えを出し合って比較検討したり、深め合ったりできるように教師がしっかりと話し合いをコーディネートする。 ☐ 週3回、15分間の補習の時間（ミニパワーアップタイム）を設定し、基礎学力の向上を図る。 ☐ 高学年では、新聞記事を読んで記事について自分の考えを表したり、内容の要点をまとめたりする活動を取り入れ、時事問題について活字から情報を得る体験を積み重ねていく。 ☐ 学校図書館の図書を整備し、学校図書館を活用した調べ学習を行いやすくする。
教育委員会	☐ 調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 ☐ 教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 ☐ 各学校が作成した「家庭学習の手引」をオロチネットで互いに閲覧できるようにし、各学校が他校の取組を参考にしながら自校の家庭学習定着に向けて取り組めるよう支援する。



つも確認 家庭のルール



っと続ける 家庭学習



っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立多伎小学校

記号について

○: 成果

●: 課題

□: これからの取組

1 本校の結果の概要

- 6年生の国語は全国平均並みとなり算数は全国平均を上回っている。国語・算数ともに、県平均を上回っている。
- 6年生の理科は県平均・全国平均を下回っている。
- 5年生の算数は市平均・全国平均ともに上回っている。国語・社会は市平均・全国平均並みとなっている。
- 5年生の理科は全国平均をわずかに下回っている。
- 4年生の国語・算数ともに、市平均・全国平均並みとなっている。
- 全体的に平均並みであるが、国語の書く力や理科に課題が見られる。
- 学力向上策として、朝学習に書く活動を実施し、書く習慣を身に付けるとともに、各教科において自分の考えを文章で書く取り組みを充実させる。

2 分析結果と改善策

(1) 各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○漢字を正しく書く能力の正答率が高い。 ○物語の内容を読み取る能力の正答率が高い。 ●全体的に書く能力に課題がある。	□文章構成を意識して作文を書いていく学習をすすめていく。 □宿題でも作文を積極的に導入し、書くことに慣れる活動を行う。 □読んだ本の一言感想を書き、音読カードのように積み重ねていく活動を行う。
	5年	○既習の漢字の読み書きが定着している。 ○言語についての正答率が高い。 ●作文など書く能力について課題がある。	□授業、朝活動の時間に短文をつくる活動を取り入れる。 □文章に慣れるために、読書、音読、暗唱に取り組む。
	6年	○読むことに関しての正答率が高い。 ●目的や意図に応じて書く力に課題が見られる。 ●文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある。	□学力調査型の問題に日ごろから取り組み、文章や条件を理解して書く練習をする。 □主語、述語の理解を図るとともに、文型指導をする。 □日記指導を積極的に行う。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○全国平均とほぼ同程度でおおむね良好。 ●基礎については定着しているが、活用に課題が見られる。	□朝活動などを有効に活用し、活用問題に取り組む。 □字数等の条件付き問題に慣れ親しむため、積極的に条件付き問題に取り組む。
	5年	○全国平均とほぼ同程度でおおむね良好。 ○「わり算」や「角の大きさ」の正答率が高い。 ●「面積」と「億と兆・がい数」の表し方に課題がある。 ●関心・意欲・態度に課題がある。	□「億と兆、がい数」については、繰り返し問題練習に取り組む。 □文章問題では、読解力を身に付けるために、授業においても文章問題に取り組む場面を作る。 □単元、授業の導入を工夫する。（興味関心、必然性）
	6年	○A・B共に全国平均を上回っている。特に、「数と計算」領域において成果が大きい。 ●図形領域において課題がみられる。また、無回答率も多い。	□小数の意味や数量関係の指導を充実させる。 □算数の用語を用いて、考えを書いたり説明したりする活動を取り入れる。
社会	5年	○全国平均とほぼ同程度でおおむね良好。 ●「地図の見方」の定着に課題がある。	□地図の見方を学習した後に、様々な地図を読み取る問題に積極的に取り組む。 □地図帳に慣れ親しむ活動を積極的に行う。 □地図から読み取れることを自分の言葉で表現する活動を積極的に行う。
	6年	○「世界の中の国土」，「日本の国土」に関する正答率が高い。 ●「日本の農業と水産業」の定着に課題がある。	□複数の資料を使って、読み取るだけでなく、そこからさらに考察できるような学習を進める。 □新聞や本，ニュースなどに関心を持てるように家庭との連携を図る。 □デジタル教材を活用することによって、視覚支援を行う。
理科	5年	○観察・実験の技能の正答率が高い。 ●「物の体積と力」と「動物のからだのつくりと運動」の定着に課題がある。 ●領域「物質・エネルギー」，観点「自然事象についての知識・理解」に課題がある。	□書く力が身に付いていないために、記述式の問題に課題がある。それを克服するため、学習したことを自分の言葉でまとめる活動を行う。 □体験的活動を積極的に行い、学習したことをプリントで再度確認する活動を行う。その際、様々な応用問題に取り組むことで学力の定着を図る。
	6年	○ろ過の適切な操作方法など観察・実験の技能の正答率が高い。 ●エネルギー区分において課題が大きい。 ●全体的に活用問題についての正答率が低い。	□視点をはっきりさせて、集中して実験や観察に取り組ませる。 □思考ツールを活用し、実験が終わった後の結果からの考察を書かせるようにする。

(2)市教育委員会の改善策

- 教育指導監の学校訪問において、「主体的，対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また，「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「自分の考えを文章で書く取り組み」等）について，指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（＋1講座），授業公開，各種研修会を開催し，教員の授業力向上を図る。
- ICT機器等の整備を推進することにより，各学校における授業改善や児童生徒の学習意欲向上を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○家で、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の宿題をしている」と答えた児童の割合が高い。 ○自主学習において、教科書を使いながら学習していると答えた児童の割合が高い。 ○新聞を読んでいると答えた児童の割合が高い。 ○算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていると答えた児童の割合が高い。 ○理科の授業では、理科室で観察や実験を週1回以上行っていると答えた児童の割合が高い。 ○今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」とよく思うと答えた児童の割合が高い。 ●学校の授業時間以外の学習時間（月曜日から金曜日、1日当たり）が、全国や県に比べて短い。 ●学校の授業時間以外の読書時間が少ない。 ●「理科の授業は大切だと思う」「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と答えた児童の割合が低い。 ●将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思っていない児童の割合が高い。 ●学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思う児童の割合が低い。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童、起きている児童の割合が高い。 ○「地域の行事に参加している」「ボランティア活動に参加したことがある」児童の割合が高い。 ○地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがあると答えた児童の割合が高い。 ●家の人と学校での出来事について話をする児童の割合が低い。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○毎日朝ごはんを食べていることや毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりしている児童の割合が高いことから、毎月実施している『多伎っ子ウィーク』の成果が感じられる。 ○新聞を昇降口に置き、児童の目に触れやすくする取組の継続により、新聞を読んでいる児童の割合が高くなった。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	□読書習慣を身につけるため、学校司書に本の紹介をしてもらうなど、図書館活動を充実させる。 □「家庭学習のしおり」の内容を再度確認し、家庭学習の時間を確保する。 ・家庭学習の時間の目安や内容、進め方を参考にしながら家庭での声がけと学習環境づくりを心がける。 □月1回の「多伎っ子ウィーク」に合わせ、よりよい生活習慣づくりに取り組む。 ・早寝、早起き、朝ごはん運動に取り組む。 ・テレビやゲーム、インターネットなどのメディア接触の時間については、親子で話し合いをしてもらい、具体的なルールを決めて取り組む。
学 校	□学習規律や学習習慣、学び方についての学年段階に応じた継続的な指導を行う。 ・多伎っ子ウィークに併せて家庭学習がんばりカードを実施し、家庭学習の状況調査を行う。 ・学習ルール、ノートの取り方やまとめ方、復習や予習の仕方を指導する。 □読書活動を推進する。 ・お話プレゼント、ブックトーク、読書週間、全校一斉の朝読書を推進する。 □理科の授業において、児童の生活に身近なものを取り上げ、学習したことが実生活につながることを実感できるように授業づくりを推進する。 □基本的な漢字の読み書き、計算能力を身に付けるため、全校書取り会や計算会を実施し、朝学習の充実を図る。 □児童会活動では児童の主体性を大切に、話し合い活動を充実させる。 □授業においてペア活動やグループ活動を積極的に導入し、話し合いの場を設定する。
教育委員会	□調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 □教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 □保幼小・小中連携を推進し、校種間で連携して基本的生活習慣の定着や学力育成が図られるよう支援する。

い つも確認 家庭のルール

ず っと続ける 家庭学習

も っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立湖陵小学校

記号について

○:成果

●:課題

□:これからの取組

1 本校の結果の概要

全国・県・市平均正答率と比較すると、学年ごとに教科によって同程度のもの、やや下回るもの、大きく下回るものがある。算数はどの学年も昨年度重点教科として取り組んだ成果が感じられる。国語は4年と5年に、理科と社会では5年に課題がみられる。

領域でみると、

○国語では、「話すこと・聞くこと」「漢字を読んだり書いたりすること」については、ほぼ定着している。

○算数では、個人差はあるが、計算技能に関しては、ほぼ定着している。

○社会では、社会的事象の資料を読み取る技能が身につけている。

○理科では、自然事象への関心が高く、実験や観察を好み、基礎的なことを理解している。

●「読むこと」や「記述で解答すること」について課題がある。

●教科全般にわたり、「資料等をもとに説明すること」について課題がある。

2 分析結果と改善策

(1)各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○話し方の工夫に注意して聞き取ったり、既習の漢字を読んだりすることは概ねできている。 ●指定された長さや段落構成等、条件を満たした作文を「書く」ことに課題がある。 ●文の構成(主語と述語)、ローマ字のつづり、国語辞典の使い方の理解が不十分で課題がある。 ●物語文や説明文の読み取りに課題がある。	□初見の文章をすらすら読むことができるようにするため、他教科においても教科書の文章を読む機会を増やす。 □読み書きをする度に、主語と述語に留意するよう注意を促す。 □国語辞典を使う場面を意図的に設ける。 □PC指導と並行して、ローマ字入力に慣れさせるとともに、時々、家庭学習としてローマ字の宿題を出す。 □朝学習や家庭学習で、新聞記事や物語をもとにしたプリントに取り組むことで読解力を伸ばす。
	5年	○場面の様子や登場人物の気持ちを読み取ることはできている。 ○漢字を読んだり書いたりすることは概ねできている。 ●説明文の内容を的確に読みとることに課題がある。 ●自分の考えや意見を作文にまとめることに課題がある。 ●覚えたり、書いたりすることに対して課題がある。	□ペアやグループ学習を活用し、意見を作らせ、代表に発表させる。 □司書教諭との連携を図り、ブックトークなどで本を紹介し、読む習慣を身に付けさせる。 □児童同士のふれあいを大事にし、朝学習の時間にグループ読みを取り入れる。 □感想の書き方や発表の仕方を教え、練習する機会を持つとともに、完成した後に、学級全体で工夫したところなどについて交流する時間を設ける。
	6年	○「書く力」が高い。特に目的や意図に応じて内容の中心を明確にして詳しく書く力が定着している。 ●登場人物の心情を情景描写をもとに捉えることに課題がある。	□継続的に短作文を続ける。 □長文の読み取りのコツがつかめるよう、経験を積ませる。 □朝学習を活用して、長文を要約する活動を取り入れる。 □同じ作者や同じ題材の作品を比べて読む活動を組み入れ、児童が自分で優れた叙述に気付いていくことができるようにする。 □「何が書かれているか」だけでなく、「どのように描かれているか」表現面にも着目して読む活動を取り入れる。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○基礎的な四則計算，時刻と時間，長さ・重さ，円や球などの図形について概ね理解できている。 ●情報を読み取り，活用したり理由を論理的に記述したりすることに課題がある。	□わり算やかけ算，分数や小数について，プリント等を活用し反復練習を行う。 □教科書の「しあげ」にある説明を要する問題を丁寧に扱う。その際，キーワードを示し，考えを書いたり話したりする時の手がかりとなるようにする。 □家庭でも取り組めるように，身近なものを題材に取りあげた宿題の工夫をする。
	5年	○整数÷整数，小数・分数の加減法はよくできている。 ●数量や図形，面積，小数，分数の計算の理解に課題がある。	□既習の知識や技能を振り返らせ，利用するようにする。 □ペアやグループ学習を活用し，全員が同じスタートラインでできるようにする。 □単元終了後のドリル学習では，理解の習熟を図るために児童同士による学び合いを促す。 □作業的・体験的な活動を通して，意味理解させたり確認させたりする。
	6年	○学年全体として中間層が多く，下位層の児童が少ない。 ○分度器を使って180度より大きい角を求める問題の正答率が高い。 ●小数の除法の計算に課題がある。 ●単位量当たりを求める問題，割合に課題がある。 ●数量を関連づけて，根拠を明確にして記述する問題に課題がある。	□自分の考えを自分の言葉で説明する機会を増やしたり，子ども同士の学び合い（対話）を多く取り入れたりしながら力を高める。 □既習の学習をふりかえり，それをもとに考えを出し合う中で，関連性や違い，共通点を見出しながら学習を深めていく。 □根拠をもとに考えていくために，図や言葉で表す活動を個人思考の段階で多く取り入れる。 □問題を解くときに，最初に答えの見当をつけ，見通しをもって解いていけるようにする。
社会	5年	○「安全な暮らし」，「地図の見方」についてはほぼ理解している。 ●身の回りの生活環境についての関心に課題がある。 ●「くらしをささえる水」，「ごみのしよりと利用」「県の様子」における資料を読み取りに課題がある。	□ペアやグループ学習を活用し，写真やグラフからわかることなどを考えさせる。 □振り返りの場面で，学習でどんなことが分かったのかを確かめるようにする。 □家庭学習や朝学習を活用し，新しい言葉や知識等の理解を深める。
	6年	○「国土の自然などの様子」，「情報産業や情報化社会」の領域については正答率が高い。 ○社会的事象についての知識や理解はほぼ定着している。 ●「農業や水産業」についての理解に課題がある。 ●社会への「関心・意欲・態度」に課題がある。 ●複数の資料を読み取りまとめることに課題がある。	□授業の中で，資料を読み取って話し合う活動を重視する。 □ニュースや新聞記事を家庭学習や朝礼のスピーチなどに取り入れ，社会的事象についての関心を高める。 □学校司書や司書教諭と連携し，一層の図書館活用を進める。（新聞記事の活用等を含めて）
理科	5年	○自然事象への関心が高く，「生命・地球」領域の基礎的な内容についての理解はできている。 ●実験などからわかることを文章にしてまとめることに課題がある。 ●実験結果をもとに，推測したり，まとめて説明したりすることに課題がある。	□グループ学習を活用し，かわり合いや学び合を大事にする。 □実験方法や結果などをグループのみんなで話し合い，理解を深める。 □科学館学習後の学校でのまとめを充実させる。
	6年	○「知識」に関する問題の正答率が高い。 ○「物質」「生命」の問題の正答率が高い。 ●実験結果をもとに分析・考察をして記述する問題に課題がある。 ●複数の情報を関係づけながら分析して考察する問題に課題がある。 ●電気についての問題に課題がある。	□実験・観察などで結果だけでなく，自分の言葉で考察や結論を書く活動を続ける。 □学習問題→予想（根拠も書かせる）→実験→結果のまとめ→考察→結論の学習の流れを大切に学習を進める。 □学んだことを生活に結び付ける活動を大切にする。 □一人一人の実験（体験）を充実させる。

(2)市教育委員会の改善策

□教育指導監の学校訪問において，「主体的，対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また，「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「読み取る力，書く力の育成」）について，指導と助言を行う。

□出雲市学力向上研修（＋1講座），授業公開，各種研修会を開催し，教員の授業力向上を図る。

□ICT機器等の整備を推進することにより，各学校における授業改善や児童生徒の学習意欲向上を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○「返された答案は、見直しをしている」と肯定的に回答した児童の割合は高い。 ○昨年度課題であった「計算や図形を使ったパズルで遊ぶことがある」は、肯定的に回答した児童の割合は全国平均を上回った。 ○昨年度に引き続き「授業では先生の話をしっかり聞いている」と肯定的に回答した児童の割合は高い。 ○昨年度に引き続き「話し合いで、自分の考えを積極的に話している」と肯定的に回答した児童の割合は全国平均を上回った。 ○昨年度に引き続き「話し合いで、相手の話をしっかり聞いている」と肯定的に回答した児童の割合は全国平均を上回った。 ○昨年度に引き続き「授業では、きちんとノートをとっている」と肯定的に回答した児童の割合は高い。 ○昨年度に引き続き「宿題はきちんとしていいる」と肯定的に回答した児童の割合は高い。 ●「昼休みや放課後、学校が休みの日に本（教科書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」で、月に1～3回は行く、まったく・ほとんど行かないと回答した児童の割合が高い。 ●「新聞記事をなどを、自分の考えと比べながら読んでいる」と回答した児童の割合は全国平均を下回った。 ●昨年度同様「クロスワードなど、言葉を使ったパズルで遊ぶことがある」と回答した児童の割合は全国平均を下回った。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○昨年度課題であった「自分で時間を決めて、テレビを見ている」と回答した児童の割合は全国平均上回り、改善された。 ○一昨年度の課題であった「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」と回答した児童の割合は全国平均を大きく上回り、改善された。 ○「朝食、夕食は、家の人といっしょに食べている」と回答した児童の割合は全国平均を上回った。 ○「学校で使う物は、自分で用意している」と肯定的に回答した児童の割合は全国平均を上回った。 ○昨年度同様「家の人と決めた約束を守っている」と肯定的に回答した児童の割合は全国平均を上回った。 ○昨年度同様「家の人に挨拶をしている」と肯定的に回答した児童の割合は全国平均を上回った。 ○「筆記用具などを用意してから、勉強している」と肯定的に回答した児童は全国平均を上回った。 ●「新聞記事を読んでいる」と回答した児童の割合は全国平均を下回った。 ●「勉強に図書館を利用している」と回答した児童の割合は低い。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○「保・幼・小・中」連携を深め、異校種の情報交換、幼児・児童・生徒交流を深めている。特に年長児、小6児童は見通しをもって進学できるシステムを構築している。 ○「算数」の校内研究を進めている。「算数」の授業作りを窓口 to 全教科で「主体的・対話的で深い学びの力」が育まれるように、PDCAサイクルを意識し、指導法の工夫・改善を図っていく。 ○児童の学習意欲や学習への集中力を高めるために、『学習に向かう体づくり』に取り組んでいる。 調査では、昨年度同様、各学年、約9割の児童が「授業では、先生の話をしっかり聞いている」と回答していた。このことから、集中力が高まり、取組の成果が表れてきていると考える。 ○ふるさと教育で取り組む内容の見直しを行い、地域と連携した学習活動を推進している。地域行事へ参加する児童の割合も高かった。 ○「学校では、先生に挨拶をしている」と肯定的に回答した児童の割合が全国平均を大きく上回っている。児童会とタイアップし、あいさつ運動・スリッパそろえ等の取組を行っている成果だと考える。

(4) 学習状況改善への取組

家 庭	□担任から全国学力調査の結果を聞き、学校の今後の取組方針を知るとともに、各家庭で取りくむべき具体的方策について、担任と一緒に考え実施する。 ・家庭でのメディアの関わりについて親子で話し合ってきまりを作り、実践する。 ・家庭での就寝時刻を決め、規則正しい生活リズムを整える。等 □学習公開日、PTA研修等に参加し、児童や学校全体の取組の様子を知り、家庭生活に生かす。
学 校	□子どもが問題を自分事としてとらえられるような工夫をしたり、ペアやグループなどで子ども同士が対話する場面を設けたりして、子どもの声でつくる授業を展開していく。 □学習規律について、全教員で共通理解を図り、落ち着いて学習に向かう雰囲気を作る。 □ティームティーチングや個別学習を行い、個に対応したきめ細やかな指導を実施する。 □学習公開日、PTA研修会、学級・学年懇談会などを通して、児童の実態や学校の取組について積極的に保護者に伝える。家庭と連携して児童の学力向上を支援していく体制作りを行う。 □「家庭学習の手引き」を見直し、改善を図り、引き続き家庭と連携しながら学習習慣が身につくようにする。 □家庭学習のあり方について、学力育成プロジェクトチームで内容や方法等を検討するとともに、全教員で共通理解を図りながら推進していく。 □「チャレンジ週間」に合わせ、学級懇談や便り等を活用し、さらに家庭におけるテレビ視聴やゲーム使用時間などについて各家庭で話し合いやルール作りが行われるよう、積極的な呼びかけを行う。 □学校図書館の活用について、司書教諭や学校司書を中心に、図書館利用計画を明確にし、意図的に学習活動で活用していく。 □保幼小中の連携を図り、合同講演会や情報交換会を実施したり体幹を鍛える運動を行ったりする。
教育委員会	□調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 □教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 □メディア接触や情報モラルに関する教員及び保護者向けの研修会を開催し、家庭や地域と連携して児童生徒の家庭生活の見直しを図っていく取組を支援する。

い つも確認 家庭のルール

ず っと続ける 家庭学習

も っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大社小学校

記号について

○: 成果

●: 課題

□: これからの取組

1 本校の結果の概要

- 全体的に基礎的な力がついてきたが、読み取ることに課題がある。
- 無解答率が低く、特に活用問題に粘り強く取り組むことができている。
- 市学力調査では、学年や教科の内容によって理解度にばらつきがある。

《国語》

- 作文を書く力がついてきている。
- 文章の内容を読み取ることに課題がある。

《算数》

- 基礎的な計算力がついてきている。
- 自分の考えをわかりやすく説明することに課題がある。

《社会》

- 見学や調べ学習をした内容は、概ね理解している。
- 資料と実際の生活を結び付けて考える力に課題がみられる。

《理科》

- 実際に実験したり観察したりした単元については概ね理解している。
- 実験や観察から得られた結果をもとに、論理的に考えたり、表現したりすることに課題がある。

2 分析結果と改善策

(1) 各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○学力調査の結果から学習したことを活用する力がついてきている。 ○作文や記述問題などの書く力が付いている。 ●必要なことをメモしながら聞き取る力が弱い ●文章を読み取る力が弱い。	□メモを取りながら聞く練習を日頃から行う。 □家庭学習などで読み取りを中心にしたプリントに取り組む。
	5年	○学力調査の結果から、どの領域も目標値を上回っており、力が付いていると言える。 ○文章を正しく音読することができる。 ●ローマ字の読み書きに課題がある。 ●自分の気持ちを表現することに苦手意識をもつ児童が多い。	□ローマ字のテストを計画的に行う。 □様子や気持ちが表現されている日記や作文を紹介したり、スピーチや対話スキルアップタイムなどで、話す経験を増やしたりして、表現する力をつける。
	6年	○条件を付けた作文は書くことができる。 ○敬語選択や文意に合う漢字選択の正答率が高かった。 ○全体的に基礎力がついてきた。 ●文の構成を意識して正しく書く力が弱い。 ●目的に応じた情報を捉えたり、情景描写から心情を捉えたりする読み取りの力が十分でない。	□子供たち同士で互いの作文を評価し合う場面を増やす。 □声に出して読む機会を増やしたり、情景描写を起点にする学習活動を強化する。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○学力調査の結果から、基礎的な力については、算数に対する学習意欲も高い。 ●時刻・時間の学習に抵抗をもつ児童がいる。 ●理由を記述する問題に無解答の児童が多い。	□復習プリントを計画的に行ったり、日常生活と結びつけながら力を付ける。 □授業の中で、根拠を明らかにするような問いかけをしたり、友だちと理由を話し合い、ボードやノートにかいて説明し合ったりする活動を取り入れる。
	5年	○学力調査の結果から、4領域すべてで力がついている。 ○自分の考えをみんなの前で説明しようとする児童が多い。 ●図形の面積や単位換算、対角線の性質の理解に課題がある。	□継続的に復習プリントに取り組む。 □折にふれ、学習内容を生活場面でも取り上げる。
	6年	○昨年に比較して、全般的に基礎的な力がついてきている。 ○数直線の意味を理解したり、活用したりする力が付いてきている。 ○角の大きさ、円周率の理解や求め方が正しくできる。 ●問題文を読む力に課題がある。 ●資料から必要な情報を選択し、答えを導く力が弱い。 ●空間の中の位置を表現したり、円の求め方を直径の求め方と混合したりする。	□操作活動を通して、イメージがもてるようにし、図や絵で表して考える方法を提示する。 □問題文を図や表で表したり、説明させたりする機会を増やす。 □復習プリントを用いて、繰り返し練習問題に取り組めるようにする。
社会	5年	○学力調査の結果では、どの領域も目標値を上回っている。 ○見学したことや自分たちの生活に身近な事柄に関する知識がある。 ○資料を読み取る力がある。 ●資料から読み取ったことから考えたり表現したりする力が弱い。	□学習のまとめや振り返りの時間をしっかりと取り、書いたことを互いに知らせ合う。
	6年	○工業生産（自動車をつくる工業）の内容の定着率がよい。 ○季節風の影響について正答率が高い。 ●資料（グラフ、地図）から読み取る力に課題がある。 ●読み取り考える、読み取り考えて表現する等、つなげて考える力が育っていない。 ●世界の中の国土、工業生産と工業地域の正答率が低い。	□資料の見方や比べ方、書き方のパターンを示して、児童が取り組みやすいようにする。 □位置情報・自然条件等の項目ごとに整理・復習をする。
理科	5年	○学力調査の結果では、どの領域も目標値を上回っている。 ○実験や観察に対する意欲が高く、予想や結果をきちんとノートにまとめることができる。 ●実験や観察の結果から、考察をする力が弱い児童がいる。 （学習のまとめや振り返りの時間をしっかりと取り、書いたことを互いに知らせ合う）	□学習のまとめや振り返りの時間をしっかりと取り、書いたことを互いに知らせ合う。
	6年	○「流れる水のはたらき」についての理解が進んでいる。 ○「人や動物のからだのつくり」についての正答率が高い。 ●乾電池のつなぎ方と電流の向き、物を水に溶かした時の体積と重さなどの基礎的な内容が弱い。 ●正しい観察の仕方や実験方法についての応用力が弱い。	□復習プリントを用いて、繰り返し練習問題に取り組めるようにする。

(2)市教育委員会の改善策

- 教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「読解力の育成」）について、指導と助言を行う。
- 出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。
- ICT機器等の整備を推進することにより、各学校における授業改善や児童生徒の学習意欲向上を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 ○「先生はあなたのよいところを認めてくれているか」の問いに肯定的な回答が約80%で学習や生活で認められているという満足感をもっている。 ○「算数の授業の内容はよく分かりますか」「算数の勉強は大切だと思いますか」の問いに肯定的に答えた割合がいずれも80%前後である。算数の授業改善の取り組みの効果が出ていると言える。 ○「理科の観察や実験を行った」と答えた割合が高く、実感を伴った学習が児童の理解を高めている。 ●「学校のきまりを守っているか」との問いに守っていると答えた割合が、全国平均に比べ約20ポイント下回っている。自分自身の行動を素直に振り返ることができていることを改善につなげたい。学習への集中力も高まると考える。
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 ○テレビゲームの時間は、1時間より少ないが約半数いる。意識調査の結果からも、家庭で何らかの約束を決めて行っている様子がうかがえる。 ○地域社会などでボランティア活動に参加している割合が、70%以上と地域への関心が高いと言える。 ●「学校の宿題をしていますか」や「授業の予習・復習をしていますか」という問いに「している」と答えた割合が、全国平均に比べ約20ポイント下回っており、家庭学習への意欲や取組に課題がある。 ●読書のために図書室を利用する人数は増えているが、1日当たりの読書の時間は10分以上30分未満が最も多く約45%であり、読書時間が短い。2時間以上読む児童の割合は10%もいることから、読書量に個人差があると言える。 ●就寝について望ましい生活習慣が身につけていない児童が多い。
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 ○健康教育：チャレンジ週間や学校保健委員会の取組で、基本的な生活習慣により結果が表れつつある。 ○ふるさと教育：より多くの地域の「人・もの・こと」を活用した学習活動を行い、地域をより深く理解し、地域を愛する心情を育んでいる。地域のボランティア活動に参加したりする割合も高くなっている。 ○道徳教育：相手のことを思いやり、粘り強くがんばる児童の育成を重点目標にし、児童がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことをめざしている。 ○対話スキルを朝活動で実施したり、校内研究で対話の場を取り入れたりして、みんなで深め合う学習を展開することをめざしている。

(4)学習状況改善への取組

家 庭	☐ 学校保健委員会や町内保幼小中連携によるチャレンジ週間を中心に、基本的な生活習慣を見直す機会を設けたり、学習環境を整えたりする。 ☐ 質のよい睡眠について考え、親子で話し合ってきまりを作り実践する。 ☐ 「家庭学習の手引き」を読み、「学年×10分+10分」の家庭学習の時間を確保する。 ☐ 家庭での読書の推進を図る。
学 校	≪授業改善を図るために≫ ☐ 1時間の授業に「めあて」を提示し、「まとめ」と「ふりかえり」を行うことにより、学習内容の定着を図る。 ☐ ペア対話やグループでの話し合いの場を設定し、自分の考えを伝える場面を増やしたり、教えあうことで考えを深めたりする。 ☐ 図や文章を使って自分の考えを説明したり、討論したりする場を設定し、思考力・表現力を高める。 ☐ I C T機器や視聴覚教材を効果的に使用する。 ☐ T Tや少人数指導、習熟度別学習を取り入れる。 ≪基礎学力の充実を図るために≫ ☐ 朝のパワーアップタイムを工夫する。 ※月、水、木:読書 火:算数(100ます計算など) 金:国語・対話スキル ☐ 地域ボランティアによる朝の読み聞かせや、ブック委員会の活動等によって、読書活動を推進する。 ☐ 基礎学力定着・補充のために「ま〜なびタイム(補充学習)」を設ける。 ≪家庭学習への意欲を高めるために≫ ☐ 自主学習ノートのよい活用例を紹介する。 ☐ 「家庭学習のしおり」を再検討し、学習時間の確保や学習内容について保護者へ協力を依頼する。 ≪学習に向かう体づくりを図るために≫ ☐ 毎朝「パワーアップ体操(体幹トレーニング)」を行う。
教育委員会	☐ 調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 ☐ 教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 ☐ 保幼小・小中連携を推進し、校種間で連携して基本的な生活習慣の定着や学力育成が図られるよう支援する。

い つも確認 家庭のルール

ず っと続ける 家庭学習

も っと話そう 学校のこと

平成30年度 全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立荒木小学校

記号について

○: 成果

●: 課題

□: これからの取組

1 本校の結果の概要

(4年生)

○基礎的な学習の理解や読み取りの力は付いている。

●自分の伝えたいことを文章で書く力はやや弱い。

(5年生)

●複数の資料を読み取ったり、文章の要旨を読み取ったりする力が弱い。

●自分の伝えたいことを文章に書いたり、説明したりする力が弱い。

(6年生)

○5年生の12月に行った県の学力調査の時より、国語、算数ともに平均正答率では改善が見られる。

●目的や意図に応じて、自分の考えを文章に書いたり、説明したりする力が弱い。

2 分析結果と改善策

(1) 各教科の結果分析と改善策

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
国語	4年	○漢字の読み・書き、ローマ字のつづりを理解している。 ○話し方の工夫に注意して聞き取ることがおおむねできている。 ○場面の様子や登場人物の気持ちを読み取ることができている。 ●文の構成（主語・述語）についての理解が不十分である。 ●中心を明確にしたり、具体例を挙げたりして文章を書くことが不十分である。	□授業や日常生活の中で、主語・述語を意識できるような場面をつくったり声がけをしたりする。 □朝学習で、条件付き短作文を書く時間を設ける。 □教科書以外の文章を読み取るプリントを家庭学習に取り入れる。
	5年	○文の構成を理解している。 ○場面の様子の読み取りができている。 ●段落の役割を理解して、文章の内容を読み取ることが不十分である。 ●目的や必要に応じて、文章を書くことが不十分である。	□国語辞典や、漢字辞典を使う宿題を出し、日常的に辞典を使った学習ができるようにする。 □朝学習で、条件付きの短作文を書く時間を設ける。 □新聞を読んで、読み取ったことや感想を書く時間を設ける。 □自分の立場を明らかにし、自分の意見を根拠づけながら説明できるような学習場面を意図的に組んでいく。 □教科書以外の文章を読み取るプリントを家庭学習に取り入れる。 □説明文教材において、段落構成について話し合ったり、段落を要約したりする学習を重点的に行う。
	6年	○話し合いの中で質問や意見の意図をとらえることはできている。 ●文の要旨や意図を的確に読み取る力が弱い。 ●目的や意図に応じて、自分の考えを文章に書くことが不十分である。	□新出漢字を使った熟語やことわざ、慣用句などの調べ学習を通して語彙力をつける。 □授業の終末や家庭学習で、キーワードを使って学習のまとめを書く活動を出し、要点を分かりやすく伝える力を伸ばす。 □朝学習で、条件付き短作文を書く時間を設ける。 □教科書以外の文章を読み取るプリントを家庭学習に取り入れる。

教科	学年	分析結果・課題	課題に対する学校の改善策
算数	4年	○たし算、ひき算、かけ算、わり算などの計算は理解している。 ○円と球、三角形などの図形の意味や作図について理解できている。 ●分数や時間の量感の理解が不十分である。	□日常生活の中で、時間を意識させるようにする。 □4年生の分数単元をスモールステップで行い、図や言葉で説明する活動に力を入れる。（ペアやグループで相手に分かるように説明する。） □朝学習に分数や時間の復習プリントを取り入れる。
	5年	○小数や分数の計算はおおむねできている。 ○分度器の使い方は理解できている。 ●自分の考えを式や言葉を使って説明することが不十分である。 ●文章問題から式を考えることが不十分である。	□自分の考えを書いたり、ペアやグループで話し合ったりする場面を計画的に設定するなど、子供同士が教え合う、学び合いの学習に取り組めるようにする。 □朝学習で文章問題のプリントに取り組む。
	6年	○数量や図形についての基礎的な知識・理解はできている。 ●題意を理解して、立式する力が弱い。 ●数と計算領域において、根拠や規則性を説明する力が弱い。	□四則計算の混じった文章題を解いたり、決められた式から文章題を作ったりして、立式する力をつける。 □自分の考えを書いたり、ペアやグループで話し合ったりする場面を計画的に設定するなど、子供同士が教え合う、学び合いの学習に取り組めるようにする。
社会	5年	○都道府県の名称と位置を理解している。 ○交番の働きや、ダム必要性について理解している。 ●資料を読み取って考えることが不十分である。 ●土地の断面図の読み取りが不十分である。	□読み取ったことを、全体場で表現し広げる活動を通して、思考を広げたり深めたりする。 □グラフ、写真、図、表等の資料から読み取ったことをまとめる学習を充実させていく。 □断面図の読み取りに関しては、補充学習を行う。また今後、中学年の地図学習の中で、断面図の読み取りを丁寧に扱うことを共通理解しておく。
	6年	○国土の自然などの様子、農業や水産業についてはおおむね理解している。 ●複数の資料を関連させて読み取ることが不十分である。 ●社会事象からわかることを、まとめて整理することが苦手である。	□見学や資料から読み取ったことを整理する時に、視点を示して書く時間を設定する。 □読み取ったことを、全体場で表現し広げる活動を通して、思考を広げたり深めたりする。
理科	5年	○ものの体積、動物のからだ、1年間の動物の様子についてはおおむね理解できている。 ●物理分野、特に「電気」に関する理解が不十分である。	□既習学年の内容を復習してから、学習に入るようにする。 □理科で使う用語・キーワードをきちんとおさえるようにする。 □誰もが観察・実験できるようにし、観察、実験したことを一人一人がまとめていくようにする。 □5年生における「電気」の学習の導入段階で、4年生までの学習内容を丁寧に復習する。
	6年	○自然事象についての理解はおおむねできている。 ●正しい観察や実験の方法を構想する力が不十分である。 ●実験結果を分析して考察することが不十分である。	□実験や観察で何を確かめるのか目的意識をもち、観察や実験方法を考えさせるようにする。 □予想や結果から考察できることを個々で表現する時間を設定する。個々の考えをもってから、友達の考えと交流をすることで、思考力を育てる。 □実験の中で、器具などの正しい使い方のポイントを具体的に確認する。

(2)市教育委員会の改善策

□教育指導監の学校訪問において、「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善について指導と助言を行う。また、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析及び改善策」で挙げられた学校の改善策（特に「書く力の育成」）について、指導と助言を行う。

□出雲市学力向上研修（＋1講座）、授業公開、各種研修会を開催し、教員の授業力向上を図る。

□学校司書や読書ヘルパーを配置し、各学校における学校図書館を活用した学習や読書活動の推進を支援する。

(3)学習状況調査の結果

項 目	分 析 結 果 ・ 課 題
①学習に関すること	【学習に関すること】 () の数字は全国平均と比べて ○自分で計画を立てて勉強している児童が多い。(＋１０ポイント) ○家の人に言われなくても勉強に取り組んでいる児童が多い。(＋１０ポイント) ●高学年でマンガ以外の本を読む児童が少ない。(－２０ポイント) ●勉強に辞書やパソコンを使っている児童が少ない。(－２０ポイント) ●学校から出された宿題はやっているが、それ以上の学習(通信添削や自学も含めて)には力を入れていない児童が多い。(－２０ポイント) ●学校で習うことの、予習、復習をしている児童が少ない。(－５ポイント)
②家庭生活に関すること	【家庭生活に関すること】 () の数字は全国平均と比べて ○朝食を家の人と一緒に食べている児童が多い。(＋７ポイント) ○自分で決めてテレビを見ている児童が多い。(＋１４ポイント) ●家の人と決めた約束やきまりを守っている児童がやや少ない。(－５ポイント)
③学校独自の取組に関すること	【学校独自の取組に関すること】 () の数字は全国平均と比べて ●話し合いで、自分の考えを進んで話している児童が５０％～６０％と少ない。 ●伝えたいことを明らかにして自分の考えを話したり書いたりすることに抵抗がある児童が多い。(－５ポイント) ●話し合いで、相手の話をしっかり聞き取ることができない学年もある。(－５ポイント)

(4)学習状況改善への取組

家 庭	□「家庭学習のしおり」や学級だよりを読んだり、授業公開日の懇談等に参加したりして、家庭学習や自学の取り組みについて知る。 □チャレンジ週間（早寝早起き朝ごはん、メディア時間の短縮等）の取組の中で家庭学習時間をチェックし、親子で家庭学習への意識を高める。 □長期休業中に学校から出される「家読（親子で一緒に読書に取り組む）」に取り組む。
学 校	□各クラス、「本曜日」を設けて、本を借りることの習慣化を図る。 □本を紹介したり、ブックトークをしたりして、本に興味をもたせるようにする。 □内容が充実している自学ノートを紹介したり、「家庭学習の手引き」を使ったりして、自学の内容を充実させていく。予習や復習の大切さを伝えていく。 □朝学習（朝学習）で、条件付きの短作文を書く時間を設けていく。 □子供同士が自分たちの考えを話し合いながら授業を進めていく、学び合いの授業に取り組んでいく。また、学び合いが効果的にできる学習集団の育成を目指して、継続的に取り組む。 □「話すこと・聞くこと」の話型を掲示することによって、話し合い活動を充実させていく。 □教科書以外の文章を読み取るプリントを家庭学習に取り入れる。
教育委員会	□調査結果について市全体の状況を分析して保護者向けリーフレットやポスターを作成し、家庭学習や生活習慣等について学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう支援する。 □教育委員会が実施する放課後学習等支援事業への参加を呼びかけ、児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上についての支援を行う。 □アンケートQ－U活用の研修会を実施し、教員が多面的な児童生徒理解に基づいた指導を行えるよう支援する。

